

分布調査報告書(28)

2002

山形県教育委員会

分布調査報告書(28)

平成14年3月

山形県教育委員会

序

本書は、山形県教育委員会が平成12年度に実施した遺跡詳細分布調査の成果をまとめたものです。

平成7年度を初年度とする第四次山形県教育振興計画では「感性豊かな教育と文化の創造」をテーマとし、その中で、文化財の保存と活用については、文化財基礎調査や遺跡詳細分布調査を計画的に実施すること、埋蔵文化財基本台帳等の整備を図り、文化財情報システムの構築や文化財の周知の徹底・普及に努めることが大きな柱とされました。

遺跡詳細分布調査は、本県の「新総合発展計画」に基づく各種開発計画と埋蔵文化財包蔵地の保護のための調整を第一目的としています。また、山形県教育委員会では、現在、遺跡情報の整備を進めておりますが、その基本的な情報として大切な資料となるものでもあります。

本書は、平成12年度の各種開発事業計画と埋蔵文化財包蔵地保護の調整の結果及び経過を記録したものであると同時に、調査結果に基づいて埋蔵文化財包蔵地のこれまでの所見を必要に応じ改訂し、その結果の周知を図ることも併せもつものです。今後の文化財保護に活用していただければ幸いです。

平成14年3月

山形県教育委員会

教育長 木村 宰

例 言

- 1 本書は平成12年度に山形県教育委員会が国庫補助を受けて実施した平成12年度以降農林土木事業関係遺跡他に関する遺跡詳細分布調査の報告書である。
- 2 報告書の作成は山形県教育庁社会教育課文化財保護室の長橋至・佐藤庄一・阿部明彦の3名が担当した。
- 3 第Ⅰ章に平成12年度の調査遺跡一覧を、第Ⅱ章に個々の調査結果を記した。新規発見遺跡・登録抹消遺跡・範囲・位置の変更については、本書の発行をもって周知されたものとする。
- 4 挿図の縮尺は不統一であり、各図毎にスケールを示した。遺跡位置図は国土地理院発行の2万5千分の1の地図を使用した。なお、第Ⅱ章2以下はこれをさらに縮小して使用した。
- 5 挿図及び文中の記号は以下のとおりである。
T、TTは発掘溝、試掘溝、TP・○は試掘坑を表す。挿図中の赤色部分は遺構・遺物検出、黒色部分は遺構・遺物未検出を示す。
遺跡位置図の赤色部分は、範囲を示す。
RP—土器、RQ—石器、ST—竪穴住居跡、SB—建物跡、SK—土坑、SD—溝跡、EB—掘り方、SP・EP—柱穴、SX—性格不明落込み、SG—河川跡を示す。
- 6 図版の遺物は2分の1と3分の1を原則としている。
- 7 調査にあたっては、関係各機関・市町村教育委員会及び地権者各位、地元関係者の御協力を得た。ここに記して感謝申し上げる。

目 次

I 調査の目的、方法と経過	
1 調査の目的、方法	1
2 調査の経過	1
II 調査の概要	
1 遺跡地名表	
(1) 県農林事業関係遺跡	4
(2) 県土木事業関係遺跡	4
(3) 県健康福祉部・企業局関係遺跡	6
(4) 国土交通省関係遺跡	6
(5) 日本道路公団関係遺跡	6
2 試掘調査の概要	
(1) 釜淵C遺跡	18
(2) オクミ館跡	24
(3) 堀端遺跡	28
(4) 上福田遺跡	30
(5) 小山遺跡	32
(6) 岩木B遺跡	34
(7) ニツ橋遺跡	36
(8) 渋江遺跡	38
(9) 向河原遺跡	40
(10) 影沢北遺跡	42
(11) 川端遺跡	44
(12) 北島遺跡	46
(13) 東屋敷遺跡	48
(14) 八幡西遺跡	50
(15) 荒小屋遺跡	52
(16) 下花沢a遺跡	54
(17) 山形元屋敷遺跡	56
(18) 東畑B遺跡	60
(19) 八ヶ森・八ヶ森南遺跡	62
3 記録保存調査・立会調査の概要	
(1) 家根合遺跡	64
(2) 中台I・2・6遺跡	70
(3) 中川原C遺跡	76
(4) ニタ子A遺跡	80
(5) 山形城三の丸跡	82
(6) 山田遺跡	86
(7) 鶴ヶ岡城跡	92
(8) 箕輪遺跡	98
(9) 米沢城跡	102
(10) 黒森遺跡	106
(11) 金沢遺跡	110
(12) 渋江遺跡	114

Ⅲ まとめ

1 新規発見遺跡	124
2 範囲・名称の変更及び登録を抹消する遺跡	124

附表目次

表-1 平成12年度分布調査遺跡一覧	2
表-2 調査工程表	3
表-3 掲載遺跡位置図一覧（2万5千分の1）索引	125

遺跡地名表挿図・図版目次

位置図・図版1 県農林事業関係遺跡	8
位置図・図版2 県農林事業関係遺跡	9
位置図・図版3 県農林事業関係遺跡	10
位置図・図版4 県農林事業関係遺跡	11
位置図・図版5 県農林・土木事業関係遺跡	12
位置図・図版6 県土木事業関係遺跡	13
位置図・図版7 県土木事業関係遺跡	14
位置図・図版8 県土木事業関係遺跡	15
位置図・図版9 県土木・健康福祉部・企業局関係遺跡	16
位置図・図版10 国土交通省・日本道路公団関係遺跡	17

挿図目次

第1図	釜淵C遺跡概要図	19
第2図	釜淵C遺跡検出遺構平面図・断面図(1)	20
第3図	釜淵C遺跡検出遺構平面図・断面図(2)	21
第4図	オクミ館跡概要図	24
第5図	オクミ館跡検出遺構平面図・断面図	25
第6図	堀端遺跡概要図	28
第7図	堀端遺跡検出遺構平面図・断面図	29
第8図	上福田遺跡遺構概要図	30
第9図	小山遺跡概要図	32
第10図	岩木B遺跡概要図	34
第11図	二ツ橋遺跡概要図	36
第12図	洪江遺跡概要図	38
第13図	向河原遺跡概要図	40
第14図	影沢北遺跡概要図	42
第15図	川端遺跡概要図	44
第16図	北島遺跡概要図	46
第17図	東屋敷遺跡概要図	48
第18図	八幡西遺跡概要図	50
第19図	荒小屋遺跡概要図	52
第20図	下花沢a遺跡概要図	54
第21図	下花沢a遺跡遺構配置図	55
第22図	下花沢a遺跡柱状図	55
第23図	山形元屋敷遺跡概要図	56
第24図	山形元屋敷遺跡検出遺構平面図・断面図	57
第25図	東畑B遺跡概要図	60
第26図	八ヶ森遺跡概要図	62
第27図	八ヶ森南遺跡概要図	63
第28図	家根合遺跡概要図	65
第29図	家根合遺跡試掘調査検出遺構平面図・断面図	66
第30図	家根合遺跡立会調査検出遺構平面図・断面図	67
第31図	中台1・2・6遺跡位置図	71
第32図	中台1・2・6遺跡概要図	71
第33図	中台2遺跡検出遺構平面図・断面図	72
第34図	中川原C遺跡概要図	76
第35図	二タ子A遺跡概要図	80
第36図	山形城三の丸跡概要図	82
第37図	山形城三の丸跡階段工A区平面図	83
第38図	山形城三の丸跡階段工B区西側平面図	83
第39図	山形城三の丸跡階段工B区東側平面図	84
第40図	山田遺跡概要図	86
第41図	山田遺跡遺構配置図	87
第42図	山田遺跡北壁・東壁土層断面図	89
第43図	山田遺跡土坑平面図・断面図	89
第44図	鶴ヶ岡城跡概要図	92

第45図	鶴ヶ岡城跡検出遺構平面図・断面図(1)	93
第46図	鶴ヶ岡城跡検出遺構平面図・断面図(2)	95
第47図	箕輪遺跡概要図	98
第48図	箕輪遺跡検出遺構平面図・断面図(1) ST 1	99
第49図	箕輪遺跡検出遺構平面図・断面図(2) ST 2	99
第50図	米沢城跡概要図	102
第51図	米沢城跡 T 2・3 平面図	103
第52図	黒森遺跡概要図	106
第53図	黒森遺跡土層断面模式図	107
第54図	黒森遺跡出土土器拓影図	108
第55図	金沢遺跡概要図	110
第56図	金沢遺跡検出遺構平面図・断面図	111
第57図	渋江遺跡概要図	114
第58図	渋江遺跡遺構配置図・土層断面図	115
第59図	渋江遺跡出土遺物実測図(1)	119
第60図	渋江遺跡検出遺構平面図・断面図	121
第61図	渋江遺跡出土遺物実測図(2)	122

図版目次

図版1	釜淵C遺跡(1)	18
図版2	釜淵C遺跡(2)	22
図版3	釜淵C遺跡(3)	23
図版4	オクミ館跡(1)	26
図版5	オクミ館跡(2)	27
図版6	掘端遺跡	29
図版7	上福田遺跡	31
図版8	小山遺跡	33
図版9	岩木B遺跡	35
図版10	ニッ橋遺跡	37
図版11	渋江遺跡	39
図版12	向河原遺跡	41
図版13	影沢北遺跡	43
図版14	川端遺跡	45
図版15	北島遺跡	47
図版16	東屋敷遺跡	49
図版17	八幡西遺跡	51
図版18	荒小屋遺跡	53
図版19	山形元屋敷遺跡(1)	58
図版20	山形元屋敷遺跡(2)	59
図版21	東畑B遺跡	61
図版22	八ヶ森・八ヶ森南遺跡	63
図版23	家根合遺跡(1)	68
図版24	家根合遺跡(2)	69
図版25	中台2遺跡(1)	73
図版26	中台2遺跡(2)	74
図版27	中台1・中台6遺跡	75
図版28	中川原C遺跡(1)	77
図版29	中川原C遺跡(2)	78
図版30	中川原C遺跡(3)	79
図版31	二タ子A遺跡	81
図版32	山形城三の丸跡	85
図版33	山田遺跡(1)	90
図版34	山田遺跡(2)	91
図版35	鶴ヶ岡城跡(1)	96
図版36	鶴ヶ岡城跡(2)	97
図版37	箕輪遺跡(1)	100
図版38	箕輪遺跡(2)	101
図版39	米沢城跡(1)	104
図版40	米沢城跡(2)	105
図版41	黒森遺跡(1)	107
図版42	黒森遺跡(2)	109
図版43	金沢遺跡(1)	112
図版44	金沢遺跡(2)	113

圖版45	泱江遺跡 (1)	117
圖版46	泱江遺跡 (2)	118
圖版47	泱江遺跡 (3)	123

I 調査の目的、方法と経過

1 調査の目的、方法

本調査は、平成12年度以降に予定されている開発計画等に先行して、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の詳細な分布調査を行い、遺跡の所在、範囲、性格を明らかにし、開発計画との調整をとって、遺跡の保護を図ることを目的とした。なお、一部、今年度までの調査結果に基づき、記録保存や現状保存を目的とする小規模な発掘調査と工事立会いの調査も実施した。

調査は、その目的によって、以下の方法で実施した。

(1) A調査（現地確認調査・表面踏査）

開発事業計画範囲内の表面踏査を行い、遺跡の範囲と事業実施計画区域の平面的な関係を確認し、遺跡の保護を図ることを目的とする。

(2) B調査（試掘調査）

坪掘りやトレンチ掘りを行って遺構や遺物の平面的な分布範囲や、遺構確認面までの深さ等を把握して、開発事業計画との調整をとって遺跡の保護を図ることを目的とする。

(3) C調査（記録保護のための発掘調査）

A・B調査の結果、遺跡の保存状態が良好でない場合や、開発事業にかかる面積が狭い場合や接する場合に、必要に応じて実施する記録保存の調査。方法は発掘調査に準ずる。

(4) 立会い調査

開発事業による遺跡への影響が軽微な場合、工事施工に立ち会って実施する調査。この調査によって、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う。

2 調査の経過

山形県教育委員会では、毎年5～6月に開発関係各機関に、今後の事業計画についての照会を行い、その回答を受けて、7月上旬にヒアリングを実施し、事業計画と埋蔵文化財包蔵地との関係について検討を行っている。そして、この結果に基づいて、必要に応じて分布調査を実施し、事業との調整を図っている。そのほか、開発関係各機関から提出された埋蔵文化財分布調査依頼に基づく調査も随時行っている。今年度の調査は、平成12年4月から平成13年3月まで表-2の工程で、表-1に示した各遺跡の調査を行うとともに事業予定地区内外における埋蔵文化財包蔵地の有無を確認するための表面踏査と試掘調査も実施した。なお、今年度新規登録した遺跡、抹消した遺跡、位置、範囲、遺跡名を訂正した遺跡はⅢ章のまとめに示した。

表-1 平成12年度分布調査遺跡一覧

	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分			
				A	B	C	立会
1	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	家根合地区	家根合	○	○		
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	野中地区	中川原		○		○
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	八敷代地区	中台1				○
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	八敷代地区	中台2				○
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	八敷代地区	中台6				○
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	釜淵地区	釜淵	○	○		
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	釜淵地区	釜淵	○	○		
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	木の下地区	オクミ館跡	○	○		
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	窪田外の内地区	北小屋屋敷	○			
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	窪田外の内地区	高在家跡		○		
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	宮原地区	榎端	○			
	県営ほ場整備事業(担い手育成型)	宮下地区	宮下		○		
	県営ほ場整備事業担い手育成高度利用	天童東部	白山堂	○	○		
県営ほ場整備事業担い手育成高度利用	天童東部	奈良沢	○	○			
2	土地改良総合整備事業	九野本地区	上福田	○	○		
	土地改良総合整備事業	九野本地区	小山	○	○		
3	中山間地域総合整備事業	栗山の里	岩木	B	○		
	中山間地域総合整備事業	栗山の里	法師森		○		
	中山間地域総合整備事業	舟運の郷2期	片倉	台	○		
	中山間地域総合整備事業	舟運の郷2期	寺	台			
	中山間地域総合整備事業	ふじの里東部	西山	3	○		
	中山間地域総合整備事業	下青沢地区	二タ子	A			○
4	農村住環境整備事業	羽黒南部地区	川代山	B	○		
5	農免農道整備事業	高島町亀岡	二ツ橋		○		
	農免農道整備事業	宮平2期	宮山坂	A	○		
	農免農道整備事業	宮平2期	宮山坂	F	○		
6	広域農道整備事業	水芭蕉の丘	鏡代	D	○		
7	地方特定(主)山形羽入線	山形市渋谷	江		○	○	
	地方特定(主)山形羽入線	山形市新井田	向河	原	○		
	緊急地方道(主)天童寒河江線	天童市高掛	影沢	北	○		
	緊急地方道(主)長岡中山線	中山町長崎	川	端	○		
	地方特定(主)長井大江線	朝日町今平	道	下	○		
	国道458号殿上橋築替	寒河江市榮橋	川	口	原	○	
	地方特定(一)大石田土生田線	村山市土生田	北	島	○		
	地方特定(一)大石田土生田線	村山市土生田	道		○		
	道路改善(主)米沢高島線	米沢市上竹井	東	屋敷	○		
	国道287号道路改良	朝日町玉ノ井	上	ノ	山	○	
	国道287号道路改良	長井南バイパス	八	幡	西	○	
	国道287号道路改良	長井南バイパス	荒	小	屋	○	
	主要地方道温海川木野俣大岩川線	温海町大岩川	家	の	平	○	○

	事業名	事業地区名	道路名	調査区分			
				A	B	C	立会
8	都市計画街路事業	東原村木沢線	山形城三の九路				○
	都市計画街路事業	米沢駅東線	花沢 a	○	○		
	都市計画街路事業	藤島駅笹花線	藤島城跡		○		
	都市計画街路事業	山田善宝寺線	山田				○
	都市計画街路事業	羽黒橋加茂線	鶴ヶ岡城				○
9	都市公園整備事業	最上川ふるさと総合公園	高瀬山		○		
10	河川整備促進事業	花川住宅地間通	山形元屋敷	○	○		
	嵐気川清流雪導入事業	尾花沢市尾花沢	赤森山		○		
11	火山砂防事業	新行寺沢ダム取合工事	貨輪道路	○			○
	通電砂防事業	ヘコミ沢砂防ダム	志茂の手館跡	○			
12	最上川下流域城下水道事業	酒田市広野	大日塚				○
13	置賜広域文化施設	米沢市	米沢城跡				○
14	東北公益文化大学	鶴岡市	鶴ヶ岡城跡				○
15	派出所移転	鶴岡市	鶴ヶ岡城跡				○
16	県立教護施設	河北町吉田	因ッ塚				○
17	置賜広域水通用水供給事業	米沢市	田代	○			
	置賜広域水通用水供給事業	米沢市	赤群 b	○			
18	赤川放水水路	酒田市	黒森				○
	国道113号道路改良	赤湯バイパス	東畑 B		○		
	最上川護岸工事	大石田白鷺	白鷺墓地前		○		
19	日本海沿岸東北自動車道	温海町大岩川	家の平		○		
20	新都市整備事業	山形ニュータウン	八ヶ森				○
	新都市整備事業	山形ニュータウン	八ヶ森南				○
21	村木沢住宅団地	山形市村木沢	金沢				○

表-2 調査工程表

事業名	平成12年												平成13年			平成14年	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	1月	2月			
県農林・土木事業関係	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
国土交通省・道路公団 地域振興公団他関係		—			—	—	—	—	—								
平成12年度以降の遺産文化財包括 地に係る関係事業(前年の継承)				—													
遺物資料整理										—	—	—					
報告書原稿作成													—	—			

II 調査の概要

1 遺跡地名表

(1) 県農林事業関係遺跡

No	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	集落跡	釜淵 D	最上郡真室川町大字釜淵字五郎前	縄文時代	段丘 (119m)	水畑 田地
2	集落跡	北小屋敷	米沢市窪田町窪田字北小屋敷	古墳時代 中世～近世	沖積地 (218m)	水畑宅 田地
3	城館跡	高在家館跡	米沢市窪田町窪田字高在家	中世～近世	段丘 (218m)	水畑宅 田地
4	散布地	宮下	村山市大字白鳥字宮下	縄文時代	台地 (113m)	水畑 田地
5	集落跡	白山堂	天童市大字奈良沢字長谷川(白山堂)	縄文時代 平安時代	段丘 (131m)	畑 地
6	集落跡	奈良沢東	天童市大字奈良沢字本郷	縄文時代	微高地 (138m)	畑水 地田
7	包蔵地	法師森	西村山郡河北町谷地沢畑 11391	旧石器時代 弥生時代	丘陵 (125m)	畑 地
8	散布地	片倉台	最上郡戸沢村大字角川字片倉 3758	縄文時代	山麓 (180m)	畑 地
9	散布地	寺台	最上郡戸沢村大字角川字寺台	縄文時代	台地 (130m)	畑 地
10	——	西山 3	東田川郡藤島町大字漆川字西山	縄文時代	丘陵 (64～67m)	畑果樹 地
11	——	川代山 B	東田川郡羽黒町大字川代字川代山	縄文時代	台地 (90m)	畑果樹 地
12	散布地	宮山坂 A	飽海郡遊佐町大字吉出字宮山坂71	縄文時代	山麓 (60m)	荒山 地林
13	散布地	宮山坂 F	飽海郡遊佐町大字吉出字宮山坂71、39、40	旧石器時代	山麓 (83m)	畑山 地林
14	集落地	榎代 D	東田川郡榎引町大字榎代字小文地桶399	弥生時代	丘陵 (263m)	畑水 地田

(2) 県土木事業関係遺跡

No	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
15	包蔵地	道下	西村山郡朝日町大字今平字道下75	縄文時代	丘陵 (200m)	水 田
16	散布地	河口原	寒河江市大字中郷字川口原	縄文時代	段丘 (118m)	畑水 地田
17	散布地	道出	村山市大字土生田字道出1638—1他	縄文時代 平安時代	山麓斜面 (73m)	畑 地

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
J R奥羽本線釜淵駅南側約1.8km、堀根川と春木川の合流点北側の河岸段丘に立地する。今回は遺物は未表採であった。	なし	No994
米沢市北部、高島町に隣接した米沢市北小墾地区の北西に位置する。平成11年度に試掘調査をしており、今回は水路部分の確認を行った。	なし	米沢市遺跡番号 No495
米沢市北部にあり、最上川左岸の河岸段丘上に立地する。平成11年度に試掘調査をしており、今回は西側の3地点の試掘を行った。	なし	米沢市遺跡番号 No496
従来トボウ遺跡の所在地点と考えられていた所である。集落北側の畑地などに割片等が散布することから可能性地と把握される。	なし	平成11年度現地確認 平成12年度北側の一部について試掘調査
倉津川と正法寺川との合流点南側に位置する。上下二面の段丘面に遺物の散布が認められ、上位が縄文、下位は平安時代が中心である。	土師器	遺跡東辺部の現奥下を試掘 No266
正法寺川と峰谷川との合流点すぐの南側、峰谷川左岸沿いに位置する。	土師器	No267
葉山南麓山地から平野への変換域に位置する。遺跡からは、小形ナイフや小形瑠璃が見つかっており注目される。	旧石器・弥生土器 今回はなし	No470 宇野修平昭37「村山考古4」
沢内川の上流部、片倉集落の西側山麓に位置する。遺跡は、昭和40年代の閉塞によって発見されたが、現在ではほとんど採集できない。	なし	No1105
沢内川の左岸台地上に位置する。広階段の真手にあたり、発達した舌状台地が南北にのびる。遺跡はその北東端部を占拠している。	石器割片若干	No1110
羽黒高等学校の東北東2kmの丘陵上に立地する。今回は農道工事の進捗よく状況の確認のため現地踏査を行なった。工事は平成13年予定。	縄文土器片、割片	平成11年度登録
羽黒町南部、庄内平野を臨む丘陵に立地する。今回は、遺跡東側隣接部分の農道予定地の試掘調査を実施。遺構・遺物は未検出。	なし	No1892
岩野へ通じる坂道の東側に位置する。遺跡は南側に張り出す丘陵の先端にあったが、閉塞により大部分が破壊されたと考えられる。	なし	No2137
開田によって発見された旧石器時代の遺跡であるが、現地表面での散布は認められない。	なし	No2142
羽黒町権代外山道地区と小文地補地区のほぼ中間に位置する。現道延伸の農道工事予定地を踏査。	なし	No1938

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
今平集落の南側、眺望の良い丘陵端部の高台を占拠している。	今回はなし	No536
最上川右岸、左沢の対岸に位置する。今回は国道458号最上川橋架替工事に伴い試掘調査を実施。路線内では遺構は未検出。	縄文土器片	平成4年度登録 平成12年11月県教委試掘調査実施
J R 袖崎駅の北東1.8kmに位置する。今回は県道大石田土生田線道路改良に係る試掘調査を実施。調査対象地は遺構・遺物は極めて希薄。	縄文土器片、割片、須恵器片、赤焼土器片	平成11年度登録 平成12年6月県教委試掘調査実施

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
18	散布地	うん 上 の 山	西村山郡朝日町大字玉ノ井字上ノ山麓	縄文時代	段丘 (135m)	畑地
19	散布地	いん 家の の 平	西田川郡温海町大字大岩川字家の平	縄文時代	山麓 (20~24m)	水田
20	城館跡	ふじ 藤 の 島 城	東田川郡藤島町中町	室町時代 戦国時代	平地 (11m)	字宅道 校地路
21	集落跡	たか 高 の 山	寒河江市大字高瀬山	旧石器時代 中世	段丘 (101m)	公園果樹 園地
22	集落地	あか 赤 の 森 山	尾花沢市大字尾花沢字赤森山	縄文時代	山麓 (112m)	畑地
23	城館跡	しん 志 茂 の 手 館	最上郡最上町大字志茂字上野	戦国時代	山頂 (270m)	山林
24	集落跡	ひい 大 の 日 塚	酒田市大字広野字大日塚	奈良時代 平安時代	平地 (5m)	水宅道 田地路

(3) 県健康福祉部・企業局関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
25	集落跡	よ 四 ツ 塚	西村山郡河北町大字吉田字馬場	奈良時代 平安時代	山麓 (102m)	畑地 施設
26	集落地	と 田 の 代	米沢市大字築沢字田代原	縄文時代	段丘 (380m)	宅水畑 地田地
27	集落跡	いん 糸 の 野 b	米沢市大字築沢字組ノ下536他	縄文時代	段丘 (400m)	水山 田林

(4) 国土交通省関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
28	集落跡	しろ 白 鷺 の 墓 地 前	北村山郡大石田町大字大浦字白鷺原1648	縄文時代	段丘 (70m)	畑水 地田

(5) 日本道路公団関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
29	散布地	いん 家の の 平	西田川郡温海町大字大岩川字家の平	縄文時代	山麓 (20~24m)	水畑 田地

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
最上川右岸の段丘上に立地する。国道287号明鏡橋架替工事関連で現地踏査。平成13年度試掘調査実施予定。	なし	平成4年度登録
日本海に面する大岩川地区の東方約1kmの山麓に位置する。今回は県道温海川木ノ原大岩川線道路改良に係る試掘調査を実施。遺構未検出。	なし 地権者保管の遺物を掲載。	平成12年度新規 平成12年11月県教委試掘調査実施
鹿島町の中心部に位置する。今回は、都市計画街路工事に係り、現道下を中心に試掘調査を実施。道路・宅地による視乱で対象地は破壊。	なし	No1716 平成12年11月県教委試掘調査実施
最上川左岸の大遺跡。今回は、新堰の再建設工事に係り、予定地を試掘調査。対象地は大平が既建設管工事と重複となる。	土師器片	No430他 平成12年10月試掘調査実施
鷹気川右岸の河岸段丘上に位置する。試掘トレンチに縄文時代の落し穴様の遺構が検出された。地形から見て小規模な遺跡と考えられる。	今回はなし	平成12年度登録
小国盆地の西北隅に位置する志茂集落裏手の山頂を占地する城館跡。小国城主細川直元の弟帯刀直重が館主と伝えられるが確証はない。	今回はなし	平成8年度登録(山形県中世城館遺跡調査報告書第3集)
末広地区の宅地と水田に立地する。今回は下水道管路施設部分7×5mを立会調査。遺構・遺物は未検出。	なし	No2069 平成12年8月県教委立会調査実施

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
平成11年～13年発掘調査実施。今回は、平成13年発掘予定地の建造物解体工事立会調査を実施。遺跡に影響のない工事とする。	なし	No481 平成12年10月県教委解体工事立会
網木川左岸の河岸段丘上に位置する。一帯は宅地・水田・畑地であり、東西100m、南北300m程のひろがりか推定される。	なし	米沢市遺跡番号 H-198
網木川左岸、一ノ沢右岸の段丘上に位置する。遺跡は、東側に張出す舌状台地を占地し、東西100m、南北150m程のひろがりか推定される。	なし	米沢市遺跡番号 H-202

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
最上川段丘縁辺に立地する。護岸崩落により一部切り土工事に係る立会調査を実施。遺構は新しい土坑1。遺物は出土しない。	なし	No836 名称変更(大石田町) 墓地南→白鷺墓地前

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
日本海に面する大岩川地区の東方約1kmに位置する。今回は高速道予定地について試掘調査を実施。対象地は改田で遺跡はなし。	なし	平成12年度登録 平成12年11月県教委試掘調査実施



釜淵D遺跡



釜淵D遺跡近景（東から）



北小屋屋敷遺跡



北小屋屋敷遺跡遠景（西から）



北小屋屋敷遺跡水路部分（西から）



高在家館跡

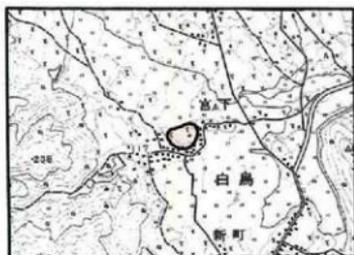


高在家館跡試掘調査状況（北から）



高在家館跡試掘調査状況

遺跡地名表 位置図・図版1（県農林事業関係遺跡）



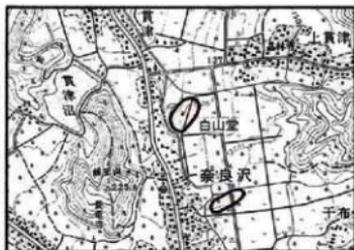
宮下遺跡



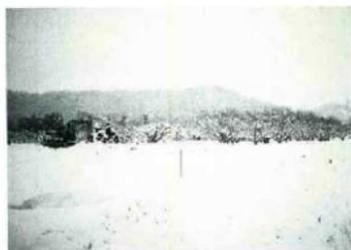
宮下遺跡遠景 (西から)



宮下遺跡 TT3 (北から)



白山堂・奈良沢東遺跡



白山堂遺跡近景 (東から)



白山堂遺跡試掘坑



奈良沢東遺跡近景 (南から)



奈良沢東遺跡出土物

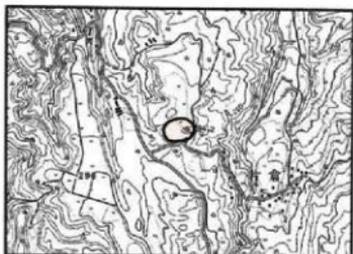
遺跡地名表 位置図・図版2 (県農林事業関係遺跡)



法師森遺跡



法師森遺跡近景 (南から)



片倉台遺跡



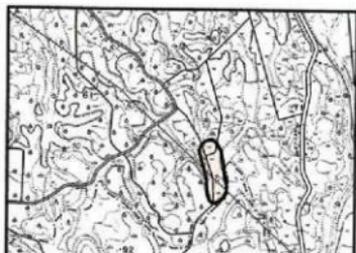
片倉台遺跡近景 (南西から)



寺台遺跡



寺台遺跡近景 (南西から)

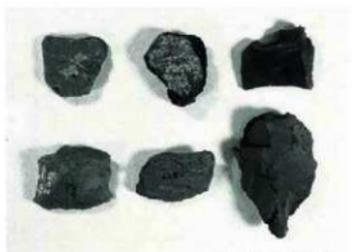


西山3遺跡



西山3遺跡近景 (西から)

遺跡地名表 位置図・図版3 (県農林事業関係遺跡)



西山3遺跡表採遺物



西山遺跡近景 (東から)



川代山B遺跡



川代山B遺跡近景 (東から)



川代山B遺跡 T P 1



宮山坂A・F遺跡



宮山坂A遺跡近景 (南から)



宮山坂F遺跡近景 (西から)

遺跡地名表 位置図・図版4 (県農林事業関係遺跡)



榎代遺跡



榎代D遺跡近景 (南から)



榎下遺跡



榎下遺跡近景 (南から)



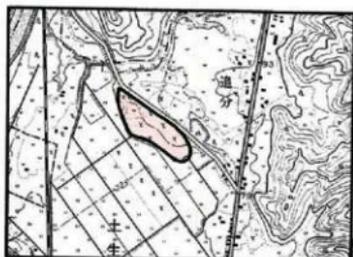
川口原遺跡



川口原遺跡近景 (北から)



川口原遺跡出土遺物



道出遺跡

遺跡地名表 位置図・図版5 (県農林・土木事業関係遺跡)



道出遺跡近景（東から）



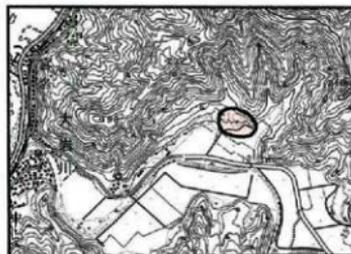
道出遺跡出土遺物



上ノ山遺跡



上ノ山遺跡近景（南東から）



家の平遺跡



家の平遺跡遠景（南から）



家の平遺跡近景（北東から）



家の平遺跡出土遺物（地権者保管）



藤島城跡



藤島城跡近景 (東から)



藤島城跡T 4 (南から)



高瀬山遺跡



高瀬山遺跡調査区近景 (西から)



高瀬山遺跡トレンチ (1P8地点)



高瀬山遺跡トレンチ (1P8+40m)



高瀬山遺跡出土遺物

遺跡地名表 位置図・図版7 (県土木事業関係遺跡)



赤森山遺跡



赤森山遺跡近景（北から）



赤森山遺跡調査風景



志茂の手館跡



志茂の手館跡（内部）



志茂の手館跡調査状況



大日塚遺跡



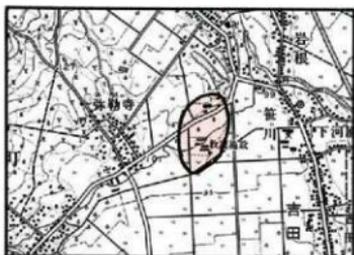
大日塚遺跡近景（西から）



大日塚遺跡調査状況（西から）



大日塚遺跡土層断面



四ツ塚遺跡



四ツ塚遺跡近景（南から）



田代遺跡



田代遺跡近景（北から）



糸群b遺跡



糸群b遺跡近景（北から）

遺跡地名表 位置図・図版9（県土木・健康福祉部・企業局関係遺跡）



白鷺墓地前遺跡



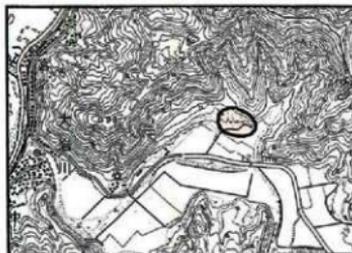
白鷺墓地前遺跡遠景 (北から)



白鷺墓地前遺跡調査風景 (西から)



白鷺墓地前遺跡調査状況 (西から)



家の平遺跡



家の平遺跡遠景 (南西から)



家の平遺跡近景 (東から)



家の平遺跡調査風景 (南から)

2 試掘調査の概要

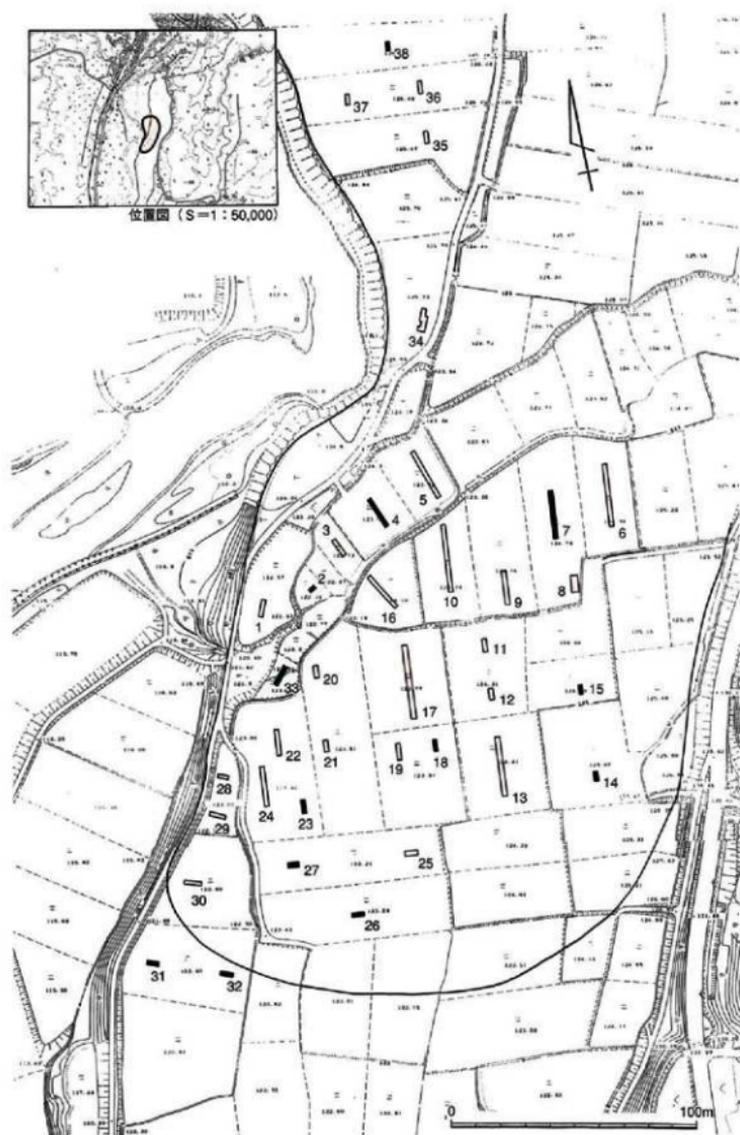
(1) 釜淵C遺跡 (遺跡番号993)

- 所在地** 山形県最上郡真室川町大字釜淵字五郎前
- 調査員** 長橋 至 調査協力(財)山形県埋蔵文化財センター主任調査研究員黒坂雅人
- 調査期日** 試掘調査 平成12年10月23日～27日
- 起因事業** 県営ほ場整備事業担い手育成型 釜淵地区
- 遺跡環境** J R奥羽本線釜淵駅の南方約0.8km、真室川左岸の河岸段丘に立地する。標高は123～125mを測る。国指定の完形の土偶が大正4年に改田の際に出土している。
- 試掘区** トレンチ38ヶ所を設定。25ヶ所で遺構・遺物を検出。
- 試掘方法** 水田中に重機と人力で試掘調査を実施。
- 試掘面積** 515㎡ (対象面積約60,000㎡・遺跡内の旧河道等は調査対象から除外)
- 検出遺構** ほぼ全域で土坑・柱穴を検出。T34：堅穴住居跡を集中して検出。
- 出土遺物** 縄文時代土器、石器(石鏃・石棒等)整理箱5箱
- 時代** 縄文時代中期・後期・晩期
- 所見** 遺跡は過去の改田で一部破壊されている部分、旧河道で希薄な部分もあるが、T6・9・16域では40cm以上の深さで良好に、T28～29域では30cm程度で遺構・遺物が遺存している。また、T34では堅穴住居跡の重複が確認された。国指定の重要文化財の出土遺跡でもあり、充分な保存協議が求められる。

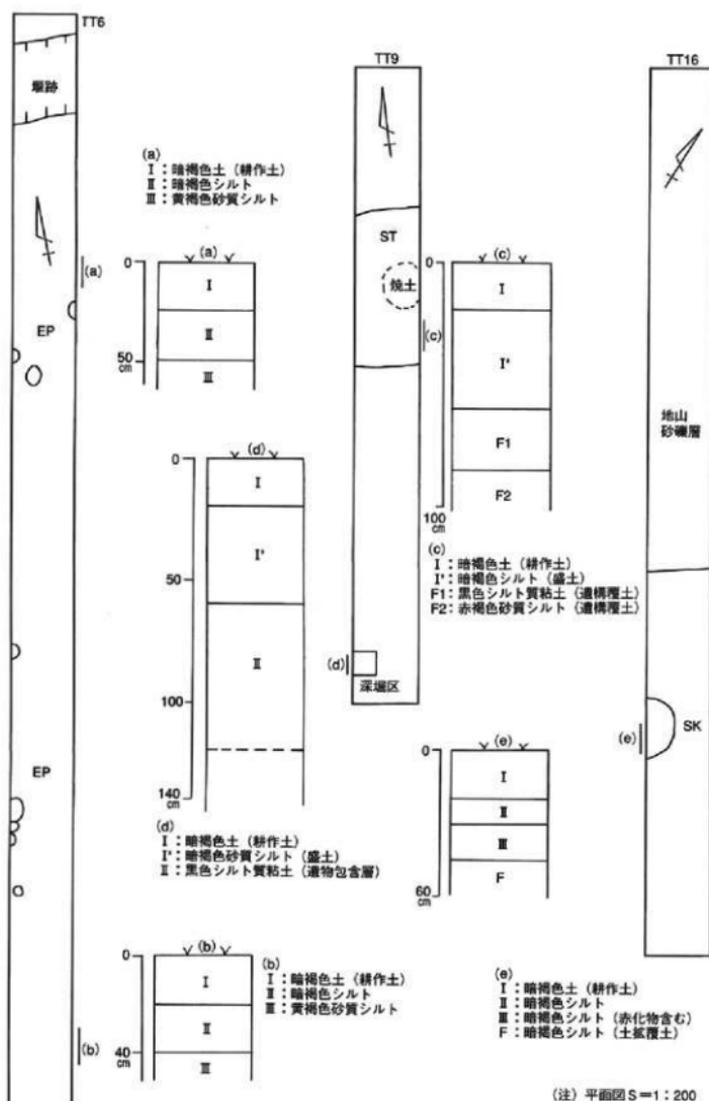


遺跡近景 (北から)

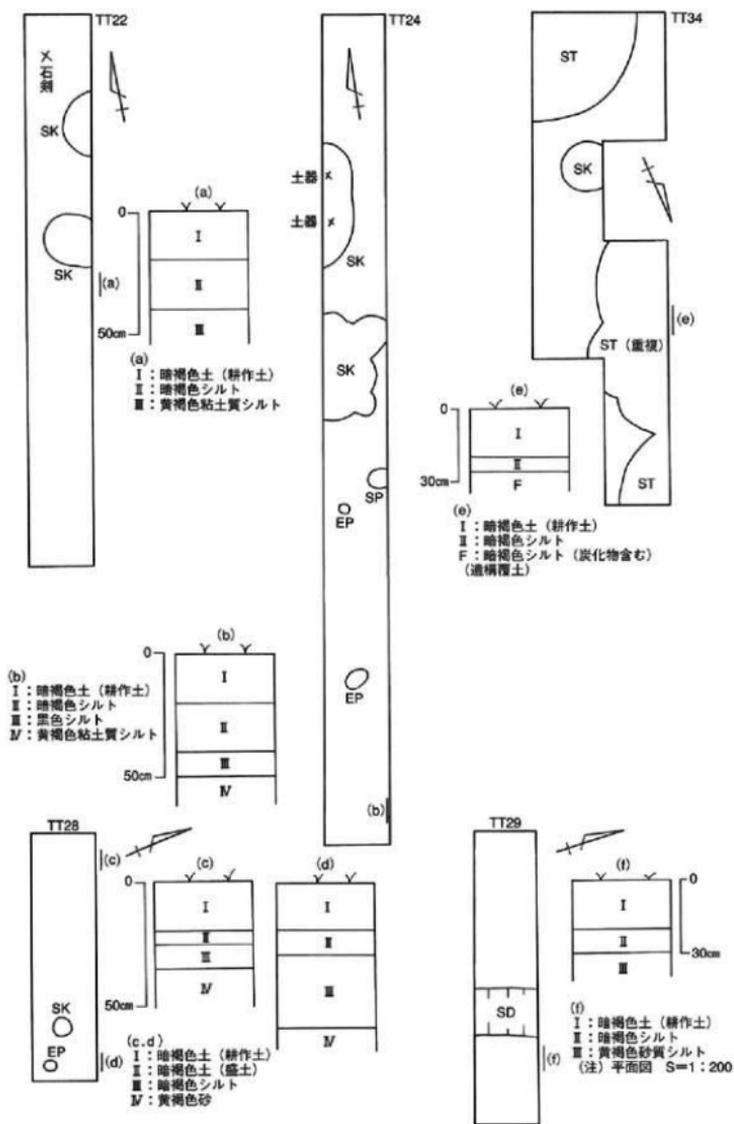
図版1 釜淵C遺跡 (1)



第1圖 釜淵C遺跡概要圖



第2図 釜淵C遺跡検出遺構平面図・断面図(1)



第3図 釜淵C遺跡検出遺構平面図・断面図(2)



遺跡近景（北西から）



調査風景（北から）



T 6 遺構検出状況



T10調査状況深掘区



T16遺構検出状況



T20土層断面

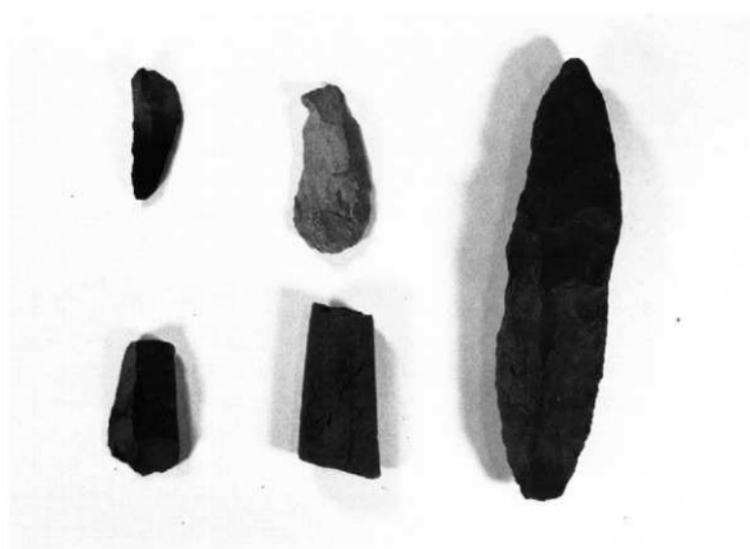


T24遺構検出状況

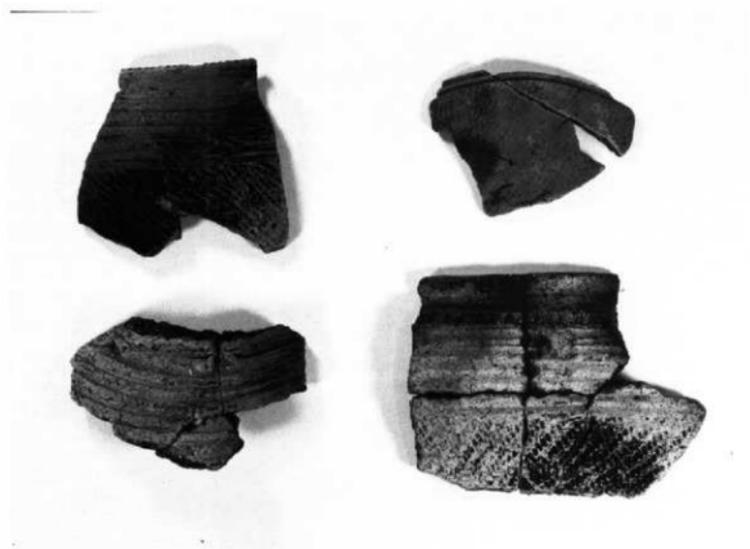


T34遺構検出状況

図版2 釜淵C遺跡（2）



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)

(2) オクミ館跡 (遺跡番号1008)

所在地 山形県最上郡真室川町大字木下

調査員 長橋 至

調査期日 試掘調査 平成12年5月23日～26日

起回事業 県営市場整備事業担い手育成型 木ノ下地区

遺跡環境 J R奥羽本線羽前豊里駅の北西約0.7km、真室川と大沢川(鮭川)の合流点近くの水田中の独立丘に立地する。規模は南北170m×東西90m、標高は68mを測る。

試掘区 トレンチ21ヶ所を設定。18ヶ所で遺構・遺物を検出。

試掘方法 栗林、荒地内に重機+人力で試掘調査を実施。

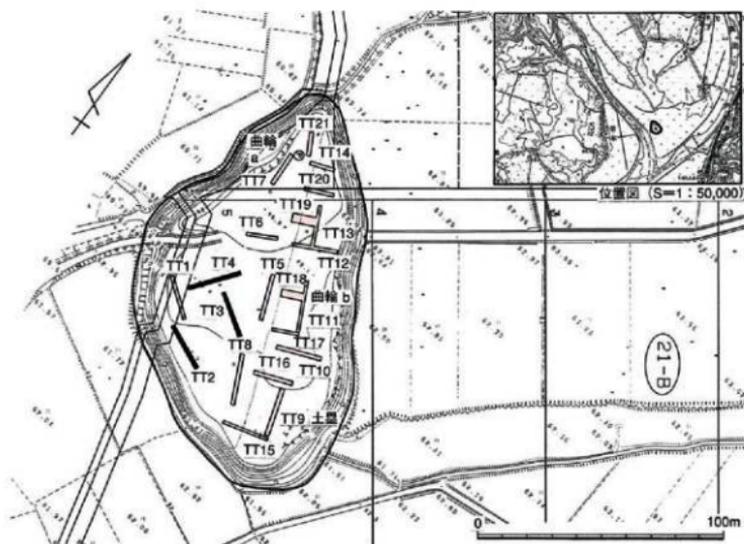
試掘面積 390㎡ (対象面積約6,000㎡)

検出遺構 ほぼ全域で土坑・柱穴が検出された。

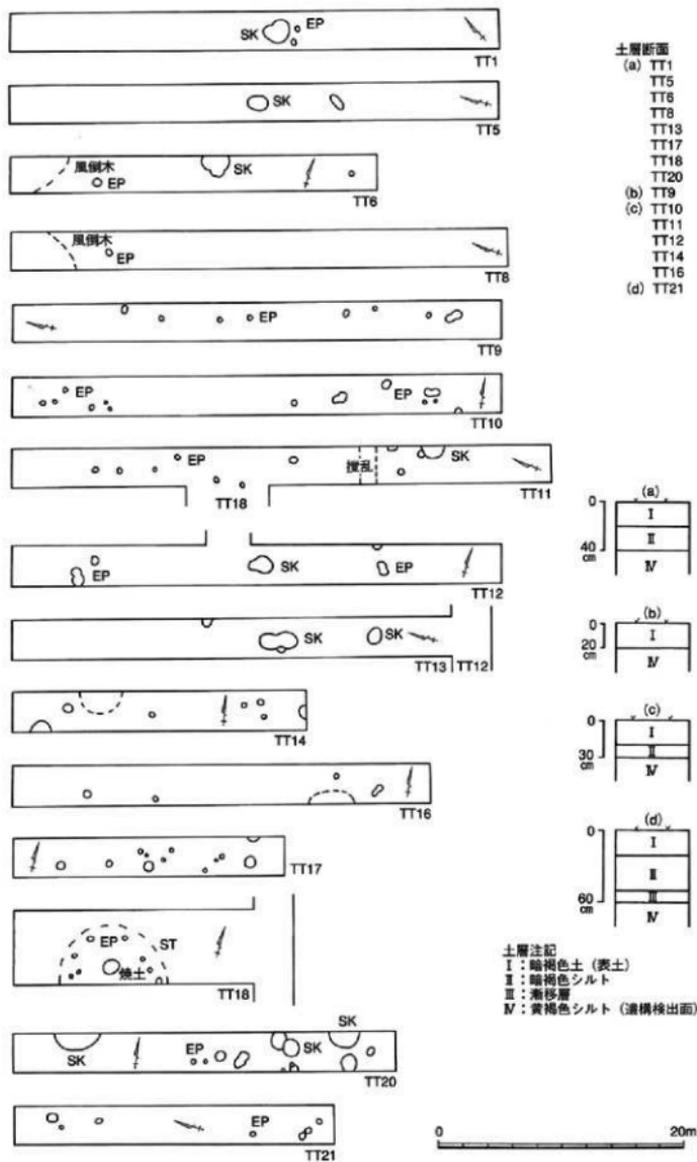
出土遺物 縄文時代土器片、石器(甕状石器・石器剥片等)整理箱0.5箱。

時代 縄文時代中期(初頭)・中世

所見 遺跡は中世城館として登録(山形県遺跡地図及び山形県中世城館調査報告書)されているが、今回の試掘調査では中世の遺物は未検出であった。城館としては、南東部と北西部で曲輪状の平場と南東部で土塁状の遺構が見られるが、中世に遡るかは不明である。縄文時代の遺構は、台地の削平・整地を受け、遺物包含層は見られないが遺存状況は比較的良好い。



第4図 オクミ館跡概要図



第5図 オクミ館跡検出遺構平面図・断面図



遺跡遠景（東から）



遺跡近景（東から）

図版4 オクミ館跡（1）



T18遺構検出状況



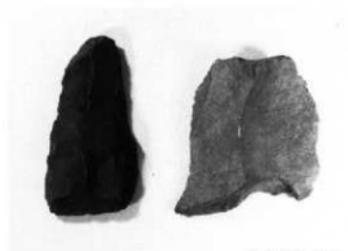
T3遺構検出状況



T20遺構検出状況



出土遺物(1)



出土遺物(2)

図版5 オクミ館跡(2)

(3) 堀端遺跡 (平成12年度登録)

所在地 山形県長井市中道一丁目

調査員 佐藤庄一

調査期日 試掘調査 平成12年10月19～20日

起因事業 担い手育成基盤整備事業 (宮原地区)

遺跡環境 長井市役所の西方3km、野川右岸の河岸段丘上に立地する。地目は水田・畑地等で、標高は206mを測る。範囲は東西170m×南北130mである。

試掘区 1回の試掘調査でトレンチ11ヶ所を設定。

試掘方法 畑地に重機+人力で試掘調査を実施。そ業の作付けがある畑地は一部除外。

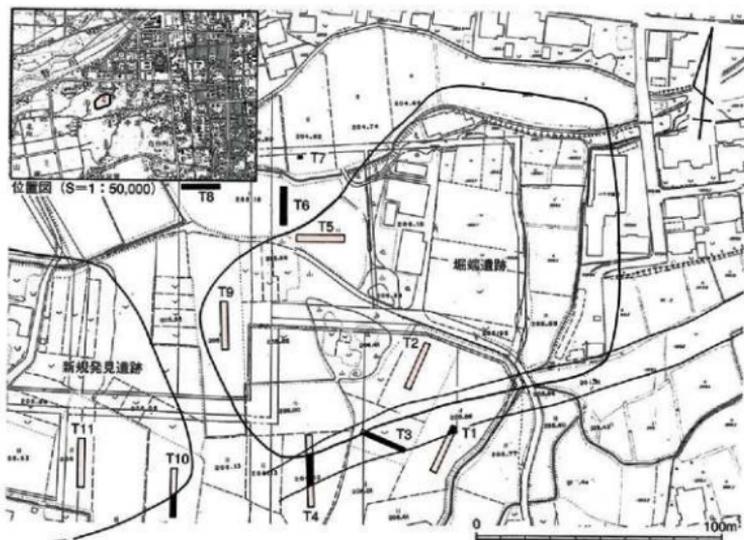
試掘面積 400m² (対象面積約32,000m²)

検出遺構 T1～4：旧河川跡、溝跡、土坑数基を検出。T5・9～11：竪穴住居状の落ち込みと溝跡、土坑数基を検出。

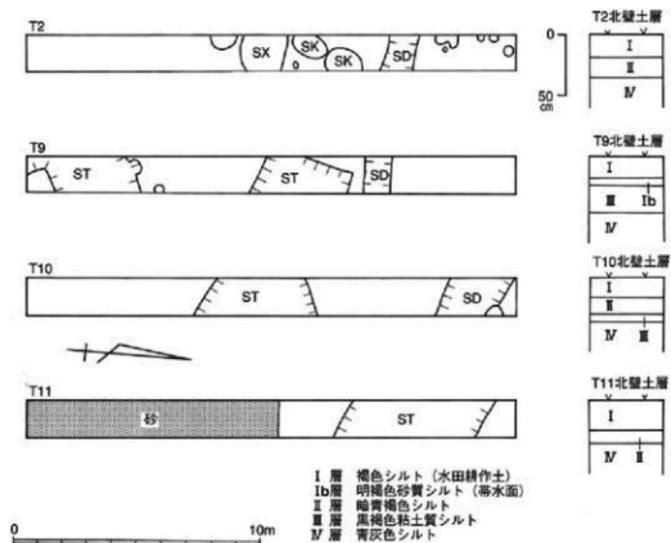
出土遺物 T1～4で平安時代の土師器と須恵器片が出土。T5・9～11：竪穴住居状の落ち込みで、奈良・平安時代の土師器と須恵器片がややまとまって出土。

時代 奈良・平安時代

所見 遺跡は長井市教育委員会が平成12年9月の試掘調査で新たに発見したものである。この地区の西側に県営ほ場整備事業が計画されたため、事業との調整を図るため今回試掘調査を実施した。その結果遺跡はさらに西方に広がることが確認された。



第6図 堀端遺跡概要図



第7図 堀端遺跡検出遺構平面図・断面図



遺跡近景 (西から)



T9住居跡検出状況



T10遺構検出状況



出土遺物

図版6 堀端遺跡

(4) 上福田遺跡 (平成12年度登録)

所在地 山形県長井市九野本字上福田

調査員 長橋 至 佐藤庄一

調査期日 現地確認 平成12年4月27日 試掘調査 平成12年10月17～18日

起因事業 土地改良総合整備事業 (長井市九野本地区)

遺跡環境 長井市南中学校の西方700mの沖積地に立地する。地目は水田で、標高は206mを測る。範囲は約東西60m×南北100mである。

試掘区 1回の試掘調査でトレンチ11ヶ所を設定。

試掘方法 畑地に重機+人力で試掘調査を実施。

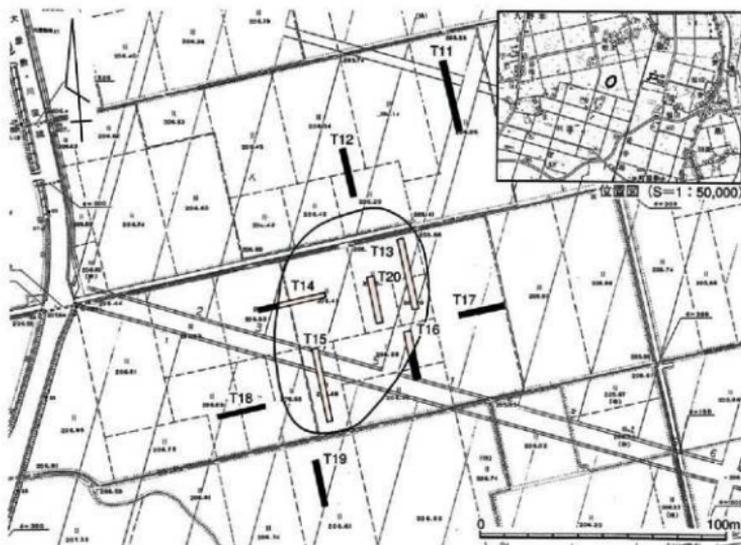
試掘面積 540㎡ (対象面積約32,000㎡)

検出遺構 T13～16・20：柱穴群、溝跡、土坑数基、落ち込み状の遺構等を検出。遺構は周囲より一段高い場所に分布するようである。

出土遺物 T13で奈良～平安時代の須恵器坏と蓋がまともって出土。T15の柱穴群と溝跡周辺で、奈良・平安時代の土師器と須恵器片が出土。T11から石器が少量出土。

時代 奈良・平安時代

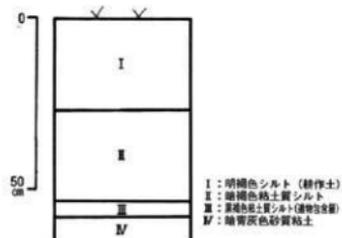
所見 遺跡は山形県教育委員会が平成12年4月の現地確認調査で遺物を採集し、遺跡可能性地3とした場所である。調査の結果、遺跡は周囲より一段高い場所に分布すること確認された。石器の出土から下層に縄文時代の遺物が含まれている可能性もある。



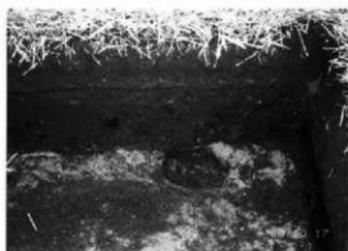
第8図 上福田遺跡概要図



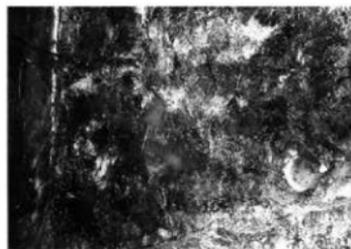
遺跡近景（西から）



T13土層柱状図



T14土層断面



T13遺物検出状況



出土遺物

(5) 小山遺跡 (平成12年度登録)

所在地 山形県長井市九野本字小山

調査員 長橋 至 佐藤 庄一

調査期日 現地確認 平成12年4月 試掘調査 同年10月16・17日 11月9～10日

起因事業 土地改良総合整備事業 (長井市九野本地区)

遺跡環境 長井南中学校のフラワー長井線を挟んですぐ西方の沖積地に立地する。地目は水田で、標高は205mを測る。範囲は約東西180m×南北80mである。

試掘区 2回の試掘調査でトレンチ20ヶ所を設定。

試掘方法 畑地に重機+人力で試掘調査を実施。豆転作のある水田は後半に調査を実施。

試掘面積 960㎡ (対象面積約54,000㎡)

検出遺構 T1～3、8～9: 竪穴住居状の落ち込みと柱穴、溝跡、土坑数基を検出。
T21～22・27: 竪穴住居状の落ち込みと溝跡、土坑数基を検出。

出土遺物 T1～3で平安時代の土師器と須恵器片が出土。T21～22の竪穴住居状の落ち込みや溝跡で奈良・平安時代の土師器・須恵器片とが縄文時代と思われる石器が出土。

時代 縄文時代 (?), 奈良・平安時代

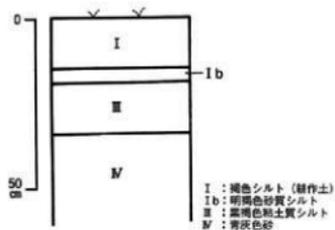
所見 遺跡は山形県教育委員会が平成12年4月の現地確認調査で遺物を採集し、遺跡可能性地1・2とした場所である。調査の結果、遺跡は両地点にまたがり遺存していることが確認された。



第9図 小山遺跡概要図



遺跡近景 (南から)



T21土層柱状図



T1遺構検出状況



南東部住居跡検出状況



出土遺物

(6) 岩木B遺跡 (遺跡番号480)

所在地 山形県西村山郡河北町大字岩木220

調査員 阿部明彦

調査期間 平成12年11月29日～30日

起因事業 中山間地域総合整備事業 (広域連携型)「葉山の里」地区

遺跡環境 南東に開ける見晴しの良い法師川の右岸段丘に位置する。以前から、石器類のまとまった出土が知られ、土地所有者により採集された遺物が自宅に残されている。

試掘区 トレンチ(A区:1.5×3m、B区:1.5×20m、C区:1.5×4m、2×20m)

試掘方法 平成13年度に予定される農道工事の予定地内に、工事のセンター杭を基準としたトレンチを設定して遺構・遺物の検出を行った。台地上のA区では、表土も浅かったことから、幅4mで拡張して遺構の検出を行っている。

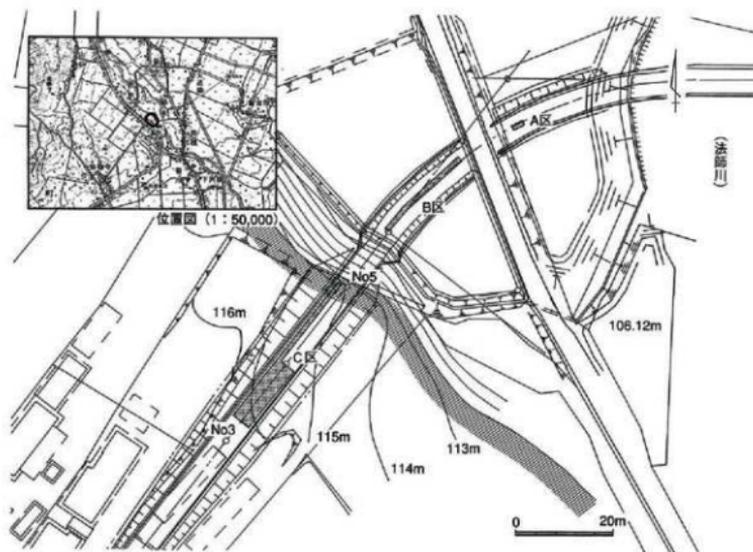
試掘面積 80㎡

検出遺構 縄文時代の土坑1基 (C区)、近世の土坑3基 (C区)

出土遺物 石器 (石匙)・剥片類多数、陶磁器若干 (いずれもC区)

時代 縄文時代前期前葉 近世

所見 段丘上の畑地 (C区) では、若干の遺構と、既に原位置から遊離した多数の剥片類が検出されたが、遺跡の保存状況は良くないと窺えた。また、段丘下の水田 (A・B区) 部分は、近年のほ場整備によって大幅に地形的改変が行われていると確認できた。



第10図 岩木B遺跡概要図



遺跡近景（北から）



遺跡近景（東から）



調査風景（東から）



調査風景（北東から）



出土遺物

(7)ニツ橋遺跡 (県遺跡番号1312)

所在地 山形県東置賜郡高島町大字下和田字砂畑・田中・六角

調査員 佐藤庄一

調査期日 現地確認 平成12年10月2日 試掘調査 平成12年10月13日

起因事業 農免農道整備事業 (高島町亀岡地区)

遺跡環境 高島町ニツ橋地区の北方、砂川右岸の河岸段丘上に立地する。地目は水田・畑地・宅地等で、標高は227mを測る。

試掘区 1回の試掘調査でテスト・ピット (TP) 11ヶ所を設定。

試掘方法 畑地に人力で試掘調査を実施。そまの作付けがある畑地は一部除外。

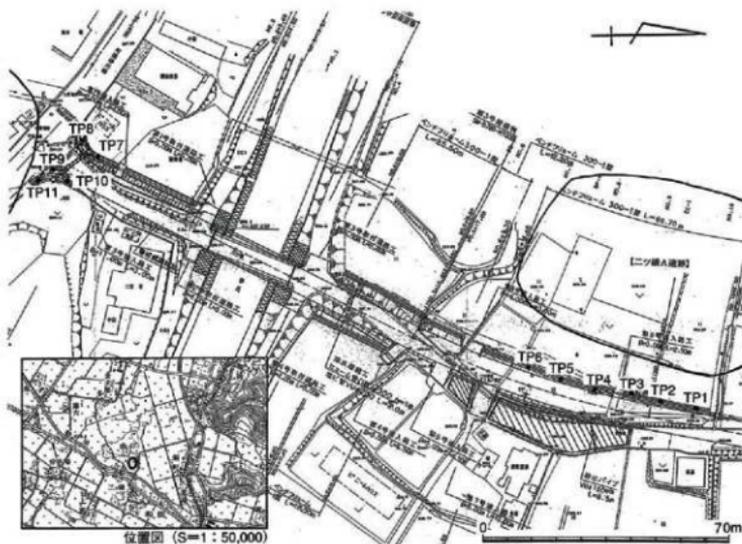
試掘面積 11m² (対象面積約500m²)

検出遺構 TP1~6: 地表下約40cmで基盤層の青灰色砂に達する。遺構は認められない。TP7~11: 地表下約50cmで基盤層の青灰色砂に達する。遺構は認められない。

出土遺物 各TPからの遺物の出土はなかった。

時代 縄文・平安時代

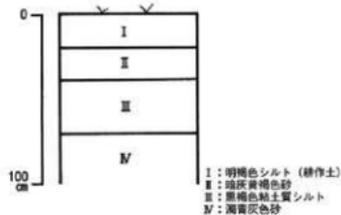
所見 ニツ橋遺跡について、高島町教育委員会発行の遺跡地図では縄文時代の「ニツ橋A遺跡」と平安時代の「ニツ橋B遺跡」に分けて記載している。今回の試掘調査ではその周辺に11ヶ所のTPを設定したが、両地点とも中世以前の遺構・遺物は認められなかった。ニツ橋B遺跡の範囲はさらに西方にあたることが予想される。



第11図 ニツ橋遺跡概要図



遺跡近景（北から）



T P 3 土層柱状図



ニツ橋A試掘状況（南から）



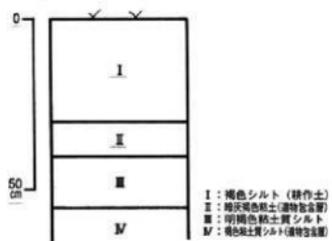
ニツ橋B試掘状況（南東から）



T 3 西壁土層断面



試掘調査状況（南から）



T 7 土層柱状図



T 8 南壁土層断面



T 7 遺物出土状況



T 9 木組出土状況

(9) 向河原遺跡 (平成2年度登録)

所在地 山形県山形市大字洪江字向河原

調査員 佐藤庄一

調査期日 試掘調査 平成12年10月4～5日

起因事業 地方特定道路整備事業 主要地方道山形羽入線

遺跡環境 山形市の北西部明治地区に位置し、馬見ヶ崎川の支流である白川左岸の自然堤防上に立地する。地目は畑地・宅地・道路等で、標高は97mを測る。

試掘区 1回の試掘調査でトレンチ11ヶ所を設定。

試掘方法 畑地に重機+人力で試掘調査を実施。

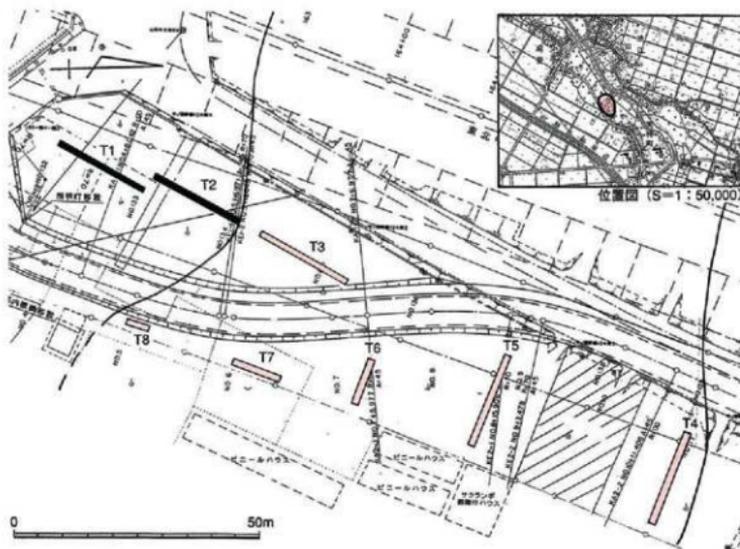
試掘面積 280㎡ (対象面積約6,000㎡)

検出遺構 T3～8：竪穴住居状の落ち込みと溝跡、土坑敷基を検出。T5付近は土取りでかなり削平されている。

出土遺物 T3～8のIV層や遺構の覆土から奈良・平安時代の土師器や須恵器が出土。とくにT5～7から遺物が多く出土した。

時代 奈良・平安時代

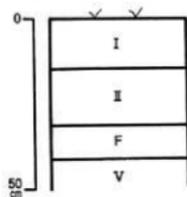
所見 今回の試掘調査では、県道予定路線の北側から中央にかけて奈良・平安時代の遺構と遺物が検出された。この地域は平成12年度に発掘調査を実施した東北中央自動車道内の遺構群に隣接するもので、遺跡の範囲はさらに東側に大きく広がるものと思われる。



第13図 向河原遺跡概要図



遺跡近景（北東から）

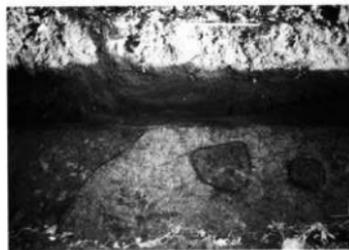


I：褐色シルト（耕作土）
 II：暗褐色シルト
 F：黄褐色砂質シルト（腐植土）
 V：明褐色砂

T 6 土層柱状図



T 3 東壁土層断面



T 8 遺構検出状況



出土遺物

(10) 影沢北遺跡 (平成2年度登録)

所在地 山形県天童市大字高橋字影沢北

調査員 佐藤庄一

調査期日 現地確認 平成12年4月13日 試掘調査 平成12年5月17日

起因事業 緊急地方道路整備事業 主要地方道天童寒河江線

遺跡環境 天童市高橋地の南西に位置し、沖積地の微高地上に立地する。地目は水田・道路等で、標高は96mを測る。

試掘区 1回の試掘調査でトレンチ2ヶ所を設定。T6は6×10mの大きさである。

試掘方法 水田に重機+人力で試掘調査を実施。

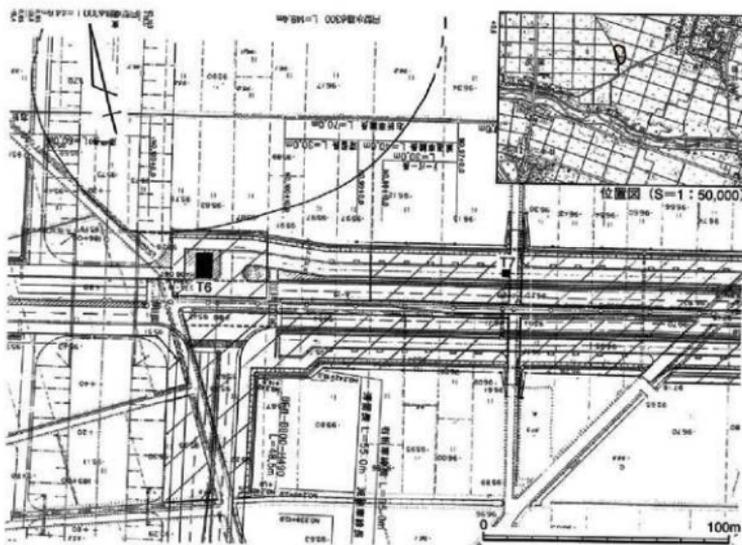
試掘面積 70㎡ (対象面積約2,000㎡)

検出遺構 T6：調査区中央に幅60cmの東西方向の溝跡、その北側に土坑や落ち込み状の遺構を検出。T7：調査地区の東端にあたる場所で、遺構は認められなかった。

出土遺物 T6の溝跡から摩滅した石器や須恵器が少量出土したが、一緒に陶磁器やガラス片などが出ており、遺構の時期は近年のものと思われる。

時代 平安時代～近世

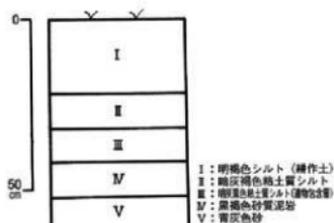
所見 今回の試掘調査では、遺跡の南側近隣周辺についてトレンチ2ヶ所を設定し、遺跡範囲の確認を測ったが、両地区とも中世以前の遺構は認められなかった。遺跡の範囲はさらに北西側に広がるものと推定される。



第14図 影沢北遺跡概要図



T 6 全景 (南から)



T 6 土層柱状図



遺跡近景 (東から)



T 6 南壁土層断面



出土遺物

(11)川端遺跡 (県遺跡番号420)

所在地 山形県東村山郡中山町大字長崎字川端

調査員 佐藤庄一

調査期日 試掘調査 平成12年10月24日

起回事業 緊急地方道路整備事業 一般県道長岡中山線

遺跡環境 中山町長崎地区にあり、最上川右岸の自然堤防上に立地する。地目は畑地・果樹園・宅地等で、標高は93mを測る。

試掘区 1回の試掘調査でテスト・ピット (TP) 6ヶ所を設定。

試掘方法 畑地に人力で試掘調査を実施。そ業の作付けがある畑地は一部除外。

試掘面積 6㎡ (対象面積約1,000㎡)

検出遺構 TP1～4 : 各TPとも地表下約50cmで基盤層の濁黄褐色粘土に達する。遺構は認められない。TP5～6 : 地表下約50cmで基盤層の濁黄褐色粘土に達する。遺構は認められない。

出土遺物 各TPからの遺物の出土はなかった。

時代 平安時代

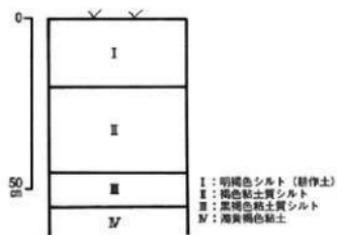
所見 今回の試掘調査では、遺跡の近隣部について6ヶ所のTPを設定し、遺跡の確認を図ったが、両地点とも中世以前の遺構・遺物は認められなかった。調査結果から、川端遺跡の範囲は事業地区北側の高台に分布するものと推定される。



第15図 川端遺跡概要図



遺跡近景（西から）



TP 5 土層柱状図



T 3 北壁土層断面



西側地区試掘調査状況



東側地区試掘調査状況

(12)北島遺跡 (平成11年度登録)

所在地 山形県村山市大字土生田字北島

調査員 長橋 至

調査期日 試掘調査 平成12年6月6日～8日

起因事業 一般県道大石田土生田線道路改良

遺跡環境 J R奥羽本線袖崎駅の北東約1.4km、南西向きの緩斜面に立地する。範囲は南北270m×東西150m、標高は76mを測る。地目は畑地・宅地となっている。

試掘区 トレンチ3ヶ所を設定。各トレンチで遺構・遺物を検出。

試掘方法 畑地に重機+人力で試掘調査を実施。

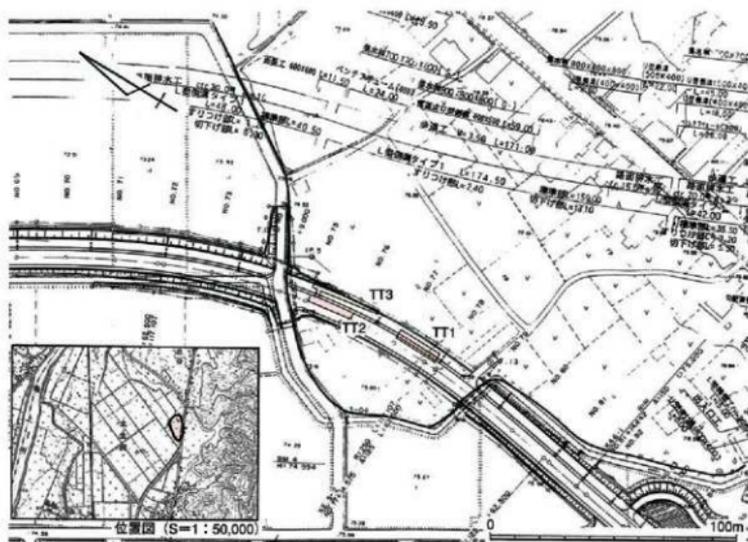
試掘面積 175㎡ (対象面積約1,200㎡)

検出遺構 T1:20基以上の柱穴、溝跡、土坑敷基 T2:溝状遺構2 T3:柱穴3、溝跡1が検出された。

出土遺物 今回は出土しない。

時代 縄文時代・中世

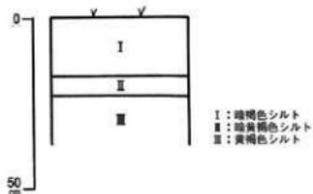
所見 遺跡は平成11年度に縄文時代の遺跡として登録された。今回の試掘調査では、明確に縄文時代に遡る遺構は確認されていない。今回検出された遺構は、覆土の状況から平安時代または中世の所産と考えられる。なお、対象地区北側では改田の際の盛土が一部で確認された。



第16図 北島遺跡概要図



遺跡遠景（南から）



T1土層柱状図



T1南側遺構検出状況（南から）



遺跡近景（北から）



T1北側遺構検出状況（北から）

(13)東屋敷遺跡 (米沢市遺跡番号A-345)

所在地 山形県米沢市大字梓川上竹井

調査員 阿部明彦

調査期日 平成12年4月25日 平成12年11月14日～15日

起因事業 主要地方道 米沢高畠線地方特定道路改良工事

遺跡環境 米沢市の北東部、高畠町との境界付近に位置し、天王川(梓川)の右岸段丘上に立地する。周辺には戸塚山山頂古墳群をはじめとする上浅川遺跡などの古墳時代～歴史時代の遺跡が密集し、市域でも遺跡の集中度が極めて高い地域として注目される。なお、本遺跡に北接する東屋敷館(A-645)は、宅地造成に伴って平成2年に市教委によって調査され、掘立柱建物跡19棟ほかの遺構と陶磁器他の遺物多数が見つかった。

試掘区 道路改良予定地内のセンター杭に沿って1～4区と呼称した対象地にトレンチおよび坪掘り区を設けて遺構・遺物の検出を行った。

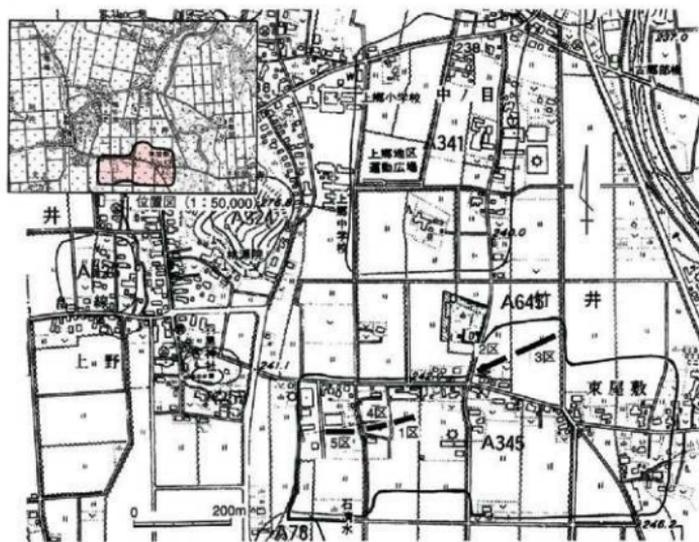
調査方法 重機+人力

試掘面積 400㎡

検出遺構 溝跡1基(江戸時代以降) 土坑1基(江戸時代以降)

出土遺物 陶器類若干

時代と所見 調査地点の1区・4区のトレンチでは近世(江戸時代)の屋敷跡に係わる溝跡や土坑などが見つかったが、それら以外の遺構や遺物の発見は皆無であった。



第17図 東屋敷遺跡概要図



調査風景（北西から）



T P土層断面



調査風景（西から）



溝跡検出状況（南西から）



溝跡内遺物出土状況

(14)八幡西遺跡 (平成9年度登録)

所在地 山形県東置賜郡川西町大字八幡字八幡西

調査員 佐藤庄一

調査期日 試掘調査 平成12年12月21～22日

起因事業 一般国道287号道路改築 長井南バイパス

遺跡環境 川西町八幡地区の西方、犬川左岸の自然堤防上に立地する。地目は水田・畑地・宅地等で、標高は209mを測る。

試掘区 1回の試掘調査でトレンチ8ヶ所を設定。

試掘方法 水田に重機+人力で試掘調査を実施。

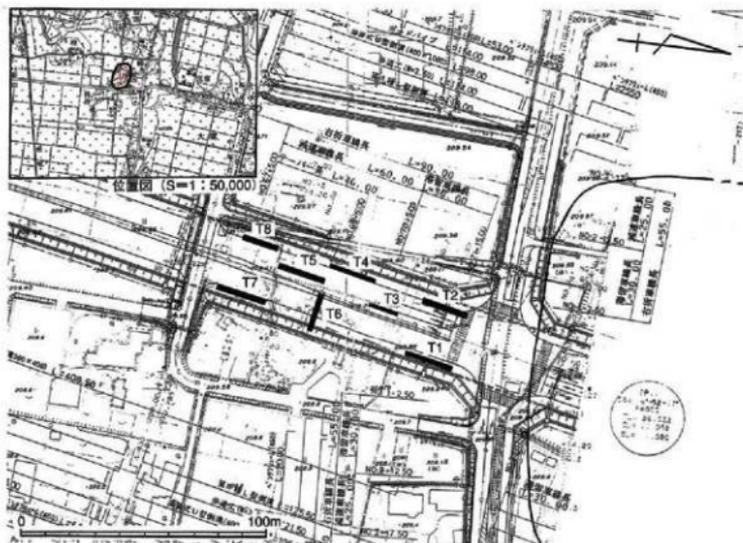
試掘面積 300㎡ (対象面積約4,800㎡)

検出遺構 T3～5・7・8：地表下40cmで灰褐色粘土に達し、その下は黒色泥炭層が堆積する。遺構は認められない。T6：不整形の落ち込みや溝跡等がみられるが、これは以前ここに建てられた江戸時代からの屋敷跡関連遺構と推移される。

出土遺物 T6等から近世以降の陶磁器が出土したが、中世以前の遺物はなかった。

時代 平安時代

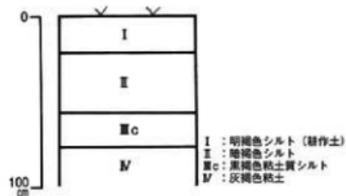
所見 今回の試掘調査は八幡西遺跡南側を対象としたものであるが、調査の結果中世以前の遺構・遺物は確認されなかった。なお、八幡西遺跡の北側については再度試掘調査が必要である。



第18図 八幡西遺跡概要図



遺跡近景（北東から）



T 1 土層柱状図



T 2 北壁土層断面



T 3 全景（北から）



出土遺物

(15) 荒小屋遺跡 (平成12年度登録)

所在地 山形県東置賜郡川西町大字犬川字荒小屋

調査員 佐藤庄一

調査期日 試掘調査 平成12年11月30日

起回事業 一般国道287号道路改築 長井南バイパス

遺跡環境 川西町犬川地区の北西、犬川左岸の自然堤防上に立地する。地目は水田・道路等で、標高は209mを測る。

試掘区 1回の試掘調査でトレンチ6ヶ所を設定。

試掘方法 水田に重機+人力で試掘調査を実施。

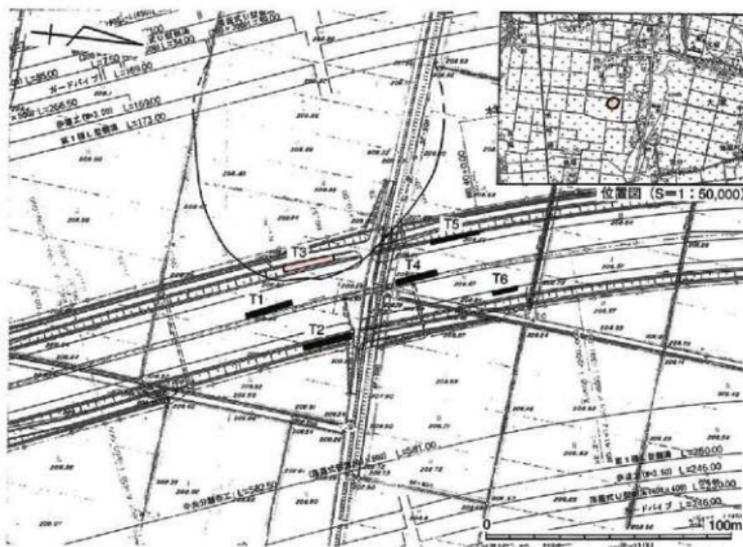
試掘面積 200㎡ (対象面積約5,000㎡)

検出遺構 T3：地表下60cmで黒褐色粘土質シルレに達し、それに突き刺さった状態で遺物が出土する。明確な遺構は認められない。T1・2・4～6：各TPとも地表下55～70cmで無遺物層の黒褐色粘土質シルトに達する。遺構は認められない。

出土遺物 T3から古墳時代後期の土師器甕がややまとまって出土した。T1・2からは近世以降の陶磁器が数片出土したが、中世以前の遺物はなかった。

時代 古墳時代

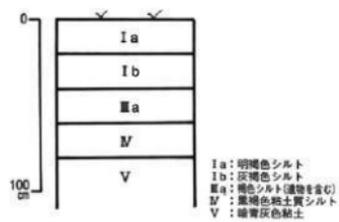
所見 今回の調査は、当初遺跡可能性地としていた場所を対象としたものである。調査の結果、古墳時代の遺物が発見されたため、小字名をとって「荒小屋遺跡」として登録した。



第19図 荒小屋遺跡概要図



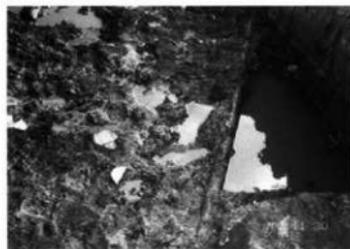
遺跡近景（東から）



T 3 土層柱状図



T 4 南壁土層断面



T 3 土師器出土状況



出土遺物

(16) 下花沢 a 遺跡 (昭和63年度米沢市遺跡地名表登録)

所在地 山形県米沢市下花沢二丁目110-1外

調査員 佐藤庄一

調査期日 現地確認 平成12年6月13日 試掘調査 平成12年6月19日

起因事業 都市計画街路事業 米沢駅東線

遺跡環境 J R奥羽本線米沢駅の東方500m、羽黒川左岸の自然堤防上に立地する。地目は・畑地・宅地等で、標高は247mを測る。

試掘区 1回の試掘調査でトレンチ4ヶ所を設定。

試掘方法 畑地に重機+人力で試掘調査を実施。

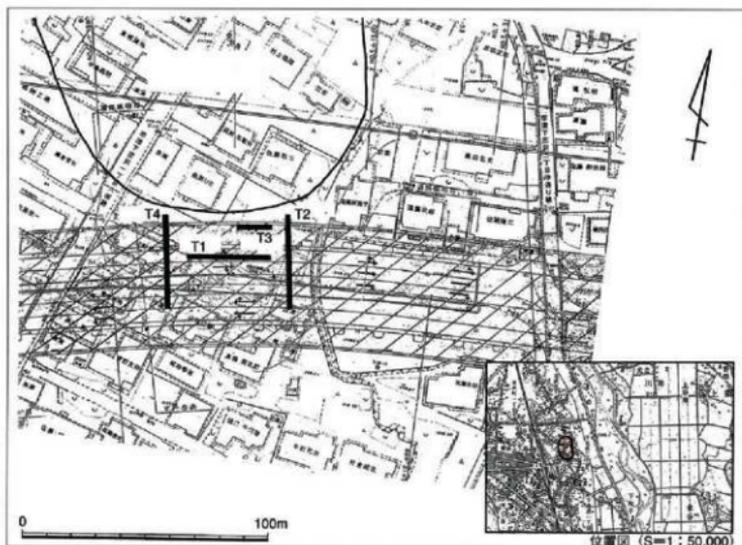
試掘面積 250㎡ (対象面積約6,000㎡)

検出遺構 T1～4；T2とT4の南半部で、旧河川跡の堆積物と思われる黒褐色砂礫層を検出。この砂礫層はT1西端にも分布しており、東西方向に蛇行して旧河川跡が流れていたことがうかがえる。調査区中央のT1とT3には濁黄褐色シルトが堆積しているが、最近のものを除き遺構は認められない。

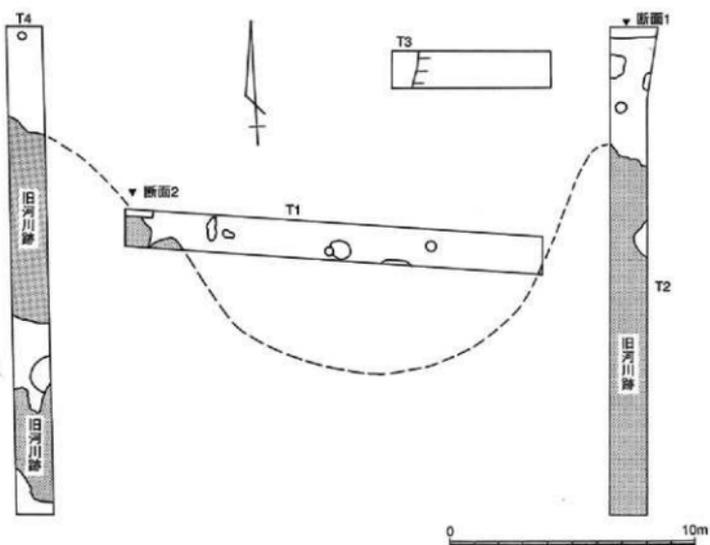
出土遺物 近世以降の陶磁器片を除き、縄文時代の遺物は全く出土しなかった。

時代 縄文時代

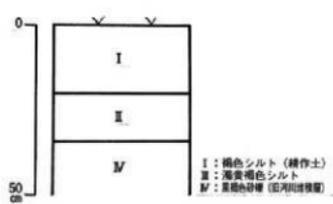
所見 調査の結果、中世以前の遺構・遺物は確認されなかった。下花沢 a 遺跡の範囲は南側の米沢駅東線街路事業までは延びないものと推定される。



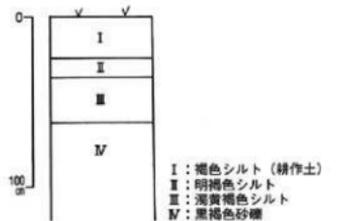
第20図 下花沢 a 遺跡概要図



第21図 下花沢 a 遺跡遺構配置図



T 1 土層柱状図



T 2 土層柱状図

第22図 下花沢 a 遺跡柱状図

(17)山形元屋敷遺跡 (平成12年度登録)

所在地 山形県山形市大字片谷地字元屋敷

調査員 長橋 至

調査期日 現地確認 平成12年5月 試掘調査 平成12年5月18日 10月5～6日

起因事業 花川住宅地間連河川改修促進事業

遺跡環境 J R奥羽本線蔵王駅の北西約1km、沖積地に立地する。範囲は南北130m×東西(150)m、標高は126mを測る。地目は水田・畑地・果樹地となっている。

試掘区 2回の試掘調査でトレンチ13ヶ所を設定。

試掘方法 畑地に重機+人力で試掘調査を実施。現花川西側は土取りで破壊のため除外。

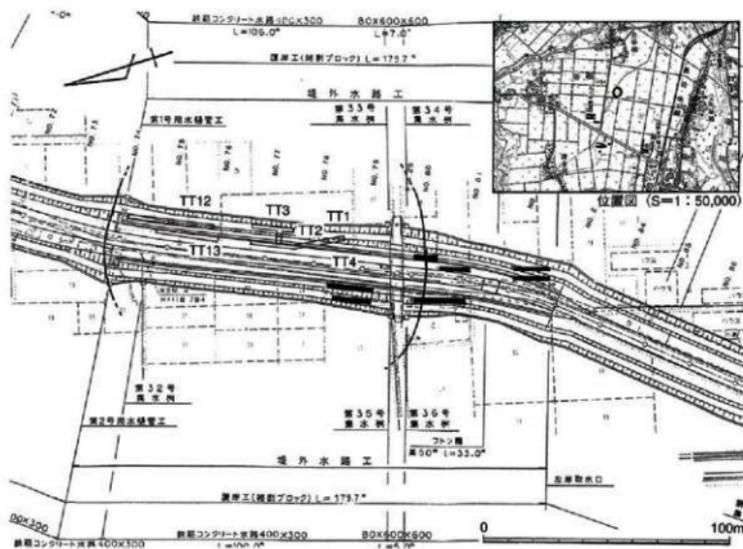
試掘面積 375㎡ (対象面積約4,000㎡)

検出遺構 T1～4: 若干の柱穴、溝跡、土坑数基、竪穴住居状の土色変化、不明落ち込み遺構を検出 T12・13: 一括土器を含む溝状遺構、竪穴住居状の土色変化1を検出した。

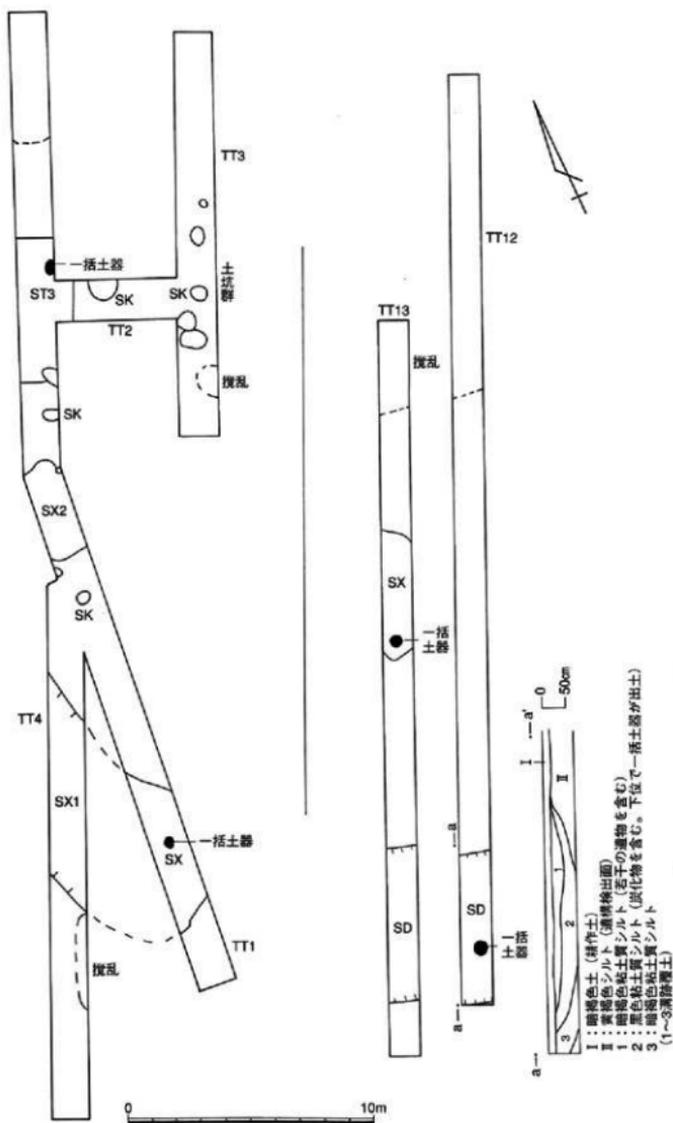
出土遺物 T1～4では平安時代の須恵器・土師器が約1箱出土。T12・13では、溝状遺構覆土から古墳時代の土師器が一括で出土した。

時代 古墳時代・奈良～平安時代

所見 遺跡は平成12年5月に河川改修に伴う果樹の抜根時に新規発見された。通報を受けた県教委では事業主体と調整を図り試掘調査を実施した。その結果、遺跡は事業範囲内では部分的に良好に遺存していることが明らかとなった。



第23図 山形元屋敷遺跡概要図



第24図 山形屋敷遺跡検出遺構平面図・断面図



遺跡近景（北から）



T12遺物出土状況

図版19 山形元屋敷遺跡（1）



T 1 S X 検出状況



T 5 土層断面



T 1 遺構検出状況



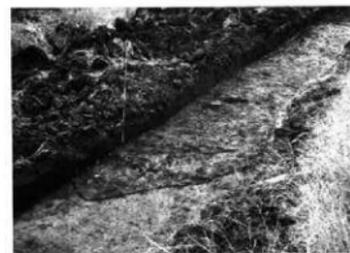
T10、11調査状況



T12遺物出土状況



T13遺構検出状況



T13遺構検出状況



出土遺物

(18)東畑B遺跡 (昭和61年度南陽市教育委員会登録)

所在地 山形県南陽市大字組柳字東畑805外

調査員 佐藤庄一

調査期日 試掘調査 平成12年11月6日

起回事業 国道113号赤湯バイパス建設工事

遺跡環境 南陽市組柳地区の南東、吉野川右岸の自然堤防上に立地する。地目は水田・畑地・宅地等で、標高は213mを測る。

試掘区 1回の試掘調査でトレンチ5ヶ所を設定。

試掘方法 水田に重機+人力で試掘調査を実施。

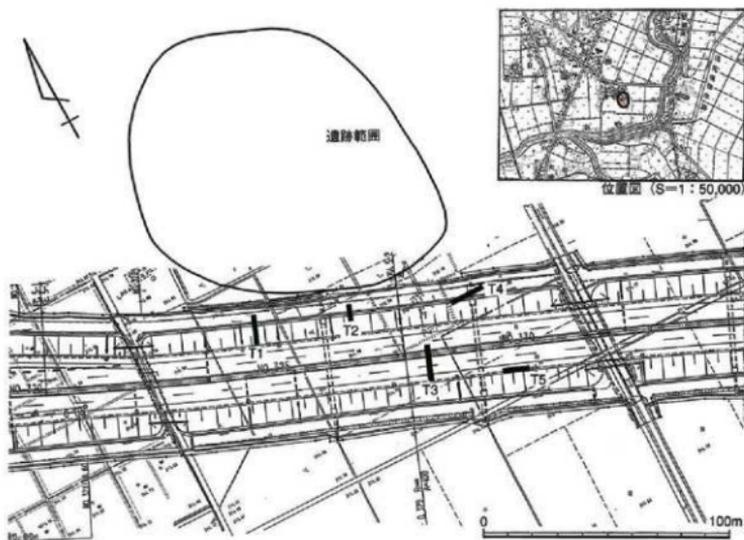
試掘面積 120㎡ (対象面積約6,000㎡)

検出遺構 T1・2：両トレンチとも黒褐色泥炭層等の水性の堆積層が厚く、遺構や遺物は認められない。T3～5：遺跡の南東隅にある祠近くの水田に設定したトレンチである。T3と4の中央から祠を囲むような幅3mの溝跡が検出された。

出土遺物 各トレンチから遺物の出土はなかった。

時代 平安時代

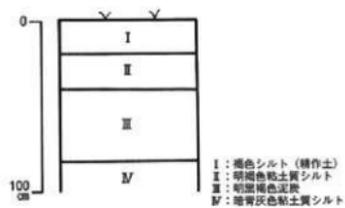
所見 今回の試掘調査は東畑B遺跡の南側を対象としたものであるが、調査の結果中世以前の遺構・遺物は確認されなかった。現在建っている祠は江戸時代という記録もあり、溝跡も遺物の出土はないがその頃のものとして推定される。



第25図 東畑B遺跡概要図



遺跡近景 (南から)



T 1 土層柱状図



T 3 東壁土層断面



T 3 試掘状況



T 4 試掘状況

(19)八ヶ森遺跡 (遺跡番号69)・八ヶ森南遺跡 (平成12年度新規)

所在地 山形県山形市大字松原字八ヶ森

調査員 佐藤庄一・阿部明彦・長橋 至

調査期日 平成12年5月18日～平成12年5月30日(延8日)

起回事業 山形新都市開発整備事業

遺跡環境 J R奥羽本線蔵王駅の南西約1.5kmの山麓に位置する。八ヶ森遺跡は南面する山麓斜面を占地し、同南遺跡は低湿地を挟む形で八ヶ森遺跡の南東に隣接している。地目はいずれもブドウなどの果樹畑で、標高は八ヶ森遺跡で183m、同南遺跡で174mである。

調査区 八ヶ森遺跡トレンチ3本及びA～D区の拡張区(TT1～4:前年度)

八ヶ森南遺跡トレンチ6本及びA区～C区の拡張区(TT1～8:前年度)

調査方法 重機+人力

試掘面積 八ヶ森遺跡 530㎡ 八ヶ森南遺跡 350㎡

検出遺構 八ヶ森遺跡 竪穴住居跡1基 炉穴3基 土坑1基

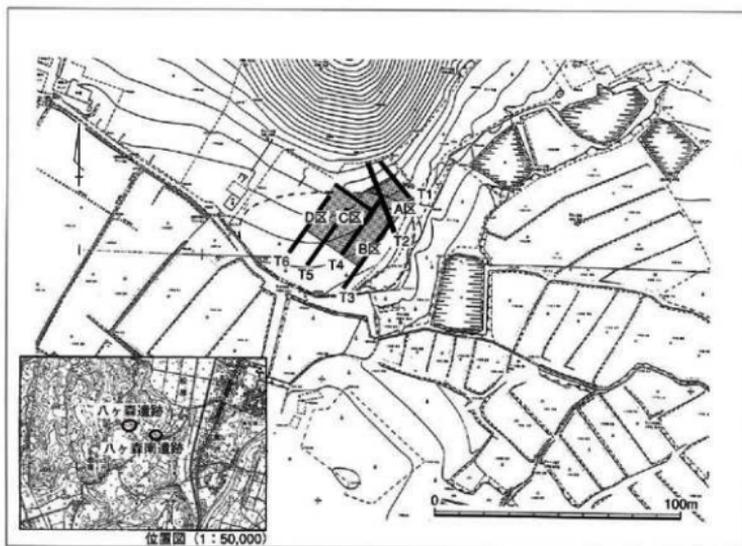
八ヶ森南遺跡 土坑3基(前期初頭)

出土遺物 八ヶ森遺跡 縄文土器(早期末～前期初頭・前期後葉) 石器(石匙・剥片類)

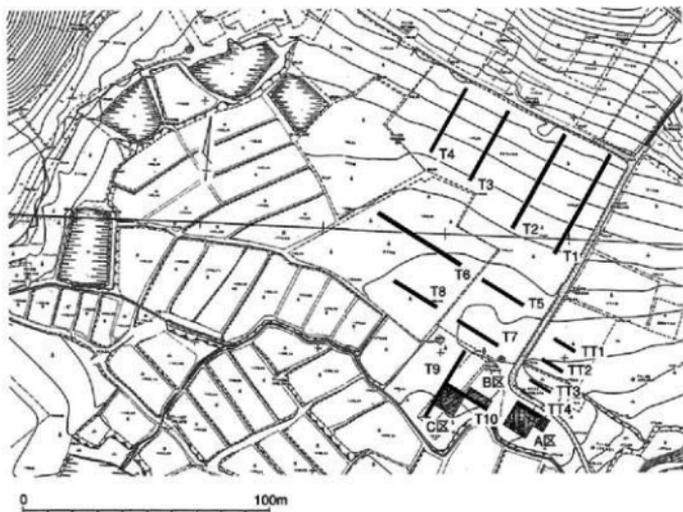
八ヶ森南遺跡 縄文土器(前期初頭) 石器(石匙・剥片類)

時代 縄文時代(早期末～前期初頭・前期後葉)

所見 両遺跡は山麓部に立地した小規模なキャンプサイトの性格が考えられる。



第26図 八ヶ森遺跡概要図



第27図 八ヶ森南遺跡概要図



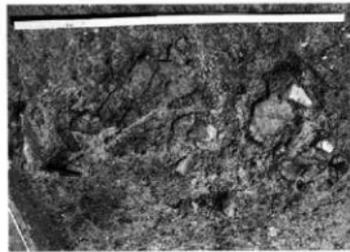
八ヶ森遺跡過景（南から）



八ヶ森南遺跡近景（西から）



八ヶ森遺跡聖穴住居検出状況（東から）



八ヶ森遺跡聖穴内土器出土状況

3 記録保存の調査の概要

(1) 家根合遺跡 (遺跡番号1706)

所在地 山形県東田川郡余目町大字家根合字五輪塚他

調査員 長橋 至

調査期日 試掘調査 平成12年10月30日～11月1日

立会い調査 平成12年11月27日～29日12月11日～13日

起回事業 県営ほ場整備事業担い手育成型 家根合地区

遺跡環境 余目町家根合地区南東0.5kmの沖積地の微高地に立地する。標高は約6mを測る。

1 試掘調査の概要

試掘区 トレンチ38ヶ所を設定。14ヶ所で遺構・遺物を検出した。

試掘方法 水田中に重機と人力で試掘調査を実施。

試掘面積 400㎡ (対象面積約30,000㎡)

検出遺構 調査対象地のほぼ中央部で柱穴、土坑、溝跡等が検出された。

出土遺物 平安時代の須恵器、赤焼き土器片等及び縄文時代の石器剥片、縄文土器片2が出土した。試掘調査による出土量は整理箱0.5箱ほどである。

時代 縄文時代・平安時代

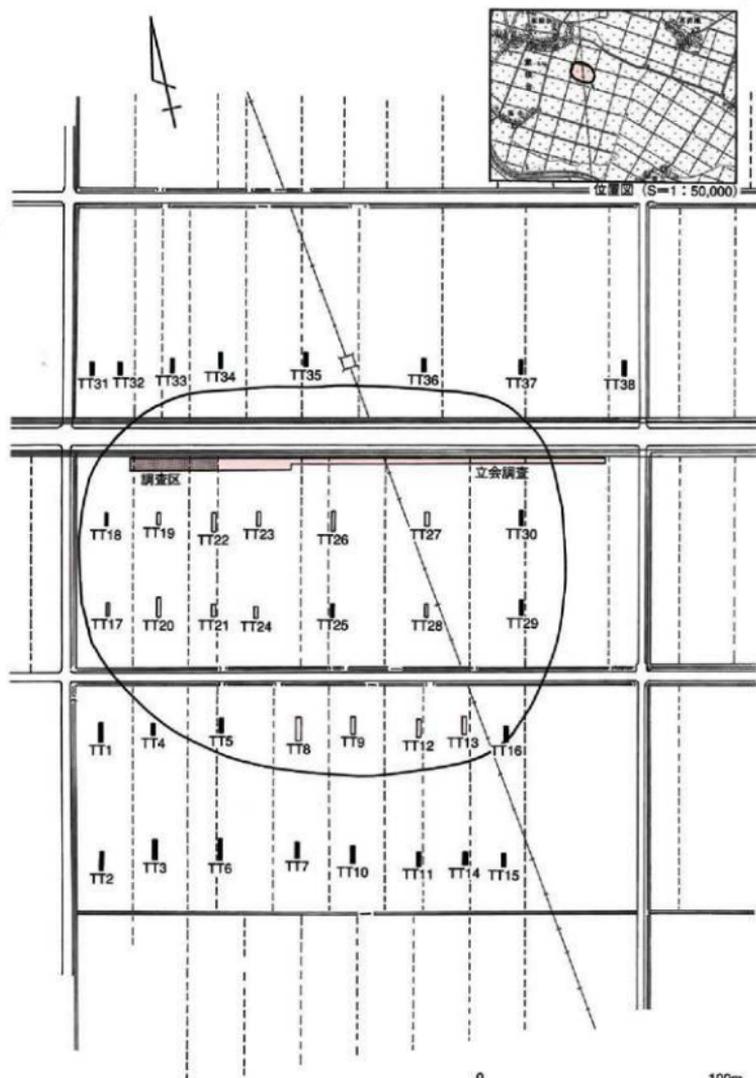
所見 遺跡は過去の改田で南側が一部破壊されている。遺跡範囲は、東西に走る農道(余目南部2期)と送電線の交差点から南側に約130m程、西へ100m・東へ60m程と考えられる。この範囲では、遺構検出面までは50～60cmと比較的深い状況を示す。遺物包含層(Ⅲ層)から下位は粘性が強い粘土である。農道建設時の調査では遺跡範囲の東西側とも泥炭質となり、遺跡範囲は限定されることが明らかとなっている。なお、縄文時代の遺物も少量だが出土している。隣接地あるいは調査対象地の青灰色粘土下層に遺跡が所在する可能性がある。遺跡は平安・縄文時代とも、遺構出土層・遺構検出面まで面工事による影響は受けられないため現状保存されるものと考えられる。

2 立会い調査の概要

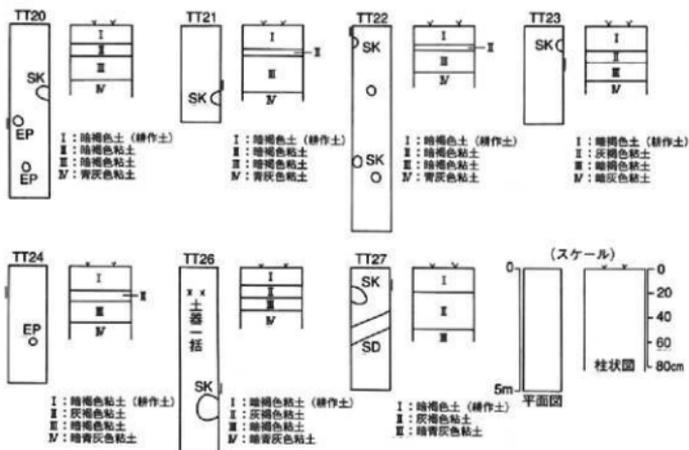
平成13年度ほ場整備工事に先行する農道南側へのパイプラインの設置に伴う立会い調査である。調査は、東側の泥炭層部分から開始し、泥炭が途切れ微高地となる部分(西へ125m地点)から一部拡幅して行った。拡張立会い面積は200㎡程である。

検出された遺構 遺構は柱穴10、溝跡2、柱根を伴う建物跡が検出された。溝跡は幅30～40cmで東側の溝跡は南北方向にはほぼ一致する。SB1に近い溝跡はSB1とほぼ同じ方向に走る。

SB1 調査区が限定されているため、建物跡の主軸方向は不明だが、北側3本の柱根列はN-75°-Eを測る(EB14-16)。この建物跡では4本の柱根が検出された。EB14は柱根の残欠が確認されたにとどまる。柱根間距離は、EB13-14間150cm、EB14-15間



第28図 家根合違跡概要図



第29図 家根合遺跡試掘調査検出遺構平面図・断面図

220cm、E B 15-16間160cmを測る。遺存している柱根は、E B 13で径32cm、E B 15で28cm、E B 16で22cm、いずれも先端部は加工されている。掘り方はいずれもプラン略円形で70-120cmと比較的大型である。柱根の配置、柱間距離からE B 15・16が母屋を構成、E B 14・16が庇を構成する可能性が考えられる。

以上の他に、E B 7で柱根が検出された。柱根の径は32cm、掘り方はプランで径80cmを測る。なお、平成6年の余目農道南部2期の工事にかかる立会調査では、柱根1基と浅い掘り方が数基確認されている(「分布調査報告書22」)。地点は今回の調査区の東側約10mの現農道下となる。

出土した遺物 全体で整理箱2箱ほど出土した。試掘調査同様に縄文時代と平安時代の遺物が出土した。縄文時代の遺物は縄文土器片3、石錐1が出土した。4点ともⅢ層上面での出土である。時期は土器が摩滅しているが、中期の所産と考えられる。

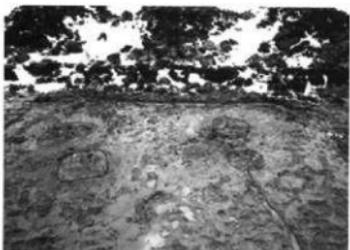
平安時代の遺物は、須恵器・土師器・赤焼き土器が出土している。須恵器の器種は、坏、甕がある。須恵器の坏は今回の出土遺物の大半が底部切り離しは回転へうきりで、口縁部へ直線的に立ち上がる。甕は体部に自然釉がかかる。赤焼き土器の器種は体部下半にタタキを有する長胴の甕がある。口縁部が外反してひらく特徴を有する。坏は小片であるようだが、稀少である。土師器はハケ目の細かい甕片が少量みられるに留まる。遺物の時期は、上記の特徴から9世紀初頭と考えられる。



遺跡近景（南から）



立会調査状況（東から）



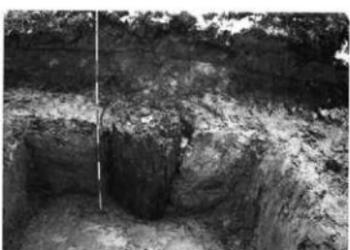
遺構検出状況（E P 8～11北から）



柱根検出状況（E P 13～15東から）



E B 7 検出状況（南から）



E B 7 断面（南から）



E B 13 断面（北から）



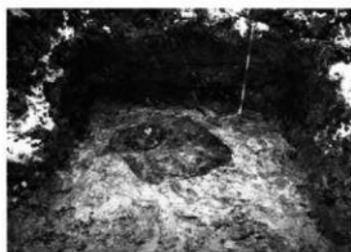
E B 14 断面（北から）



E B15検出状況（北から）



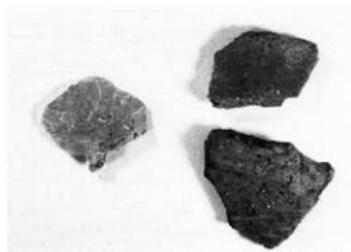
E B15断面（北から）



E B16検出状況（北から）



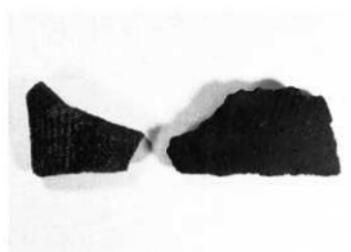
E B16断面（北から）



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)



出土遺物 (3)



出土遺物 (4)

(2) 中台^{ちゅうだい}1・2・6遺跡

(中台1・2～平成10年度登録 中台6～平成11年度登録)

所在地 山形県最上郡真室川町大字釜淵字中台

調査員 長橋 至

調査期日 立会い調査 平成12年7月17日～19日 7月25日～27日

起回事業 県営は場整備事業担い手育成型 八敷代地区

遺跡環境 J R奥羽本線釜淵駅の北北東3km付近に所在する。中台1・6遺跡は真室川の河床から数えて3番目の段丘に、中台2遺跡は2段目の段丘に立地する。標高は中台1が160m、中台2が150m、中台6が169mを測る。

2 立会い調査の概要

中台1遺跡 遺跡範囲のうち、切土工事にかかるJ R奥羽本線の南側約1,000㎡について調査を実施。埋設土器1基(底部～体部下半のみ遺存)が検出されたにとどまる。鉄道建設あるいは改田で全体に削平された状況を呈した。

中台2遺跡 遺跡範囲のうち、水路工事にかかる段丘縁辺部の幅2m、長さ150mについて実施した。全体に過去の改田で削平されている状況であった。遺構・遺物は2ヶ所検出された。調査区西半は地山が砂礫層となり、遺構・遺物は未検出である。

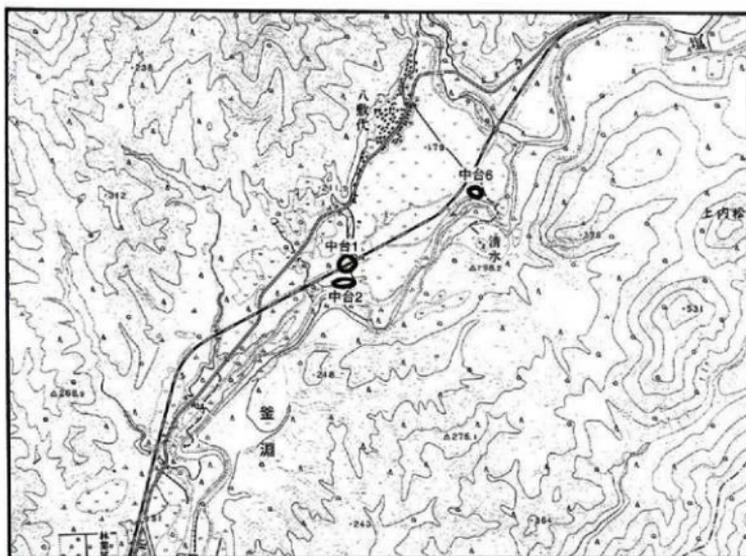
A区では柱穴32、土坑3基が検出された。土坑はいずれも径70～80cm、深さ5～10cmと浅く、覆土は黒色シルトである。柱穴は、調査区東側から中央部にかけて検出された。柱穴は径20～30cm、検出面からの深さは10～20cmを測る。覆土は黒色シルトが多い。なお、柱穴が5mの径で巡るように検出された部分は竪穴住居跡の痕跡とも考えられる。B区では土坑2基が検出された。S K36は径160cm、深さ20cm程の円形の土坑である。遺物は出土しなかった。S K37は3分の1は調査区外であるが、プランは短径120cmの不正楕円形で、底部は楕円状に狭くなる。覆土は暗褐色シルトの単一層である。遺物は出土しなかった。

出土物はA区の柱穴覆土からのフレイク2点にとどまる。B区では遺物は出土しなかった。

中台6遺跡 遺跡範囲のうち、水路工事にかかる段丘縁辺部の幅2m、長さ70mについて実施した。縄文時代の遺構・遺物は未検出であった。焼土を伴う土色変化が1ヶ所認められたが、近代の所産と考えられる。

以上、中台遺跡群のうち、は場整備事業で狭い範囲の切土にかかる中台1遺跡、水路工事にかかる中台2・6遺跡の立会い調査の状況を示した。調査区はいずれも遺跡のごく一部に限られた。

なお、同事業に関連し、中台2遺跡東側に隣接する中台4遺跡・中台5遺跡では、面工事により破壊される部分について緊急発掘調査が(財)山形県埋蔵文化財センターによって平成12年度に実施され、縄文時代中期末の大形の複式炉を有する住居跡等が検出されている。



第31図 中台1・2・6遺跡位置図

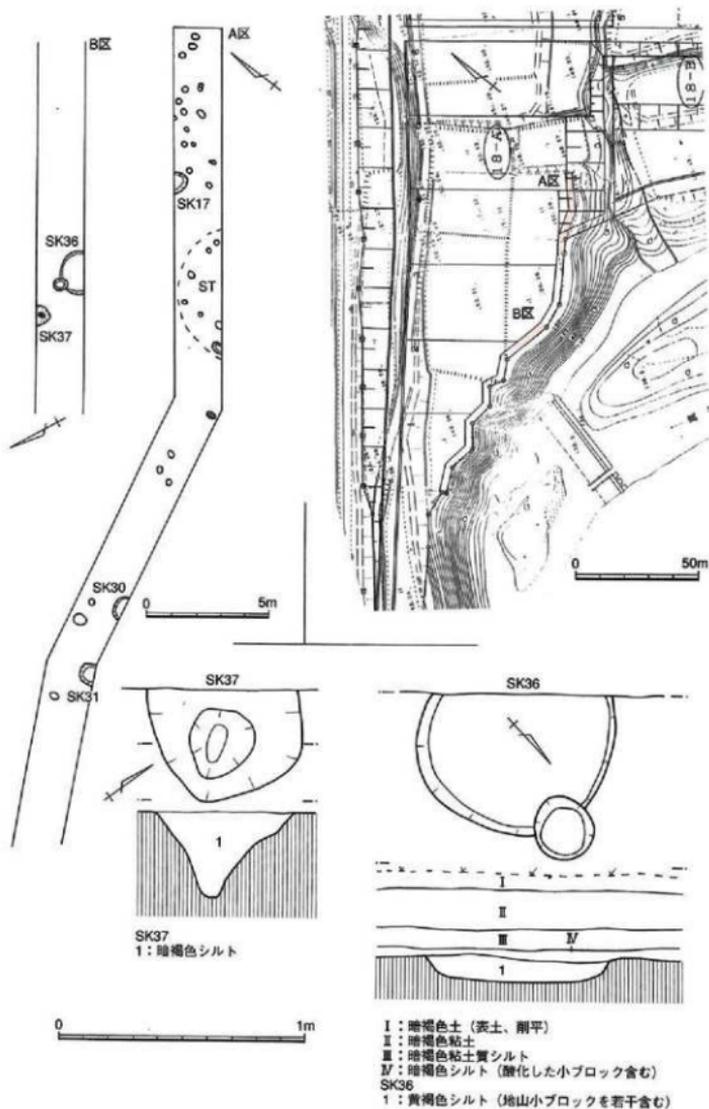
(S=1:25,000)



(S=1:10,000)

図中黒ベタ部分立会調査実地

第32図 中台1・2・6遺跡概要図



第33図 中台2遺跡検出遺構平面図・断面図



中台2遺跡近景（西から）



中台2遺跡調査区西側（西から）



中台2遺跡調査区東側遺構検出状況（西から）

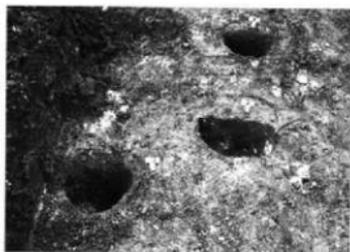


中台2遺跡調査区東端部遺構検出状況（西から）

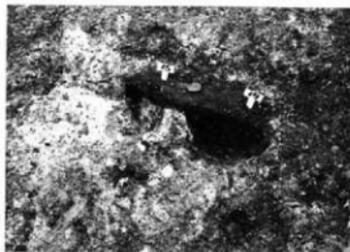


中台2遺跡東側ST?柱穴検出状況（西から）

図版25 中台2遺跡（1）



中台2遺跡柱穴土層断面



中台2遺跡柱穴土層断面



中台2遺跡調査区東側完掘状況全景(西から)



中台2遺跡調査区東側完掘状況(西から)



中台2遺跡調査区東端部柱穴完掘状況(西から)



中台2遺跡S K 36・37検出状況(西から)



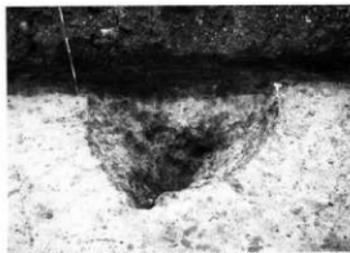
中台2遺跡S K 36土層断面(東から)



中台2遺跡S K 36完掘状況(東から)



中台2遺跡S K 37検出状況(北から)



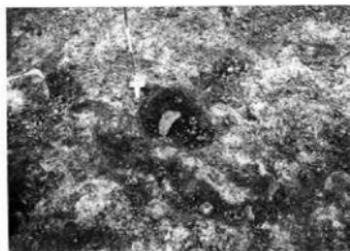
中台2遺跡S K 37完掘状況(北から)



中台1遺跡近景(西から)



中台1遺跡表土除去状況(西から)



中台1遺跡遺物出土状況



中台6遺跡調査状況(西から)



中台2遺跡出土遺物(1)



中台2遺跡出土遺物(2)

(3) 中川原C遺跡 (平成8年度登録)

所在地 山形県新庄市大字十日町字中川原

調査員 長橋 至

調査期日 試掘調査 平成12年4月24日～4月26日

立会い調査 平成12年9月4日～5日

起回事業 県営ほ場整備事業担い手育成型 野中地区

遺跡環境 泉田川右岸の河岸段丘に立地する。地目は水田、標高は113～117mを測る。
平成11年・12年度に(財)山形県埋蔵文化財センターにより緊急発掘調査実施。

1 試掘調査の概要

試掘区 遺跡北側にトレンチ23ヶ所を設定。3ヶ所で遺構・遺物を検出した。

試掘方法 水田中に重機と人力で試掘調査を実施。試掘面積は200㎡(対象面積14,000㎡)

調査結果 縄文時代の石器剥片、縄文土器片が0.5箱出土した。今回の対象地区は、遺構・遺物は極めて希薄であるため、遺跡の中心部からは外れる地点と考えられる。

2 立会い調査の概要

工事に際し、10cmの表土除去時に立会い調査を実施した。大きく1～4区とした。表土に含まれる遺物の採取という調査となった。採取された遺物は整理箱2箱程で、縄文土器(中期初頭)、磨製石斧、筒状石器、石錐、石錘等がある。特に、石錘の出土割合が高い。本遺跡の規模・範囲が表土からの遺物の出土状況でも明らかとなった。



第34図 中川原C遺跡概要図



遺跡近景（南から）



試掘調査状況（東から）



T P118土層断面



T P119遺構検出状況（東から）



T P135遺構検出状況（南から）



立会調査状況（南西から）



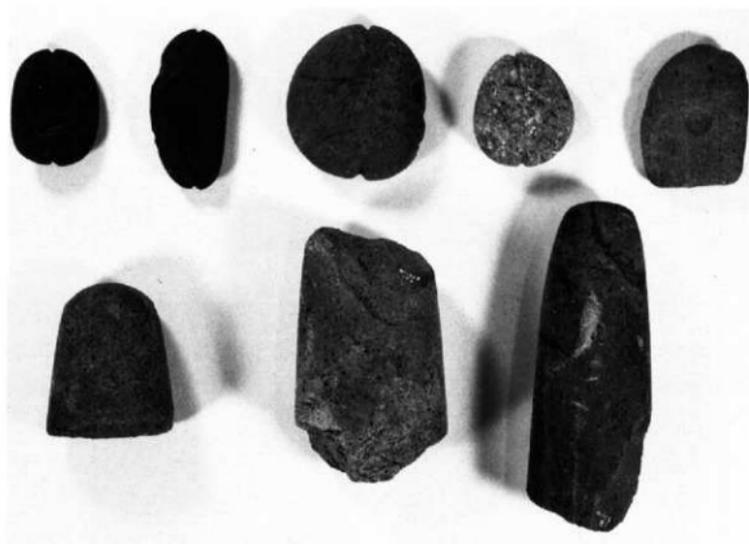
立会調査（表土除去工事）状況（西から）



立会調査（遺物出土状況）



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)



出土遺物 (3)



出土遺物 (4)

(4)ニタ子A遺跡 (遺跡番号2,255)

所在地 山形県飽海郡八幡町大蔵字ニタ子

調査員 阿部明彦

調査期日 平成12年8月3日

調査起因 中山間地域総合整備事業 (下青沢地区)

遺跡環境 荒瀬川右岸の河岸段丘に位置する。標高は約70m前後で、石動神社周辺の畑地やニタ子の集落周辺は旧地形を良好に止めていると考えられる。しかし、遺跡の北西部に当たる水田部分は、既に切り盛りなどによる大幅な改変が行われていることが平成10年度の試掘によって明らかにされている。

試掘区 施工によって深堀りが行われる国道沿いの排水路予定地に幅2m、長さ40mのトレンチを設置して遺構・遺物の検出を行いながら地山までの掘下げを行った。

試掘面積 80㎡

試掘方法 重機+人力

試掘結果 表土下から順次遺物の出土が認められたが、その包含状況は攪乱による混入や周辺高所からの流入と判断された。また、地山までの掘下げを行って後、面精査を行って遺構の検出に努めたが、確実な遺構は見つからなかった。

出土遺物は縄文晩期から弥生前期までの土器・石器類がある。しかし、調査地点での在り方は、一次的なそれではなく混在する状況と判断された。



第35図 ニタ子A遺跡概要図



遺跡近景（東から）



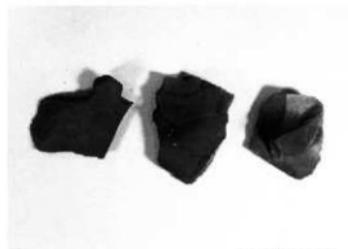
調査風景（東から）



調査トレンチ全景（東から）



出土遺物（1）



出土遺物（2）

(5) 山形城三の丸跡 (山形県中世城館遺跡調査報告書201-002)

所在地 山形県山形市城南町他

調査員 佐藤庄一

調査期日 現地確認 平成12年9月29日

立会調査 平成12年10月10日・30日、11月16日

起回事業 都市計画街路事業東原村木沢線改築工事

遺跡環境 山形城三の丸は山形市街地の中央に位置し、東西1.5km、南北2.0km程の範囲となる。今回の調査地はJ R山形駅のすぐ北方、奥羽本線を挟んだ場所に位置する。地目は宅地・道路等である。標高は132~134mを測る。

調査区 3回の立会調査で調査区3ヶ所を設定。

調査方法 地面に重機+人力で立会調査を実施。

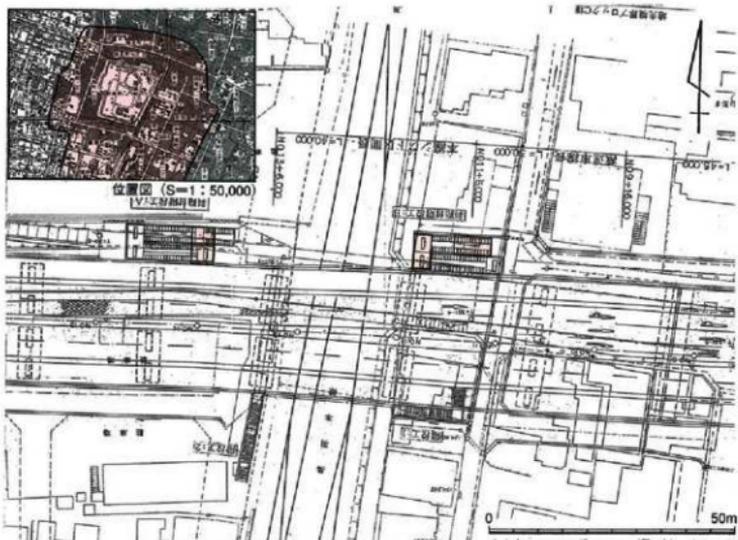
調査面積 88㎡ (対象面積約120㎡)

調査経過 都市計画街路事業に関わる階段工事の布掘部分3ヶ所について順次立会調査を実施。調査区は西から順に階段工A区、階段工B区西、階段工B区東と呼ぶ。

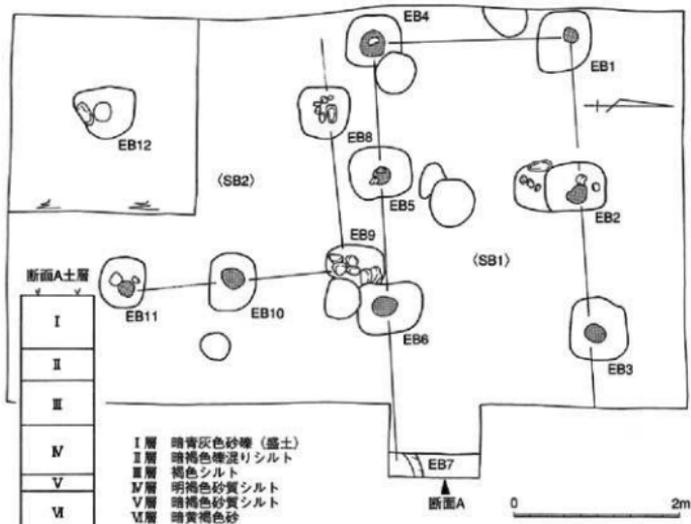
調査の結果

階段工A区 (第37図) : J R奥羽本線の30m西側に位置する。IV層の明褐色砂質シルト面で、柱掘り方12基とピット6個を検出した。柱掘り方は掘立柱建物跡を構成する。

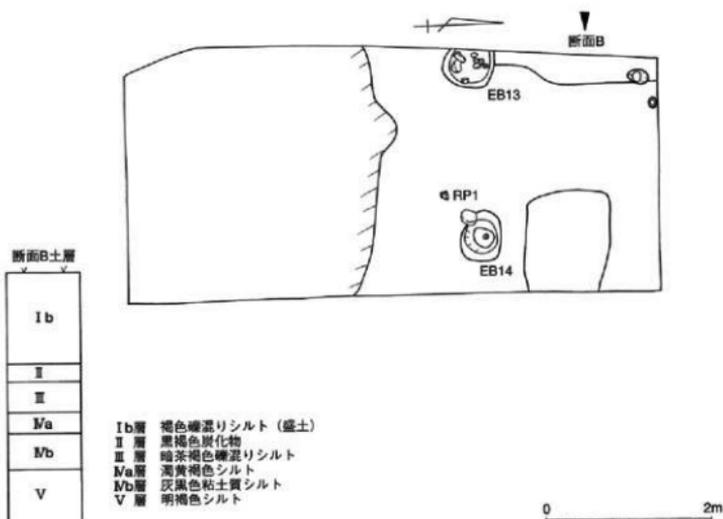
SB1は、EB1~7の7基の柱掘り方で構成される掘立柱建物跡で、東西方向の二つ



第36図 山形城三の丸跡概要図



第37図 山形城三の丸跡階段工A区平面図



第38図 山形城三の丸跡階段工B区西側平面図

の柱列が桁行をなすと思われるが、桁が北側に延びる可能性もある。掘り方は長径約70cmの隅丸方形を呈し、EB 1～6には直径20cm前後の柱アタリをもつ。柱間距離はEB 1と4の南北間が240cm、EB 1～3の東西間が180cm等間となる。

SB 2は、EB 8～11の4基の柱掘り方で構成されL字形の柱列をなす。掘り方は長径約60cmの隅丸方形を呈し、EB 10と11に直径20cm前後の柱アタリをもつ。柱アタリ周辺には一部根固めの小礫が認められる。柱間距離はEB 8と9の東西間が210cm、EB 9～11の南北間が150cm等間となる。

遺物はEB 9の周辺から瓦質の陶器が出土している。

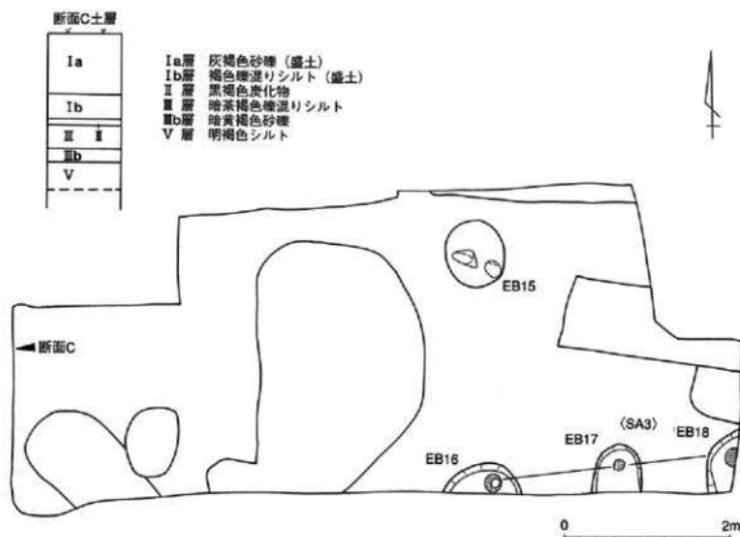
階段工B区西 (第38図)：JR奥羽本線の10m東側に位置する。IV a層の濁黄褐色シルト面で、柱掘り方2基とピット2個、落ち込み等を検出した。調査区の南半分は後世の擾乱を受けており、遺構は破壊されたものとみられる。

EB 13とEB 14は、長径約60cmの楕円形を呈し、両者の柱間距離が東西で210cmとなる。柱アタリ周辺には一部根固めの小礫が認められる。

遺物は遺物はEB 14の南西から視、EB 13の中から壺や鉢等の陶器が出土している。

階段工B区東 (第39図)：JR奥羽本線の20m東側に位置する。V層の明褐色シルト面で、柱掘り方4基と不整の落ち込み5基を検出した。EB 15から凹石が出土している。

SA 3は、EB 16～18の73の柱掘り方で構成される柱列で、掘り方は長径約90cmの楕円形を呈し、直径15cm程の柱アタリをもつ。柱間距離は東西間で150cm等間となる。



第39図 山形城三の丸跡階段工B区東側平面図



階段工A区近景（東から）



階段工A区全景（北から）



階段工A区建物跡



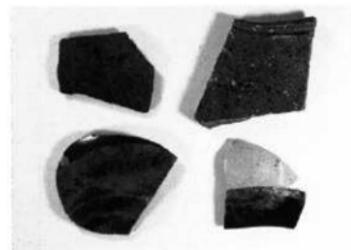
階段工B区西側全景（南から）



階段工B区西側柱穴



階段工B区東側全景（北から）



出土遺物（1）



出土遺物（2）

(6) 山田遺跡 (県遺跡番号1655)

所在地 山形県鶴岡市大字山田字油田他

調査員 佐藤庄一

調査期日 発掘調査 平成12年12月5～15日 (延べ9日間)

起因事業 都市計画街路3・4・15山田善宝寺線改良工事

遺跡環境 鶴岡市大山地区の南東、大山川と湯尻川に囲まれた微高地に立地する。地目は水田・畑地・宅地・工業団地等で、標高は14mを測る。

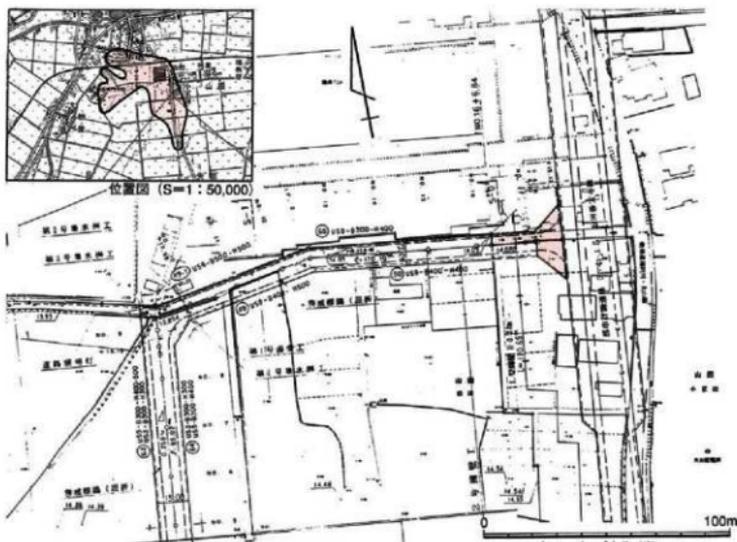
調査区 1回の発掘調査で調査区1ヶ所を設定。

調査方法 道路部分に重機+人力で発掘調査を実施。

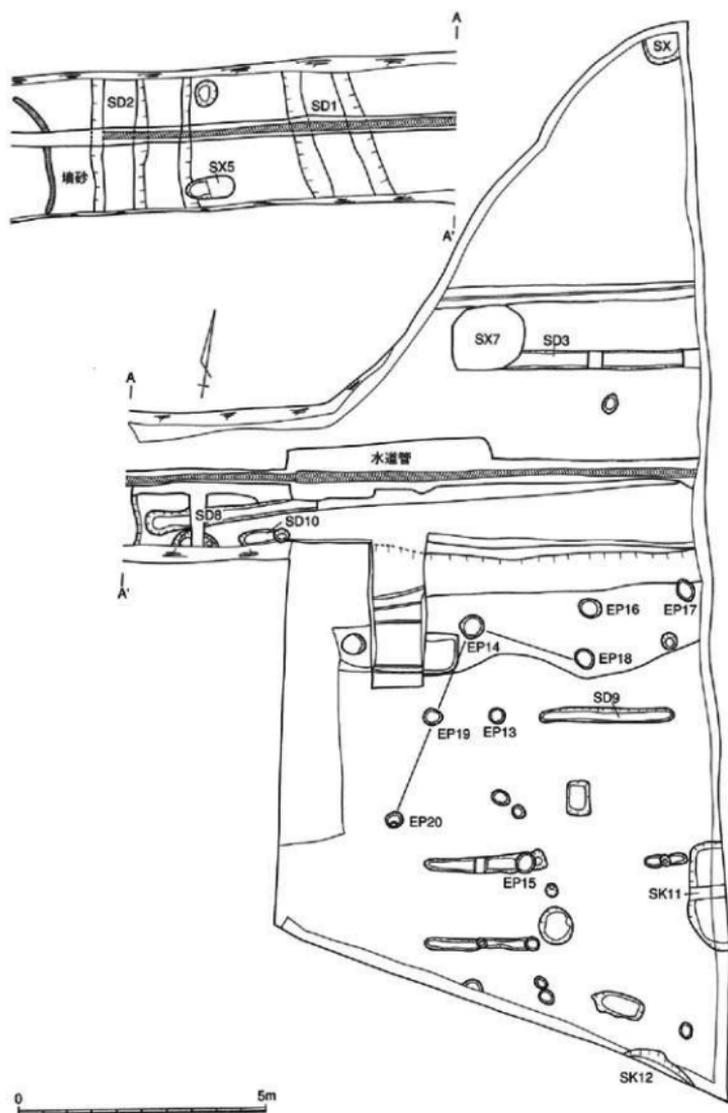
調査面積 188㎡ (対象面積約380㎡)

調査経過 山田遺跡のある鶴岡市西部地区には菱津古墳や矢馳A・B遺跡、大東遺跡など古墳時代から平安時代の遺跡が密に分布している。山田遺跡のうち本地区の東側にあたる南北方向の都市計画街路部分については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが平成11年度に発掘調査を実施している。また、本地区の西側にあたる市道部分については、鶴岡市教育委員会が鶴岡大山工業団地造成事業に関連して平成8年度から発掘調査を実施している。今回は都市計画街路事業に関わり、市道との取り付け部分について発掘調査を実施した。

時代 古墳時代 平安時代 中世



第40図 山田遺跡概要図



第41図 山田遺跡遺構配置図

調査の結果

検出遺構 (第41図) : 今回の発掘調査では、基盤をなすV b層の灰黄褐色粘土面で、柱列1本と土坑2基、大溝2条、溝跡、落ち込み状遺構、ピット等を検出した。調査区の北東部は建物の基礎工事等による後世の攪乱を受けており、遺構はほとんどみられない。

(1) **柱列** : 調査区南東部で検出されたE P 14とE P 18~20のL字形を呈する4個の柱穴である。全体の柱配置は不明であるが、掘立柱建物跡の一部をなすと思われる。柱掘り方の大きさは直径40~50cm、深さは30cm前後を測る。柱間距離はいずれも210cm等間である。遺物はE P 13周辺から底部へラ切り離しの須恵器片が出土している。

(2) **土坑** (第43図) : 調査区南東部で2基の土坑が検出されている。S K 11は長径240cmの楕円形ないし隅丸方形の土坑で、深さは50cm前後を測る、覆土は大きく5層に分かれ、F 4層から壺や鉢等の近世陶器が出土している。S K 12は長径160cm以上の楕円形の土坑で、深さは15cm前後を測る、覆土は暗褐色粘土質シルトの単一土層で、遺物は出土しなかった。

(3) **大溝** (第42図) : 調査区北西部で2条の大溝が検出されている。S D 1は上部の幅が330cm、下部の幅が170cmの南北方向の大溝で、断面形が二段状を呈する。Ⅲ a層の褐色粘土質シルト面からV b層の灰黄褐色粘土面までを掘り込んでおり、土層観察を加味した深さは140cm前後を測る。覆土は大きく3層に分かれ、各層とも遺物は出土しなかった。S D 2はS D 1の西方5mに位置し、上部の幅が300cm、下部の幅が150cmの南北方向の大溝である。S D 1と同様に断面形が二段状を呈する。Ⅳ層の褐色シルト面からV b層の灰黄褐色粘土面までを掘り込んでおり、土層観察を加味した深さは100cm前後を測る。覆土は大きく4層に分かれ、各層とも遺物の出土はなかった。

幅が300cm前後の南北方向の大溝は、鶴岡市教育委員会による平成9年度の鶴岡大山工業団地造成事業に関わる発掘調査でもこの調査区の西側から確認されている。鶴岡市教育委員会の担当者によれば、これらの大溝は覆土に中世の陶器を含み、今回のS D 1・2の大溝と合わせ、60~90mを単位として方形に巡る館の掘跡の可能性が高いということである。山田遺跡の周辺には尾浦城等の中世の遺跡もあり、今後これらとの関連が目ざされる。

(4) **その他** : この他の遺構として、調査区南東部で検出されたS D 9等の東西方向に伸びる溝跡がある。幅が20cm、長さが250cm前後のこれらの溝跡は、ほぼ同じ間隔で並ぶことと、付近から須恵器が出土することから、平安時代の畑の畝跡の可能性をもつ。同様な溝跡は、調査区北東部の一段低い面でもS D 3・8・10等が検出されている。

さらに調査区北西部と南東部からは、地震等の近く変動で吹き出した填砂の痕跡が数ヶ所で認められた。時期的な断定は難しいが、平安時代の遡る可能性を有する。

所見 今回の発掘調査は山田遺跡の北東部を対象としたもので、調査の結果平安時代の建物跡や中世頃の方形区画の大溝の一部等が確認された。この他部分的な検出ではあるが、平安時代に遡る可能性をもつ畝状遺構や填砂の痕跡も発見されている。



調査区近景 (南から)



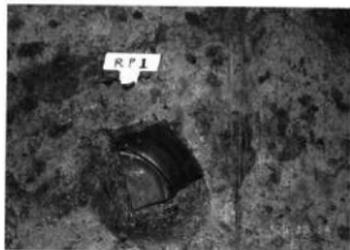
南壁土層断面



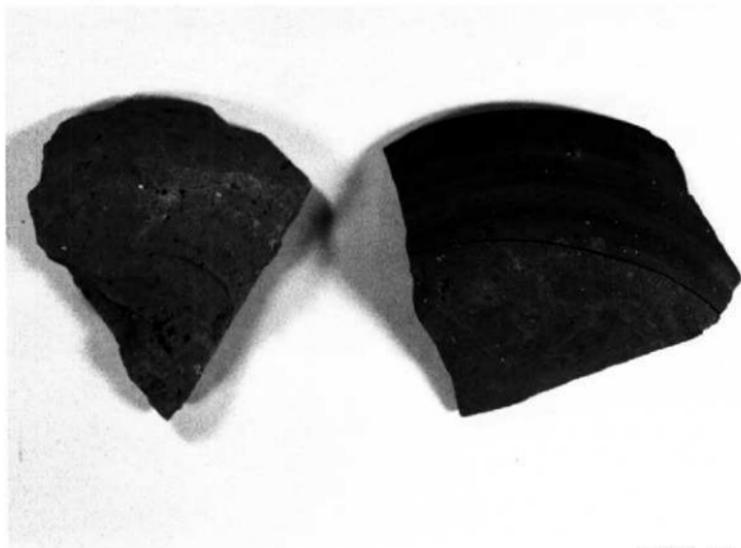
北西調査区清跡断面



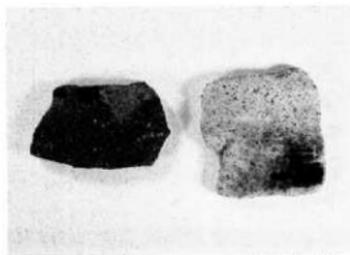
北西調査区近景 (西から)



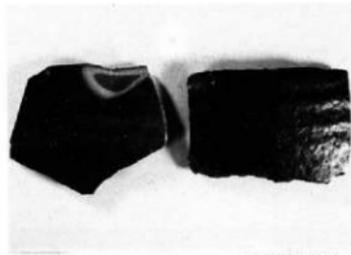
須恵器出土状況



出土遺物 (1)



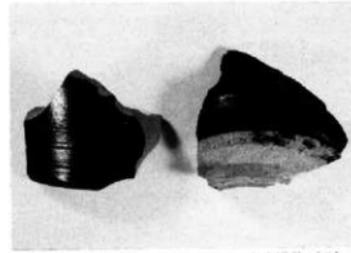
出土遺物 (2)



出土遺物 (3)



出土遺物 (4)



出土遺物 (5)

(7) 鶴ヶ岡城跡 (山形県中世城館遺跡調査報告書203-001)

所在地 山形県鶴岡市馬場町他

調査員 佐藤庄一

調査期日 立会調査 平成12年4月28日、6月6～8日、10月10～11日、11月5日

起因事業 東北公益文化大学大学院建設関係取水・送水管埋設工事 山形県鶴岡警察署公園警察官派出所解体工事 都市計画街路羽根橋加茂線揚水・注水井・ハンドホール工事

遺跡環境 遺跡は鶴岡市街地のほぼ中央に位置し、赤川左岸の微高地に立地する。標高は16m前後を測る。城の形態が平城で、本丸・二の丸・三の丸と各郭の外周を土塁と堀が巡る。今回の調査地点はいずれも三の丸の南側にあたる。

調査区 5回の立会調査でトレンチ10ヶ所を設定。

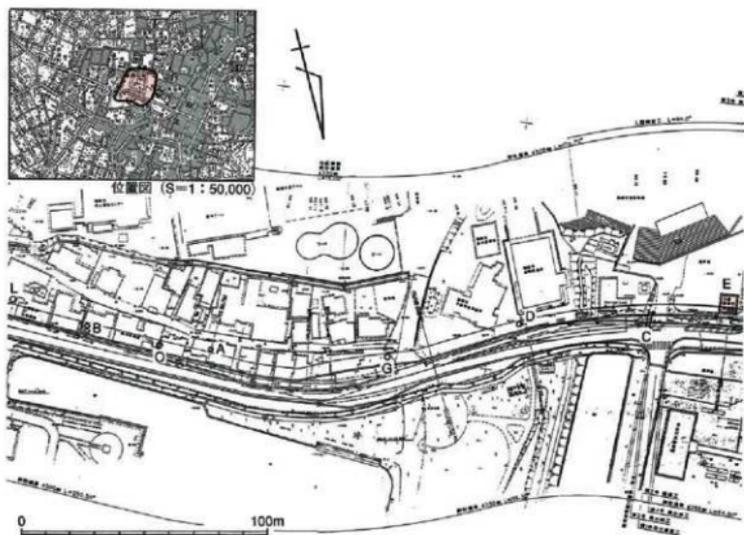
調査方法 道路に重機+人力で立会調査を実施。

調査面積 100㎡ (対象面積約100㎡)

調査の結果 検出遺構

(1) 東北公益文化大学大学院建設関係取水・送水管埋設工事 (第45図): 平成12年3月に引き続き立会調査を実施したもので、場所は(財)致道博物館南東の交差点中央にあたる。当初、取水管と送水管の埋設部を別々に調査する予定であったが、安全面から両者を合わせたトレンチを1本設定した。

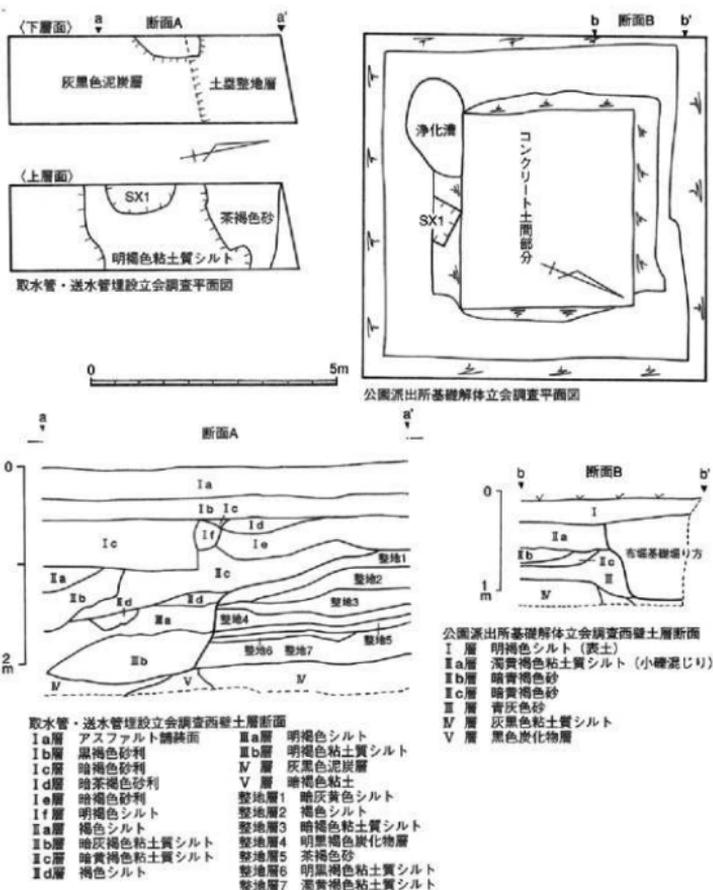
調査は道路舗装部とその下の砂礫層の盛土を重機械で約60cm下まで撤去し、順次地層を



第44図 鶴ヶ岡城跡概要図

剥いだのち、II C層の暗黄褐色粘土質シルト面で遺構を確認した。この面では調査区の中央で落ち込みを1基(SX1)検出した。さらに面を掘り下げたところ、調査区の中央北寄りで幅2m以上、厚さ120cmの整地層を検出した。整地層は大きく7層に分けられ、各層とも10~30cmの厚さで水平な堆積を示す。これらは二の丸から三の丸にかけての土塁ないし土橋の一部をなすものと考えられる。

(2)山形県鶴岡警察署公園警察官派出所解体工事(第45図):旧公園警察官派出所の解体後、新派出所の基礎工事部分について立会調査を実施した。



第45図 鶴ヶ岡城跡検出遺構平面図・断面図(1)

かなりの部分が旧派出所の布掘り基礎工事によって破壊されているが、調査区の南側で80cm四方の落ち込み遺構(SX1)を検出する。遺構確認面からの深さは約10cmと浅く、遺物の出土はない。ただし、布掘り基礎工事の攪乱した土から近世の陶磁器が3片発見されている。

調査区の北西隅で地層の断面を確認したところ、Ⅲ層の青褐色砂層の下に灰黒色粘土質シルトや黒色炭化物層が厚く堆積していることが判明した。江戸時代の絵図には、この付近が三日月形の堀に表示されており、本調査区の黒色炭化物層等がこの堀の埋土になる可能性がある。

(3)都市計画街路羽黒橋加茂線揚水・注水井設置工事(第45図):鶴ヶ岡城二の丸堀跡の南側、都市計画街路羽黒橋加茂線の南側歩道で揚水井2ヶ所(A区、D区)、注水井2ヶ所(G区、L区)の立会調査を実施した。

揚水井A区は、最終的にV層の黄褐色粘土面で遺構を確認し、土坑等4基を確認した。SK1は、長径60cmの楕円形の土坑で、中から青磁の碗が1点ほぼ完形の状態で見出されている。揚水井D区は、最終的に地表下160cmの黄褐色粘土面まで掘り下げたが、遺構を確認されなかった。

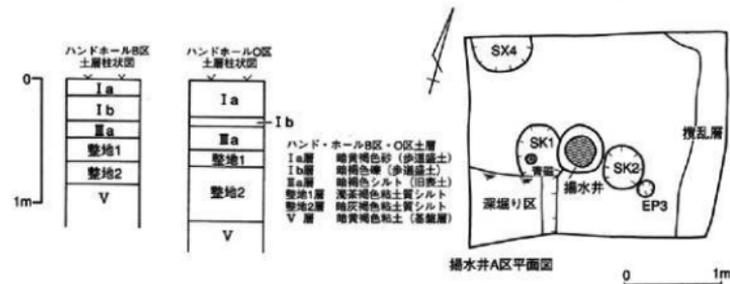
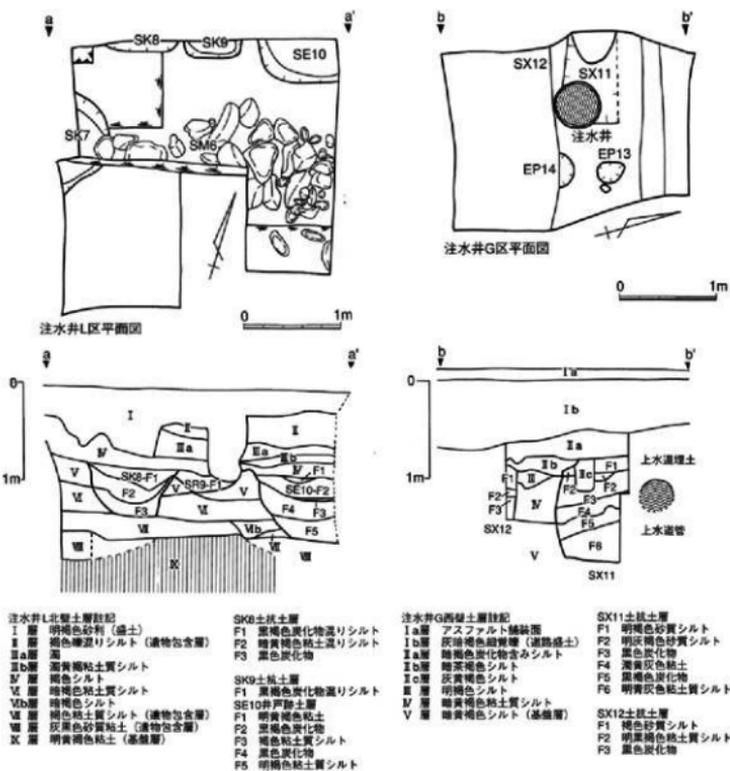
注水井G区は、最終的にV層の黄褐色粘土面で遺構を確認し、落ち込み2基とピット2個を確認した。SX11は長径110cmの楕円形の落ち込みで、深さは110cmを測る。部分的な調査であるが、井戸跡の可能性はある。遺物は近世陶磁器が2片出土している。

注水井L区は、I層の砂利層を30cm程掘り下げたところ、II層の礫混じり土から近世の家紋付きの丸瓦がまとまって発見された。Ⅲ層とⅣ層は整地層と思われる水平の堆積層で、その下面から土坑や井戸跡が検出された。なお、Ⅲ層とⅣ層にはカワラケ皿片と珠洲系陶器片が含まれている。SE10は検出径が80cm以上の隅丸方形を呈する井戸跡で、深さは135cmを測る。覆土は5層に分かれ、F4から着等の木製品が出土している。SK8とSK9は検出径が70cm前後の土坑で、覆土からカワラケ皿片が出土している。L区の北東部で直径20~40cmの河原石をまとまって検出した。当初は井戸跡に伴う排水施設とも考えたが、順次これを掘り進めていく過程で窪地に添って河原石が不規則に分布すること等から、整地の際に埋め込んだ礫層と推定される。

(4)都市計画街路羽黒橋加茂線ハンドホール埋設工事:鶴ヶ岡城二の丸堀跡の南側、都市計画街路羽黒橋加茂線の南側歩道で揚水井と注水井等に関わるハンドホール4ヶ所(B区、D区、L区、O区)の立会調査を実施した。

このうち揚水井D区と注水井L区北側のハンドホール部分では、V層の黄褐色粘土面を掘り込んで幅60cm、深さ30cm前後の東西方向の溝跡が検出された。覆土の状態等からみて、二つの溝跡は同一のものと思われる。

所 見 鶴ヶ岡城二の丸堀跡の南側、羽黒橋加茂線の南側を対象とした今回の調査からは、江戸時代の土橋に関わる大規模な整地層や土坑、井戸跡等が検出された。この地区からは珠洲系陶器片等中世に遡る遺物も出土しており、今後とも保護が必要である。



第46図 鶴ヶ岡城跡検出遺構平面図・断面図(2)



調査区近景



取・送水管西壁土層断面



公園派出所調査区全景（北から）



注水井2全景



注水井2北壁土層断面



注水井断面

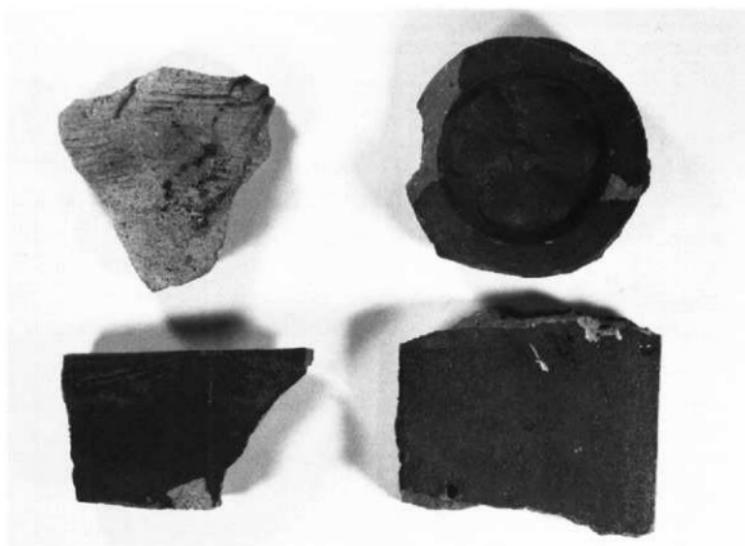


ハンドホール立会調査状況（西から）

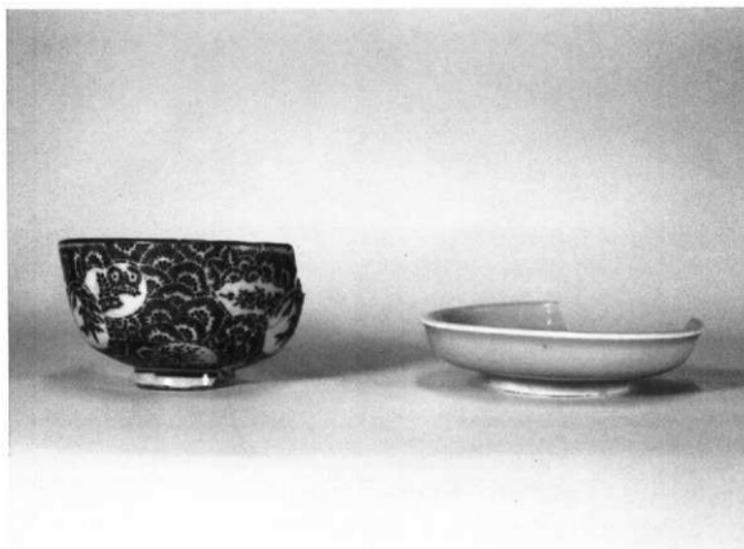


トレンチ断面

図版35 鶴ヶ岡城跡（1）



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)

(8) 箕輪遺跡 (平成12年度登録)

所在地 山形県寒河江市大字箕輪字深町170他

調査員 佐藤庄一

調査期日 立会調査 平成12年12月19～20日

起回事業 願行寺沢砂防ダム関連水路掘削工事

遺跡環境 寒河江市箕輪地区の北東に位置し、願行寺沢が平地部に流れ出る微高地に立地する。地目は畑地・宅地・道路等で、標高は110mを測る。

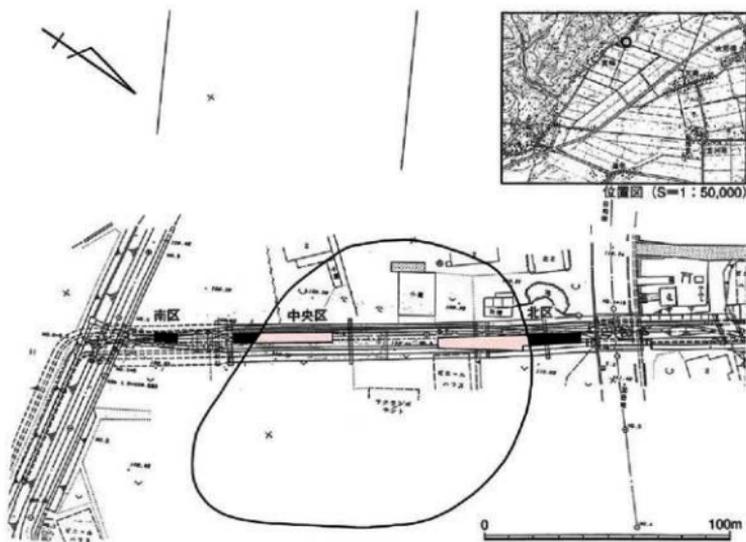
調査区 1回の立会調査でトレンチ3ヶ所を設定。北から北区、中央区、南区とよぶ。

調査方法 畑地に重機+人力で立会調査を実施。

調査面積 146㎡ (対象面積約700㎡)

調査経過 現地は以前古墳時代の鉄製品が出土したことから、この地に古墳があったと考えられ、寒河江市教委により「箕輪古墳推定地」の石碑が立てられている場所である。

検出遺構 北区:「古墳推定地」石碑に近い北側には遺構が認められず、南側から堅穴住居跡が2棟検出された。このうちST1住居跡(第48図)は、南北検出径4.2m、東西検出径1.4mを測る隅丸方形の堅穴住居跡である。検出面から床面までの15cm前後である。中央に柱アタリをもつ柱穴が1個あるだけで、カマド等の施設は認められない。覆土2層から床面にかけて、赤焼土器の坏や甕、須恵器の坏や甕がややまとまって出土している。時期は平安時代10世紀初め頃と推定される。

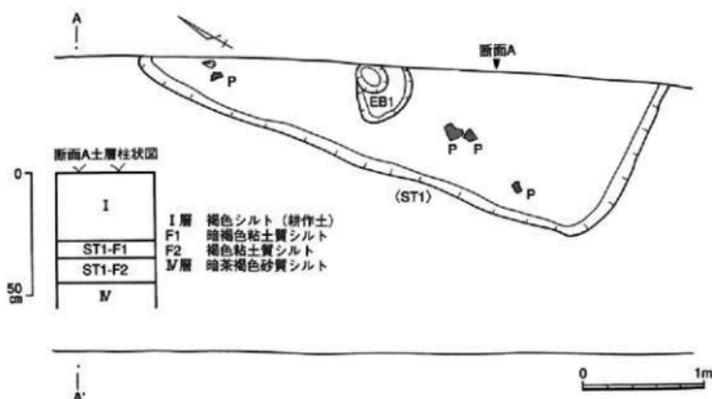


第47図 箕輪遺跡概要図

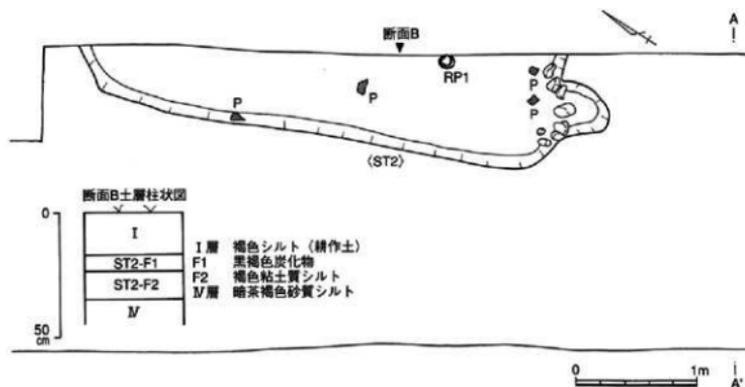
ST2住居跡(第49図)は、南北検出径4.3m、東西検出径1.0mを測る不整形の竪穴住居跡である。検出面から床面までの15cm前後である。南西隅に張り出し部があり石が集中して分布することから、カマドの存在が考えられる。覆土2層から床面にかけて、赤焼土器の坏や甕、須恵器坏、内黒土器坏がややまとまって出土している。時期は平安時代10世紀初め頃と推定される。

中央区：柱穴による柱列が2列検出されているが、調査区が狭いため掘立柱建物跡の組合せまでには至らなかった。遺物は赤焼土器坏や甕、須恵器甕等が少量出土している。

所見 立会調査の結果、本工事区内に「箕輪古墳推定地」を裏付けるものは認められなかったが、調査区中央に平安時代の集落跡が新たに確認された。



第48図 箕輪遺跡検出遺構平面図・断面図(1) ST1



第49図 箕輪遺跡検出遺構平面図・断面図(2) ST2



ST1 検出状況



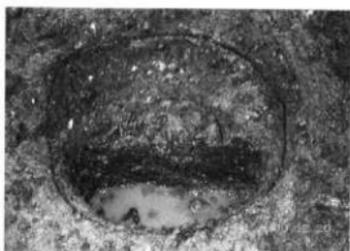
立会調査状況



ST2 検出状況



中央区柱穴群



柱穴半截状況

図版37 箕輪遺跡 (1)



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)

図版38 箕輪遺跡 (2)

(9) 米沢城跡 (県遺跡番号1216)

所在地 山形県米沢市丸の内一丁目

調査員 佐藤庄一

調査期日 現地確認 平成12年8月28日 立会調査 平成12年9月11～13・20日

起回事業 県立置賜広域文化施設機械棟建設

遺跡環境 米沢城は米沢市街地の南西部に位置し、本丸、二の丸、三の丸の一部を加えた南北約560m、東西約600mの範囲が遺跡として登録されている。今回の調査地は置賜広域文化施設本体に隣接する場所で、二の丸の南東隅にあたる。標高は250mを測る。

調査区 2回の立会調査で調査区4ヶ所を設定。

調査方法 地面に重機+人力で立会調査を実施。

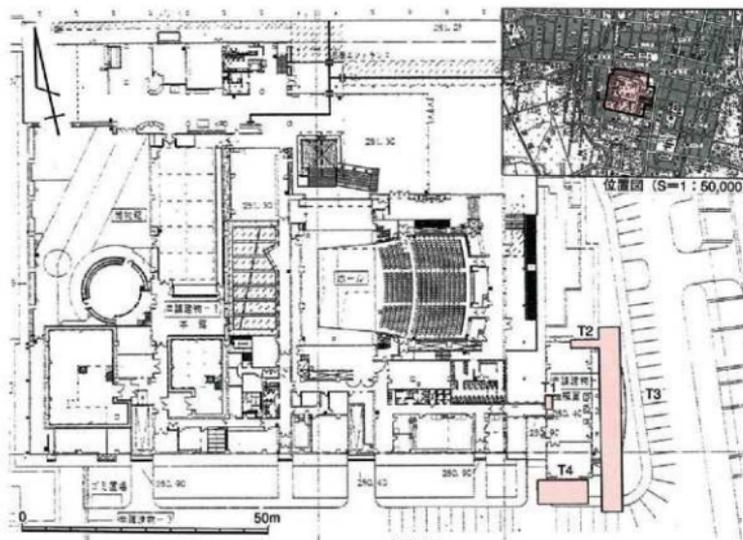
調査面積 216㎡ (対象面積約720㎡)

調査経過 置賜広域文化施設機械棟建設に布掘部分について、工事に合わせ順次立会調査を実施。調査区は西から実施順にT1～T4と呼ぶ。

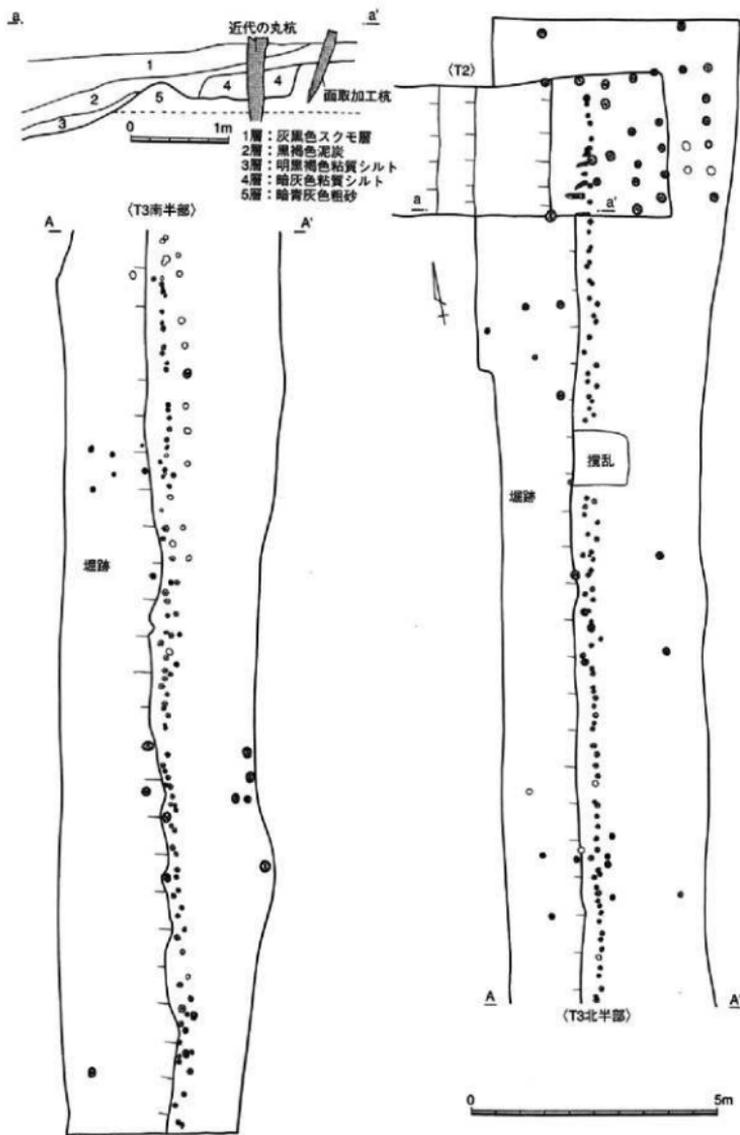
調査の結果

T1区：工事掘削面が堀底まで達しないため、遺構は検出されなかった。

T2・T3区 (第51図)：調査区の東端にあたる場所である。T3は幅4～5m、長さ38mの南北に長いトレンチで、全面に南北方向の堀跡とこれに添った形の打ち込み杭列が検出された。堀跡は検出幅が150～200cmと短い。東西方向に設定したT2の観察結果では、



第50図 米沢城跡概要図



第51図 米沢城跡 T 2・3 平面図

150cm程の平場から西側に向かって次第に下がっていくようである。堀底は基盤層の暗青灰色粘土質シルトを切って、検出面から約80cmで確認された。打ち込み杭は直径9cm前後のものを六角形に面取りし先を削いだもので、ほぼ30cm間隔で南北に1～2条の列をなしている。これらの杭列は、頭を東側に傾けて斜めに打ち込まれたことがT2の断面観察からわかり、堀跡の東側にあったであろう土塁を補強するための乱杭と推定される。また、T3の北側を主に直径20cm前後の表皮の付いた丸杭が検出されているが、これらは明治以後の新しい打ち込み杭と考えられる。遺物は堀跡の上層から壺や徳利、茶碗等の陶磁器が少量出土している。

T4区:調査区の南西隅にあたり、東西10m、南北5mのトレンチである。工事深度の3.3mまで掘り下げたところ、堀底に「口」字状の約3m四方の落ち込みが二ヶ所で見え、これに検出された。遺物は落ち込みの中から、茶碗等の陶磁器が少量出土している。

所見 立会調査の結果、調査区の東側からはほぼ全面にわたって米沢城二の丸堀跡の立ち上がりが確認された。当初、堀跡は東側の県道に添って延びると思われたが、今回の調査で堀跡は二の丸の南西隅で一旦西側に入り、さらに東門近くで鋭形に曲がることか確認されたことになる。平成12年度の米沢市教育委員会による二の丸南側の市道調査でも堀跡が東側で切れることがわかっており、今回の調査結果と符合する。

T4で検出される約3m四方の落ち込みは、平成10年度の財団法人山形県埋蔵文化財センターの調査で検出された東側堀底の「障子掘り」区画に対応する施設と考えられる。



東橋調査区全景（北から）



北東隅杭列



木杭打込み状況



北精査区溝跡



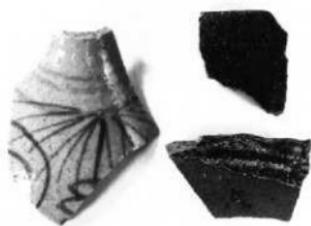
立会調査状況（北から）



南精査区全景（東から）



南精査区障子堀



出土遺物（1）



出土遺物（2）

(10) 黒森遺跡 (県遺跡番号2070)

所在地 山形県酒田市大字黒森

調査員 阿部明彦

調査期日 立会い調査 平成12年8月1日

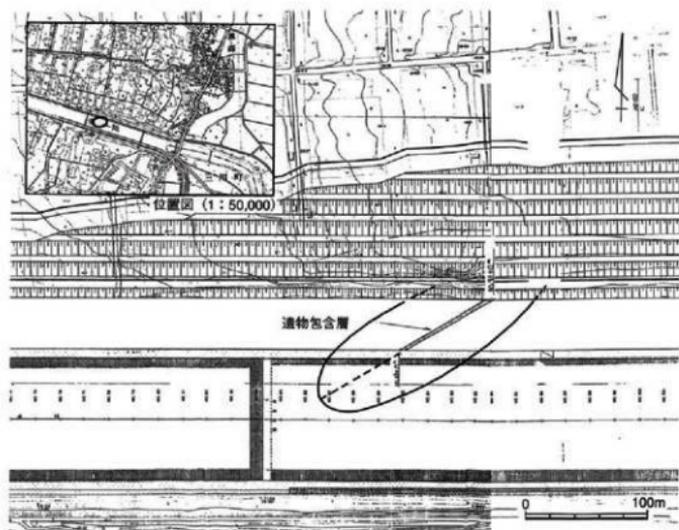
起因事業 赤川放水路拡幅事業

遺跡環境 遺跡は、黒森集落の中心部から南西へ約1.3km、赤川に架かる新川橋の下流約800mの地点(海拔1~2m)に位置する。現況は高水敷と呼ばれる河川敷内で、本来であれば現庄内砂丘下、海岸線からの距離1.8kmの地点に埋没していたこととなる。

調査区・調査方法 遺物等が露出していた黒砂層の走向に沿って、包含層の状況や遺物の分布を確認した。流水の侵食を免れた部分については手作業で土層観察や遺物の包蔵状況の観察を行ったが、既に上部を流失した部分については、重機を用いて5~10cmほどの面下げを行いながら遺構・遺物の検出を試みた。

調査結果 遺跡の位置が特定できたことに意義があるが、遺構は検出されず、また黒砂層の分布が、西に高く東に低い傾斜を示すことからその面的な拡がり把握できない。当時から水平な状態ではなかったか、あるいは、自然営力による褶曲作用等が砂丘下埋没後に起っている可能性が考えられる。なお、遺跡は埋戻されて現状で保存された。

出土遺物 縄文時代中期(大木9式期の土器)のもの若干と平安時代(9世紀後半から10世紀前半頃)のあかやき土器や須恵器甕類などが大半を占めている。



第52図 黒森遺跡概要図



遺跡近景（東から）

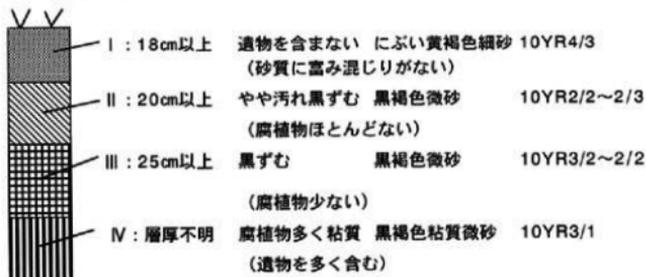


遺跡近景（南から）

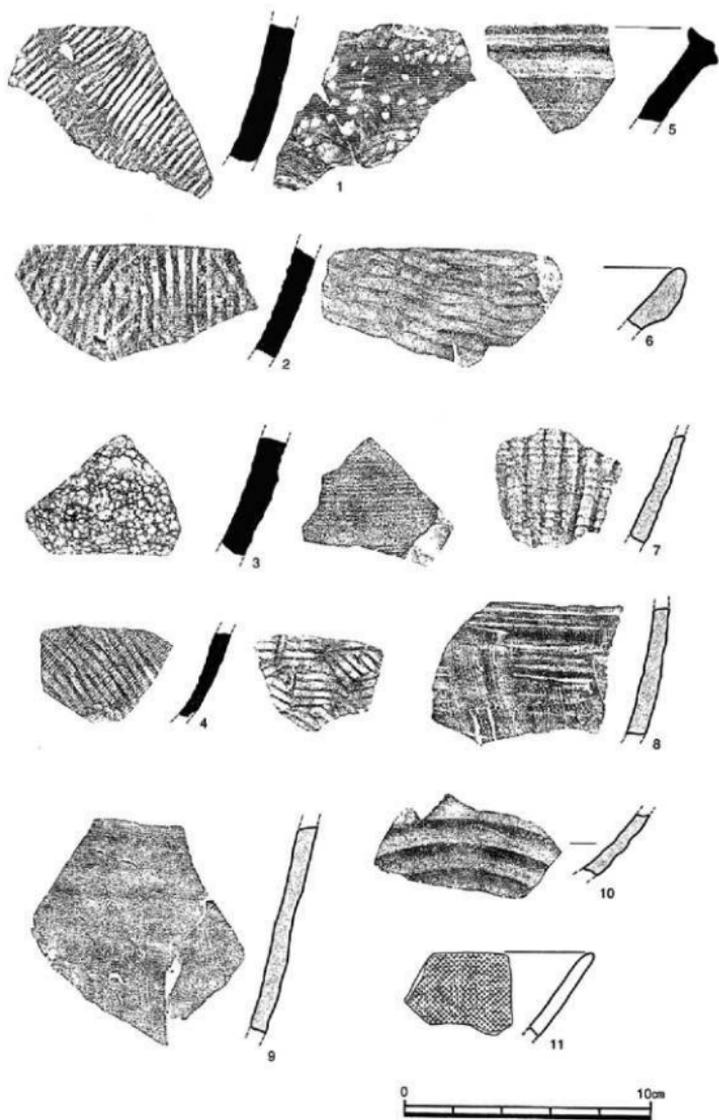


土層断面（西北から）

図版41 黒森遺跡（1）



第53図 黒森遺跡土層断面模式図



第54回 黒森遺跡出土土器拓影図



遺物出土状況（北から）



遺跡近景（北から）



調査風景（東から）



出土遺物（縄文・あかやき土器、須恵器）



出土遺物（縄文土器）

(11)金沢遺跡 (平成12年度登録)

所在地 山形県山形市大字村木沢字金沢

調査員 長橋 至

調査期日 試掘調査 平成12年5月11～12日 6月20日

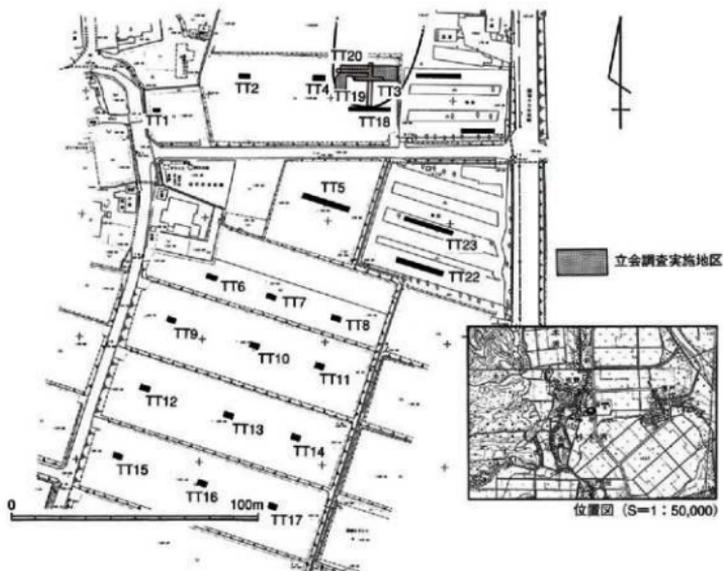
立会い調査 平成13年2月14日

起回事業 田圃定住区住宅供給事業 村木沢地区

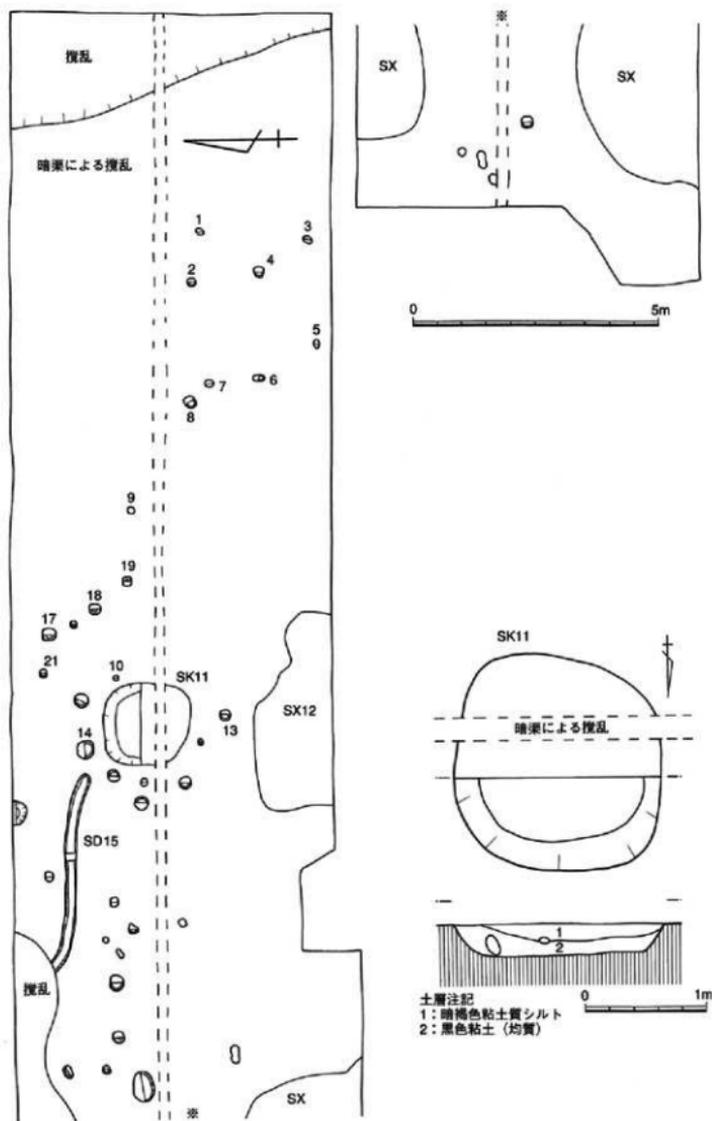
遺跡環境 山形盆地西端部、緩傾斜する水田、鶏舎跡地に立地する。標高は120mを測る。

試掘調査の概要 重機+人力で調査。試掘面積285㎡(対象面積約20,000㎡)。合計で23ヶ所のトレンチを設定した。対象地区北側の一部で、柱穴、平安時代の須恵器、赤焼き土器片が少量出土したため新規登録遺跡とした。遺跡は今回の調査対象地区に北側に広がるものと考えられる。

立会い調査の概要 道路予定地約200㎡について実施した。柱穴40、幅20cm深さ5cmほどの溝状遺構1、土坑1が検出された。改田により全体に削平された状況を呈した。また、調査区中央に暗渠が埋設、さらに調査区東西端部で近現代の攪乱が認められた。柱穴による建物の構成は明確ではない。土坑は径170cm程の略円形を呈する。底は平坦で検出面からの深さは25cm、覆土は2層となる。土坑覆土からの遺物の出土はない。遺物は須恵器甕、赤焼き土器甕片が出土した。その他の遺構からも今回は遺物の出土はなかったが、覆土の状況から検出された遺構は平安時代の所産と考えられる。



第55図 金沢遺跡概要図



第56図 全沢遺跡検出遺構平面図・断面図



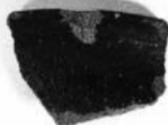
遺跡近景（北から）



立会調査遺構検出状況（北西から）



立会調査状況（北東から）



出土遺物

(12) 渋江遺跡 (遺跡番号160)

所在地 山形県山形市大字渋江字寺小路

調査員 阿部明彦 調査協力(財)山形県埋蔵文化財センター

調査期日 平成12年12月23日～27日

起因事業 主要地方道山形・羽入線道路整備事業

遺跡環境 渋江所在の真福寺境内裏手に隣接し、馬見ヶ崎川下流(白川)の右岸、自然堤防上に立地する。

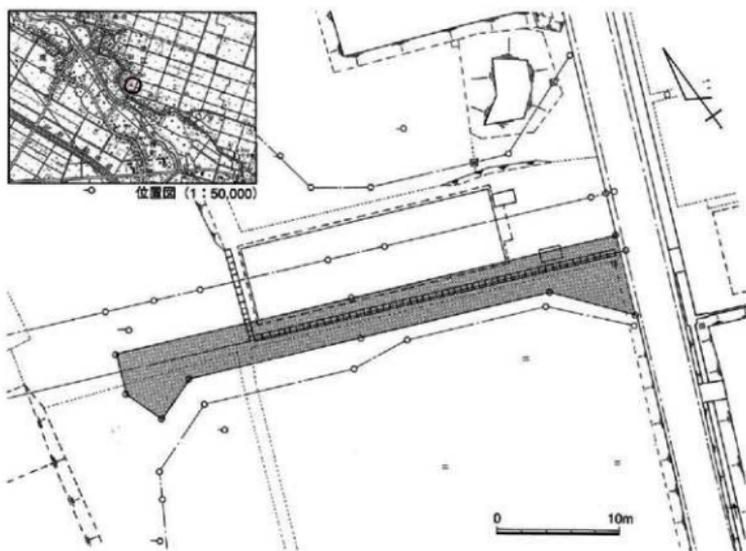
調査区 道路整備に伴って付け替え工事が必要となる市道(山形・千手堂線)予定地内の埋管付設部分に幅3.5m×長44m規模の調査区を設定し、対象地を30～40cmの深さで重機で掘り下げた後、人力による面整理・精査を行って遺構・遺物の検出を行った。

時代 古墳時代(中期) 江戸時代(後期)

江戸時代の遺構と遺物

調査地は元々渋江村の共同墓地だったと伝えられる所であり、表土下30cm内外で多数の平箱(直方体形)棺を主体とする墓跡群が検出された。これらは、狭い範囲に数基以上重複して埋設される在りが特徴で、限られた小区画内での継続的な埋葬の様子と判断できる。埋葬された人々はこれらの状況から、血縁関係にあった家族と推測されよう。

棺となる平箱は、その大小や構造に違いが認められ、埋葬時期や大人・子供の別などよ



第57図 渋江遺跡概要図

沓江遺跡検出遺構一覧

分類	No	地区	層位	形態	規模 (cm) LWH			備考	その他
S H	1	3 G	Ⅲ	箱形	70	32	4	古伊万里酒坏	
S H	2	3 G	Ⅲ	箱形	26以上	38	6	地区外に係る	
S H	3	4 G	Ⅲ	箱形	62以上	44		六文銭 寛永通寶 3期	規模大
S H	4	4 G	Ⅲ	箱形	44	34		六文銭 寛永通寶 3期	北御板に「卍」墨書
S H	5	4 G	Ⅲ	箱形	50	24		六文銭 寛永通寶 3期	
S H	6	4 G	Ⅲ	箱形	40	27	23	六文銭 寛永通寶 3期	
S H	7	4 G	Ⅲ	箱形	72	48	12		
S H	8	4 G	Ⅲ	横桶	68以上	50		内外	
S H	9	4 G	Ⅲ	箱形	46	28		人骨片遺存	
S H	10	4 G	Ⅲ	箱形	82	44	20	多量の骨遺存	規模大
S H	11	4 G	Ⅲ	箱形	53	26	14	六文銭 寛永通寶 3期	
S H	12	5 G	Ⅲ	箱形	63	30	8	六文銭 寛永通寶 2期	
S H	13	5 G	Ⅲ	箱形	53以上	43	12		
S H	14	4 G	Ⅲ	壱桶	底径	50		六文銭 寛永通寶 3期	北壁に係る
S H	15	4 G	Ⅲ	箱形	56	32		六文銭 寛永通寶 3期	漆塗木刀
S H	16	4 G	Ⅲ	壱桶	底径	52		S H15に切られる	骨片
S H	17	5 G	Ⅲ	箱形	棚方87	60	5以上	六文銭 寛永通寶 2期	
S H	18	5 G	Ⅲ	横桶	72	口径70		六文銭 寛永通寶 3期	頭位に「卍」墨書
S H	19	6 G	Ⅲ	箱形	59	37	13	櫛・漆桶副葬	
S H	20	5 G	Ⅲ	箱形	60	38	25	六文銭 寛永通寶	
S H	21	6 G	Ⅲ	箱形	70	34	12	六文銭 寛永通寶 3期	歯骨
S H	22	6 G	Ⅲ	箱形	43	43	15	方形の箱形	
S H	23	5 G	Ⅲ	箱形		計測不能		S H13と重複	材片のみ残
S H	24	4 G	Ⅲ	箱形		計測不能		S H15以前	茶碗、六文銭
S H	25	7 G	Ⅲ	箱形	80	43		底板上に木灰(炭)	六文銭 寛永通寶 3期
S K	26	6~7G	Ⅲ	土坑	55	155		円礫2個含む	棺桶埋葬跡カ
S H	27	5 G	Ⅲ	横桶	70	底径50		S H18と同形態	頭位に「○」の墨書
S H	28	6 G	Ⅲ	箱形	50	30		底板のみ	
S H	29	4 G	Ⅲ	箱形	60	30	26	S H8の下に検出	六文銭 寛永通寶 3期
S H	30	5 G	Ⅲ	箱形	62	32		S H18に切られる	六文銭・水注
S D	31	10G	Ⅲ	溝跡	450	20	5~10	古墳時代に帰属	南北走向
S H	32	5 G	Ⅲ	箱形	52	24	30	S H27真下に検出	六文銭 寛永通寶 3期
S T	33	2~3G	Ⅲ	壱穴	300以上	230以上	6以上	5世紀の一括遺物	西蔵寄りに初期竈
S P	34	4 G	Ⅲ	柱穴	径	40	20	古墳時代に帰属	
S P	35	4 G	Ⅲ	柱穴	径	30	10	古墳時代に帰属	
S D	36	10G	Ⅲ	溝跡	300以上	14	5	古墳時代に帰属	南北走向
S P	37	S T33	Y	柱穴	径	20	5	円形柱穴	
S K	38	4 G	Ⅲ	土坑	105	90	20	円形土坑	土師器破片
E k	39	S T33	Y	落込	(130)	(80)	5	円形落込	
S D	40	11~12G	Ⅲ	溝跡	320以上	15	8	円形土坑	土師器破片
S H	41	6 G	Ⅲ	箱形	64	30	28		

寛永通寶の分類 (参考)

西暦	1636~1659年	1668~1683年	1697~1747年	1767~1781年	1739~1745年
分類	1期 (古寛永)	2期	3期		鉄一文銭
備考					明和、天保、文久の再鋳銭

※日本出土銭総覧1996年版による



墓坑検出状況（西から）



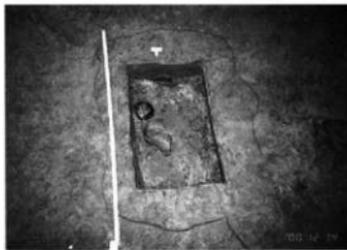
SH1検出状況（西から）



SH3~6検出状況（北から）



SH10検出状況（南から）



SH19検出状況（西から）



SH15検出状況（南から）



SH15・16検出状況（北から）



SH18検出状況（東から）



SH21検出状況（西から）



SH22検出状況（北から）



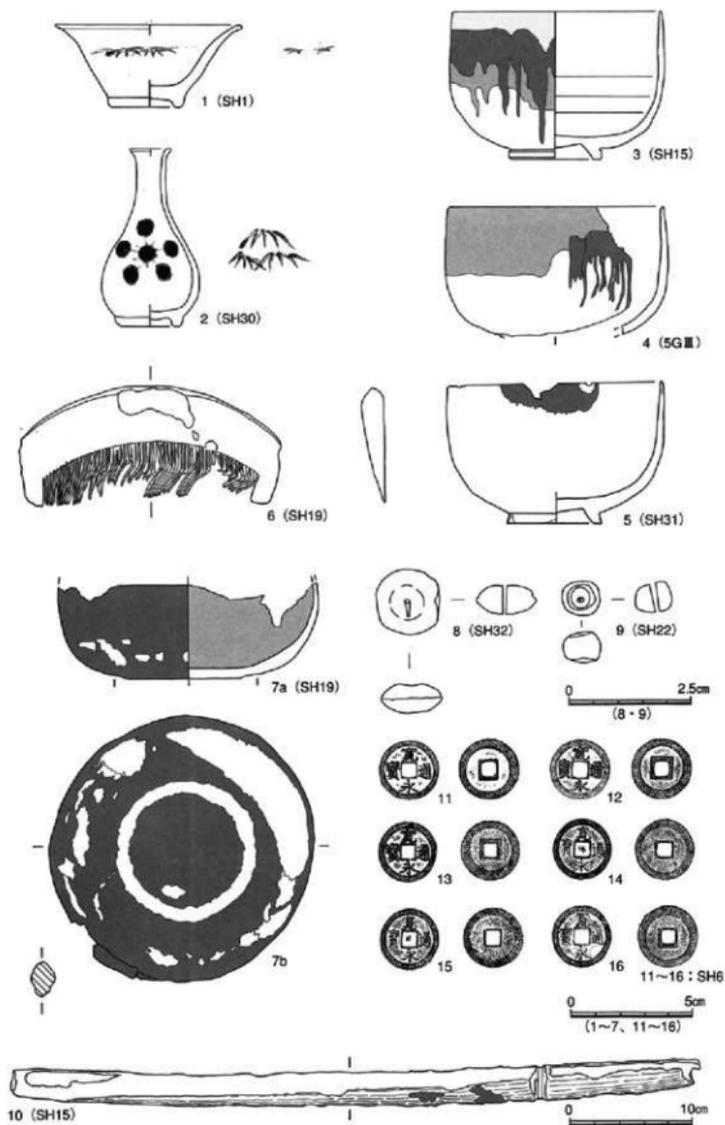
SH25検出状況（西から）



SH26検出状況（北から）



SH18・30検出状況（西から）



第59図 法江遺跡出土遺物実測図(1)

る相違と考えられた。棺の形態は、主体的な平箱形のほか、座棺（早桶）を立位に埋置するもの（SH16）、頭部を北に向けて横倒しに置くもの（SH8・27）、寝棺と推測される細長で規模のやや大きなもの（SK36）などが認められた。いくつかの重複から窺えるこれらの先後関係は、立桶（SH16）→平箱（SH15:直方体木棺）、寝棺（SH26→平箱（SH25）、平箱（SH30・32）→横桶（SH18・27）であり、総じて平箱棺や横桶棺は出現時期が新しいと判断できる。なお、棺北側の側板に頭位や埋設方位を表わすと考えられる墨書記号「卍」・「〇」の記されるもの3例が認められた。また、棺の内部には、黒色の木灰を多量に含む有機物層が数cmの厚さで堆積し、その中から火葬されたと考えられる骨片や歯骨、六道銭他の副葬品が見ついている。

副葬品（遺構一覽参照）では、ほぼ例外なく六道銭（寛永通寶）が見られたほか、肥前磁器の小壺（SH30:幕末期）や盃（SH1:18世紀代）、相馬焼の灰釉腰張椀（SH31:18世紀後半以降）、木製数珠（SH22・32）、櫛（SH19）、黒漆塗りの木刀（SH15）、外黒、内赤塗りの漆椀（SH19）などがある。これらの配置は、棺の北側に頭部と意識する在り方があったらしく、多くが、棺内の北西隅や中程よりやや上部に置かれるのが通例である。なお、寛永通寶は、一部に古寛永も見られたが、大半は、18世紀以降に鑄造されたⅢ期に分類される新寛永が圧倒的であった。

古墳時代の遺構と遺物

遺構では、ST33とした堅穴住居跡1基と、その付近に分布する土坑（SK38）や柱穴（SP34・35）および、烟跡と考えられる畝状に並走する細い溝跡など数条がある。

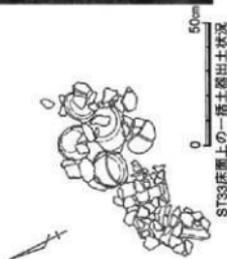
ST33は、一辺が4m前後の方形プランを有する堅穴住居と推測できるが、南東部の約半分が調査区外にかかるため全形は不明である。粘土による貼床などは見られないが、西壁の北側寄りに焼土と炭化物が70×90cm規模でひろがる炉跡を検出した。

炭化物は床面直上にひろがりをみせ、焼土はその上部に乗る形で堆積して床そのものが焼けた気配はない。これらから、この焼土施設は所謂カマドではなく、カマド出現前のものと考えられる。また、炉の西に近接して検出された土師器群は、位置やまとまりから意識的な配置と窺われ、住居座絶に伴う丁寧な集積と何らかの祭祀的行為とが推測される。

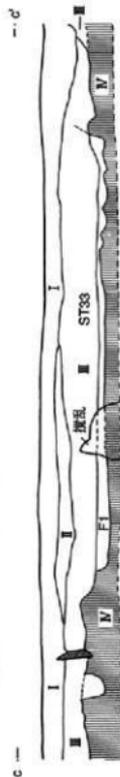
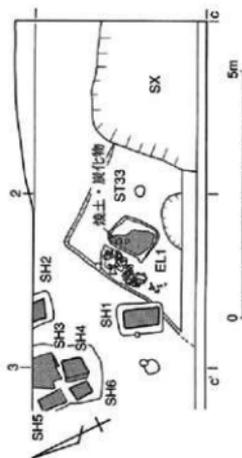
土師器は、坏・高坏・小甕・中甕・大甕・鉢形瓶（小）・甕形瓶（大）から組成され、その量比からみて一住居内で用いられたセット的内容と推測される。坏は丸底の椀形で、口縁部は直上か外傾を呈し、内外面共にヘラミガキが多用される。甕は胴部が梨形や膨らみのやや強い長胴形で、口縁が長く外反してのびる特徴が顕著である。ただし、中期中葉の土器組成からみて、当時には一般的な丸底甕や複合口縁を持つ大形甕などは見当たらない。器種の偏りと住居遺構の性格的差異などが想定される。



ST33 (Y) 西から



ST33床面上の一房土器出土状況

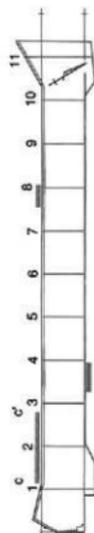


3 ST33住居跡断面図

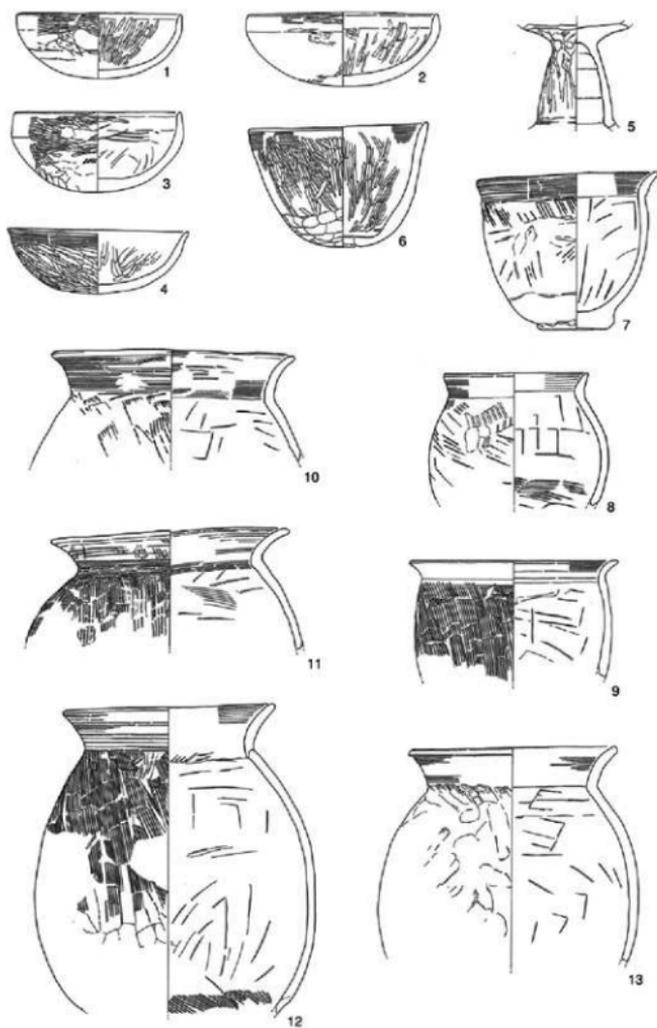
- I 黒褐色粘砂
- II 黒褐色粘砂
- III 黒褐色粘砂層シルト
- IV 黒褐色粘砂
- F1 黒褐色粘質塊砂
- Hue 10YR 3/2 (厚水田跡作土)
- Hue 10YR 3/5 (厚水田跡作土下の床土)
- Hue 10YR 3/4 (古墳時代の粘赤層)
- Hue 10YR 3/3 (不安定な年代の層一層)
- Hue 10YR 3/3 (ST33住居跡の層土、土器片・炭化物含む)



S K38検出状況 (北から)

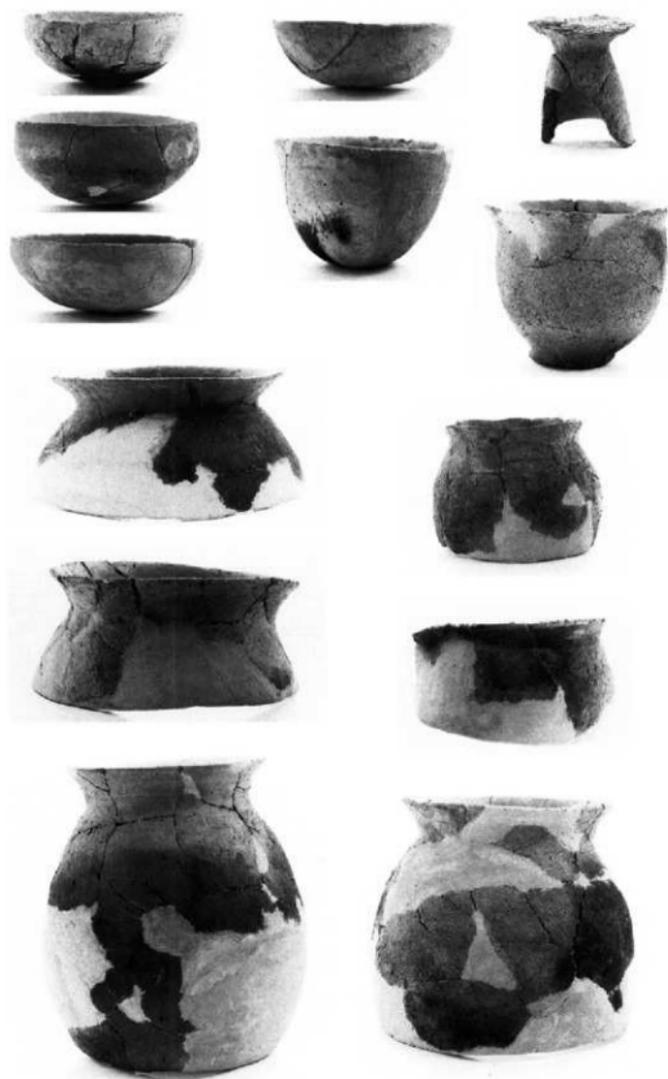


第60図 赤江遺跡検出遺構平面図・断面図



0 10cm

第61图 洪江遗址出土遗物实测图(2)



S-1:4

Ⅲ まとめ

平成12年度の遺跡詳細分布調査は、平成12年度以降に予定されている開発事業に先行して、遺跡の所在・範囲等を明らかにし、開発との調整を図ることを目的として実施した。また、記録保存のための小規模な発掘調査と立会い調査も行った。

1 調査遺跡数

調査遺跡数～64遺跡（表面踏査・試掘調査・発掘調査・立会い調査新規発見遺跡含む）
その他に調査遺跡数には含まれないが、登録遺跡外で遺跡の有無を確認するために試掘調査を実施したもの（調査の結果、遺跡とならないもの）や、表面踏査により各種開発事業予定地で抽出した遺跡可能性地（今後の試掘調査等で遺跡となるかを判断するもの）などについても調査を実施した。

2 新規発見遺跡、範囲の訂正、遺跡登録抹消

今年度の新規発見遺跡数 10遺跡

範囲の訂正、名称の変更等の措置が講ぜられた遺跡数 1遺跡

遺跡登録の抹消の措置をする遺跡数 なし

以下にその一覧を掲げて調査のまとめとする。

(1) 新規発見遺跡（平成12年度登録遺跡）

(遺跡名)	(所在地)
1 宮下遺跡	村山市大字白鳥字宮下
2 上福田遺跡	長井市九野本字上福田
3 小山遺跡	長井市九野本字小山
4 堀端遺跡	長井市中道一丁目
5 荒小屋遺跡	東置賜郡川西町大字大川字荒小屋
6 家の平遺跡	東田川郡温海町大字大岩川字家の平
7 箕輪遺跡	寒河江市大字箕輪字深町
8 山形元屋敷遺跡	山形市大字片谷地字元屋敷
9 ハケ森南遺跡	山形市大字小松原字ハケ森
10 金沢遺跡	山形市大字村木沢字金沢

(2) 範囲・名称の変更する遺跡

(遺跡名)	(変更内容)	(変更を必要とする文献名)
1 東畑A遺跡	範囲の訂正	平成9年3月『分布調査報告書24』

表-3 掲載遺跡位置図(2万5千分の1)

No	遺跡名	図幅名	No	遺跡名	図幅名
1	釜淵D	及位・羽前金山	30	堀端	長井
2	北小屋	米沢	31	上福田	長井
3	高在家	米沢	32	小山	長井・羽前小松
4	宮下	富並	33	岩木B	谷地
5	白山堂・奈良崎東	天童	34	二ツ橋	糠野目
6	法師森	谷地	35	渋江(試掘調査)	山形北部
7	片倉台	肘折	36	向河原	山形北部
8	寺台	古口	37	影沢北	山形北部
9	西山3	羽黒山	38	川端	寒河江
10	川代山B	羽黒山	39	北島	延沢
11	宮山坂A・F	吹浦	40	東屋敷	糠野目
12	たらの木代D	大綱	41	八幡西	羽前小松
13	遺下	寛砥	42	荒小屋	羽前小松
14	川口原	左沢	43	下花沢a	米沢東部
15	遺出	延沢	44	山形元屋敷	山形南部
16	上ノ山	宮宿	45	東畑B	赤湯
17	家の平	温海	46	八ヶ森・八ヶ森南	山形南部
18	藤島城跡	藤島	47	家根合	余目・藤島
19	高瀬山	寒河江	48	中台1・2・6	及位
20	赤森山	尾花沢	49	中川原C	新庄
21	志茂の手館跡	瀬見	50	二タ子A	升田
22	大日塚	酒田南部	51	山形城三の丸跡	山形北部・南部
23	四ツ塚	谷地	52	山田	鶴岡
24	田代	米沢	53	鶴ヶ岡城跡	鶴岡
25	糸畔b	米沢	54	箕輪	寒河江
26	白鷺墓地前	海谷	55	米沢城跡	米沢
27	家の平	温海	56	黒森	酒田南部
28	釜淵C	及位	57	金沢	山形南部
29	オクミ館跡	大沢	58	渋江(立会調査)	山形北部

報 告 書 抄 録

書 名	ぶんまちうきほうこくしょ 分布調査報告書(28)							
副 書 名								
シ リ ーズ 名	山形県埋蔵文化財調査報告書							
シ リ ーズ 番号	第202集							
編 著 者 名	長橋 至 佐藤庄一 阿部明彦							
編 集 機 関	山形県教育委員会							
所 在 地	990-8570 山形県山形市松波二丁目8番1号 TEL 023-630-2878							
発 行 年 月 日	西暦 2002年3月29日							
山 形 県 所収遺跡名	山 形 県 所 在 地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やまがね 家根合	やまがねけんひがしなごわてんしほ 山形県東田川郡余目 まちねあざなかまがねあざこりん 町大字家根合字五輪 とう 塔	06422	1706	38度 49分 42秒	139度 57分 7秒	20011127~ 1129 20011211 ~1213	325	県営ほ場整備 事業担い手育 成型 家根合地区
やまがねのまる 山形城三の丸	やまがねけんやまがねのしほやんまち 山形県山形市城南町 ほか	06201	1	38度 14分 53秒	140度 19分 57秒	20011010・ 1030-1116	88	都市計画街路 事業東原・村 木沢線城南陸 橋架け替え工 事
やまがね 山田	やまがねけんつるおかしねあざやま 山形県鶴岡市大字山 だあざあぶら 田字油田	06203	1655	38度 44分 16秒	139度 46分 31秒	20011205~ 1215	188	都市計画街路 事業 山田善宝寺線
あまがね 箕輪	やまがねけんあまがねのしほあざ 山形県寒河江市大字 あまがねのあざあまがね 箕輪字深町	06206	平成12年 度登録	38度 24分 50秒	140度 16分 20秒	20011219~ 1220	146	火山砂防事業 願行寺沢ダム 取合工事
よねがね 米沢城	やまがねけんよねがねのしほあざ 山形県米沢市南堀端 まち 町	06202	1216	37度 54分 16秒	140度 6分 46秒	20010911~ 0920	216	県立置賜広域 文化施設機械 棟建設

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
金沢	山形県山形市大字村木沢字金沢	06201	平成12年度登録	38度14分47秒	140度16分13秒	2002214	200	田園定住区住宅供給事業 村木沢地区
渋江	山形県山形市大字渋江字寺小路	06201	160	38度18分50秒	140度19分39秒	20011223～1227	154	主要地方道山形・羽入線道路整備事業
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
家根合	集落跡	平安時代	柱穴10、溝跡2、掘立柱建物跡1	平安時代の須恵器、赤焼き土器、土師器 縄文時代中期と考えられる土器片3、石匙1 計整理箱2箱分	掘立柱建物跡は比較的大い柱根が遺存していた。調査区の関係で全体像は不明だが、一般集落とは様相を異にする遺跡の性格も予想される。時期は9世紀初頭と考えられる。 また、過去の立会い調査を含め、縄文時代の遺物が散見されるため、平安時代の遺構面の下層または隣接地に縄文時代の遺跡の存在が想定される。			
山形城三の丸	城館跡	近世	階段工A区（掘立柱建物跡2） 階段工B区西（柱穴2、落込み2） 階段工B区東（柱列1、落込み5）	近世の陶磁器・近世の瓦等 計整理箱1箱分	山形城二の丸南西部の三の丸跡の調査。 遺構の大半は近世の所産と考えられる。			
山田	集落跡	古墳～中世	掘立柱列2 土坑2、大溝2	古墳時代の土師器 平安時代の土師器、須恵器 近世の陶器 計整理箱0.5箱分	幅約3mの南北方向の大溝は中世の居館の掘跡になるものと考えられる。			

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
箕輪	集落跡	平安時代	竪穴住居跡2 掘立柱列2	平安時代の須恵器、赤焼き土器、土師器 計整理箱2箱分	10世紀初頭の集落跡と考えられる。 鉄製品が出土したという古墳推定地も調査したが痕跡は認められなかった。
米沢城	城館跡	近世	二の丸堀跡 二の丸土塁乱杭	近世の陶磁器 木杭 整理箱1箱分	二の丸東側は南西隅で一旦西側に入り、さらに東門近くで鋭形に曲がるのが確認された。 堀跡では掘底に「障子掘り」の区画施設を検出した。
金沢	集落跡	平安時代	柱穴40、溝状遺構1、 土坑1	平安時代の須恵器瓦片、赤焼き土器瓦片 整理箱0.5箱分	調査対象地区は改田により削平を受けている。近現代の擾乱も認められる。 遺跡は、今回の対象地区の北側に広がるものと想定される。
波江	集落跡	古墳時代 江戸時代	竪穴住居跡1棟 墓跡群32基	古墳時代中期の土師器一括資料 六道銭（寛永通寶）、備前磁器 壺壺、相馬焼碗、 櫛、数珠、漆器 碗 整理箱3箱分	カマド導入以前の炉跡を持つ竪穴住居跡から古墳時代中期のまとまった土師器群が検出された。当該期の土器組成を知る上では良好な一括資料となる。 また、江戸後期から幕末期にかけて埋設された箱形棺は、早稲から箱棺へ変わる葬制の変遷を知る上で貴重である。

山形県埋蔵文化財調査報告書第202集

分布調査報告書(28)

平成12年度以降農林土木事業他関係遺跡
国土交通省事業関係遺跡
日本海沿岸東北自動車道関係遺跡

平成14年3月27日 印刷

平成14年3月29日 発行

発行 山形県教育委員会

印刷 山形印刷株式会社
